史　跡

上之国勝山館跡　XIV

――平成４年度発掘調査環境整備事業概報――

1993・3

上ノ国町教育委員会

史　跡

上之国勝山館跡　XIV

――平成４年度発掘調査環境整備事業概報――

1993・3

上ノ国町教育委員会

序

史跡上之国勝山館跡環境整備事業は、昭和54年の開始以来14年を経過しました。

この間の調査で百数十年の長期に亘る館の存続と各種の遺構、大量・多様な内容の遺物等を知り得るところとなりました。

私共の町では近い未来に本格的な史跡の整備を希望しており、本年度も館の北西部平坦面での遺構確認調査を実施しました。大型の井戸跡、銅細工の作業場跡などの発見があり、館の中の新しい一面を知ることができました。

勝山館調査研究専門員としてご指導をお願いしている朝尾直弘、網野善彦、石井進、榎森進、仲野浩の諸先生には、これまでの調査をもとにした勝山館跡の検討をはじめていただきました。

年度毎の調査結果に検討を重ね、史跡の整備を確かなものとして参りたいと願うところであります。そしてまた、平成10年開館を目途に計画中の「中世歴史資料館」の構成にも反映させて参りたいと思うところであります。

今年度も事業の実施にあたり、文化庁・北海道教育庁文化課をはじめとする関係機関、諸先生から数多くのご指導と格別のご高配を頂戴することができました。深く感謝申し上げるものであります。

今後もこの事業を継続して推進して参りたく思うところでありますが、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成５年３月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長　　和　泉　定　夫

本文目次

序
本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次
例言

Ⅰ　調査の概要……1
Ⅱ　遺構確認調査……4
　1　調査目的……4
　2　検出遺構と出土遺物……4
　(1)　位置・概要……4
　(2)　層序……4
　(3)　段・柱列他……4
　(4)　鍛冶・鋳造跡……4
　　a　焼土・溝・土壙……4
　　b　出土遺物　銅鋳造関係遺物
　　鉄製品　陶磁器……4
　(5)　竪穴状土壙・井戸跡……24
　(6)　掘立柱建物跡……24
　(7)　竪穴建物跡、土壙、溝……38
　(8)　柵列……44
　(9)　遺物……44
Ⅲ　小　括……51
Ⅳ　保存処理……53
Ⅴ　まとめ……53

挿図目次

第1図　遺跡地形図、調査区位置図……2
第2図　調査区範囲図……3
第3図　調査区土層堆積図①……5
第4図　調査区土層堆積図②……9
第5図　調査区遺構配置図……13
第6図　鍛冶・鋳造跡平面図
　遺物分布図1（銅鋳造関係）……15
第7図　鍛冶・鋳造跡平面図
　遺物分布図2（鉄製品）……18
第8図　鍛冶・鋳造跡平面図
　遺物分布図3（陶磁器）……19
第9図　鍛冶・鋳造跡出土遺物他……20
第10図　鍛冶・鋳造跡出土遺物……21
第11図　鍛冶・鋳造跡出土遺物……22
第12図　竪穴状土壙1平面図……23
第13図　竪穴状土壙・井戸出土遺物……24
第14図　井戸跡平面図……25
第15図　第1号建物跡想定図……27
第16図　第2号建物跡想定図……29
第17図　第3号建物跡想定図……31
第18図　第4号建物跡想定図……32
第19図　第5号建物跡想定図……33
第20図　第6号建物跡想定図……34
第21図　第7号建物跡想定図……35
第22図　第8号建物跡想定図……36
第23図　第9号建物跡想定図……37
第24図　第40、41、42号竪穴遺構平面図……39
第25図　第45号竪穴遺構平面図……41
第26図　第43、44、46、47号竪穴遺構平面図…42
第27図　竪穴遺構出土遺物……43
第28図　土壙7、9平面図他……45
第29図　土壙13、14、17平面図他……46
第30図　土壙18、20、31、42平面図他……47
第31図　土壙・柱穴出土遺物……49
第32図　調査区出土遺物……50

表目次

表1　鍛冶・鋳造跡出土遺物集計表（鍛冶・
　鋳造関連遺物、銅・鉄製品他）……17
表2　鍛冶・鋳造跡出土陶磁器集計表……22
表3　出土遺物集計表（陶磁器）……52
表4　出土遺物集計表（鉄製品他）……52

附図　調査区遺構配置図

写真図版目次

PL. 1　遺跡遠景・遺構検出状況
PL. 2　遺構検出状況他
PL. 3　遺構調査状況
PL. 4　段・柱・礎石列他
PL. 5　鍛冶・鋳造跡
PL. 6　鍛冶・鋳造跡
PL. 7　竪穴状土壙・井戸跡
PL. 8　井戸・土壙跡
PL. 9　遺構検出状況
PL. 10　遺構検出状況
PL. 11　遺構検出状況
PL. 12　遺構検出状況
PL. 13　遺構検出状況（土層堆積）
PL. 14　柵列跡

例　言

1　本書は史跡上之国勝山館跡の平成4年度発掘調査及び環境整備事業について概要をまとめたものである。

2　本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。

調査主体者　上ノ国町教育委員会
教育長　和泉定夫

指導　上ノ国町文化財保護審議会特別委員　北海道大学教授　足達富士夫、文化学院講師　鈴木亘
勝山館跡調査研究専門員　山形大学教授　仲野浩、東北学院大学教授　榎森進、国立歴史民俗博物館長　石井進、神奈川大学短期大学部教授　網野善彦、京都大学教授　朝尾直弘

主管　上ノ国町教育委員会文化課　課長　関登志夫、主事　笹浪甲衛
勝山館跡修景技術員（上ノ国町建設課長）山崎重任
発掘担当者　学芸員　松崎水穂
調査員　学芸員　斉藤邦典
調査補助員　山崎洋子　笠谷奈智子　竹内江美子、荒木志伸　伊藤瑞恵　加藤厚子　杉村春恵　南部みどり　平松左枝子（お茶の水女子大学）
作業員　浅原すみ　川合冴子　木村洋子　杉村八重子　薄田百合子　鈴木千春　住吉春子　竹内正章　出村喜作　長尾咲子　南部谷緑　沼沢国枝　野崎睦子　八田揚子　松本清　南谷澄子　佐藤恵利子

3　本書の編集は松崎、斉藤が協議の上松崎が行った。
本書の作成はⅠ、遺物観察・集計表を山崎、Ⅳを斉藤、他を松崎の分担で行った。

4　挿図の作成は担当者の指示により、補助員作業員が行った。挿図中の方位は真北を示す。

5　土層の土色は「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局）を、遺物の色調名は「標準色彩図表A」（日本色研事業株式会社）を用い、目測で比定した。

6　調査にあたっては次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。

文化庁記念物課　田中哲雄　加藤允彦　服部英雄　増淵徹　井上和人　西田健彦　北海道教育庁文化課　中村福彦　木村尚俊　種市幸生　大沼忠春　桧山教育局　牧野義則　伊賀治康　北海道大学　天野哲也　専修大学北海道短期大学　俵浩三　函館大学　坂田聡　弘前大学　斉藤利男　東京都立大学　峰岸純夫　昭和女子大学　平井聖　明治大学　矢島國雄　横浜市立大学　今谷明　名古屋大学　小谷凱宜　京都造形芸術大学　内田俊秀　大阪市立大学　河音能平　東洋文庫　渡辺兼庸　国立歴史民俗博物館　吉岡康暢　東京国立博物館　原田一敏　今井敦　国立民族学博物館　大塚和義　北海道開拓記念館　山田悟郎　小林行雄　帯広百年記念館　内田裕一　江戸東京博物館　斉藤慎一　ミュージアム知覧　上田耕　青森県教育庁文化課　上野茂樹　東京都埋蔵文化財センター　松崎元樹　小樽市教育委員会　石川直幸　秋田城跡調査事務所　小松正夫　松前町教育委員会　久保泰　八雲町教育委員会　三浦孝一　柴田信一　木古内町教育委員会　菅野文二　三上英則　木元豊　乙部町教育委員会　森広樹　今金町教育委員会　寺崎康史　浪岡町　工藤清泰　中里町教育委員会　斉藤淳　三春町教育委員会、仲田茂司、半沢紀

Ⅰ　調査の概要

1　調査

勝山館の主体部は三段の平坦面から形成されている。自然の谷と前後の空濠、柵列等によって囲まれた平坦面に建物が建てられている。

第一平坦面は正面空濠の真上の台地で約5,000㎡。二段目の平坦面は約7,000㎡。台地が狭まる第三平坦面は約3,500㎡である。

本年度の調査は一昨年、昨年に続き最も広い第二平坦面の北西部分約1,100㎡を実施した。

調査は5月25日～12月3日まで行った。調査方法は従来通り20m×20mの大グリッドを分割した4m×4mの小グリッド方式とした。又建物の概要を知るため柱穴配置略図1／40を作成し柱穴間の重複、覆土の状態を観察しながら柱穴を掘り下げた。尚焼土、土壙等は半裁しセクション図作成後掘り下げ土壙のサンプリングを行った。遺物取上げはⅠ、Ⅱ層は4m×4mのグリッドを4分割し、2m×2m毎の一括取り上げ方式とした。遺構面であるⅢ層は実測図を作成後、レベルを附して取り上げた。遺物取上げは主に縮尺1／40の平板実測、1／10、1／20その他による平板及び遣り方測量とした。

5月　調査区内グリッド設定、表土除去、(17M21、18M6、11、16）部分試掘、18M1区で砂利面確認。

6月　発掘予定区全面の表土除去作業を終える。17N25、18N5、17M21、18M1区で広範囲に砂利が分布し、主に鉄等の遺物の多いことが明らかになる。柱穴、土壙その他の遺構が検出される。柱穴配置略図作成。東西に3本のトレンチ、(17M25、18M5、10、15)、(17L21、18L1、6、11)（17L22、18L2、7、12）を入れ併せて土層観察実測を行う。

7月　大型土壙が三基検出されるが上部に多量の大礫が詰る土壙②は井戸跡と判る。

8月　井戸跡が深さ5m弱となりローソクで酸素状態を確認しながらの作業となる。8月24日お茶の水女子大生3名発掘協力のため来町。24日～29日迄作業に加わる。8月29日井戸跡完掘、深さ約5m50cm。8月31日お茶の水女子大生第2陣3名（8月31～9月5日）来町。

9月　竪穴№40～45まで検出。竪穴45には大量の炭化材がみられ、焼失倒壊したものと推される。

10月　竪穴45焼失炭化材の残存状態が良く、保存処理のための前段処理を行う。

竪穴46、47、溝1～17、土壙1～41検出。うち土壙31は径約100cm×深さ130cmとやや大型で今年度5個の類例をみる。10月26日土壙31をセクション実測後掘り下げたところ曲物が玉砂利の上に据えられる。井筒か？

11月　竪穴45の炭化材取上げ、土壙42～55検出。各竪穴より実測開始。11月12日発掘区全景写真撮影。11月29日実測、レベリング作業終える。

12月3日　埋戻し、用具点検、遺物、土壌サンプル等の運搬を終え終了。

2．基本層序

Ⅰ層　表土層、10YR3/3暗褐～10YR4/4褐シルト。草根多量。やや密。

Ⅱ層　館廃絶後の自然堆積層。10YR3/3暗褐～1010YR4/4褐シルト。やや密。炭化物、Os—aの混入。細分される。Os—a純層も含まれる。

Ⅲ層　館機能時の整地盛土層。10YR4/4褐～10YR5/8黄褐。密、ソフトローム粒、炭化物等多量に含有する。細分される。

Ⅳa層　縄文期以後より館が機能する直前までの自然堆積層。黒、シルト～7.5YR3/3暗褐、シルト。従来までのⅣb層はⅣa－1としⅣa層の中に含めた。

Ⅳb層　10YR6/6明黄褐色火山灰。やや密。

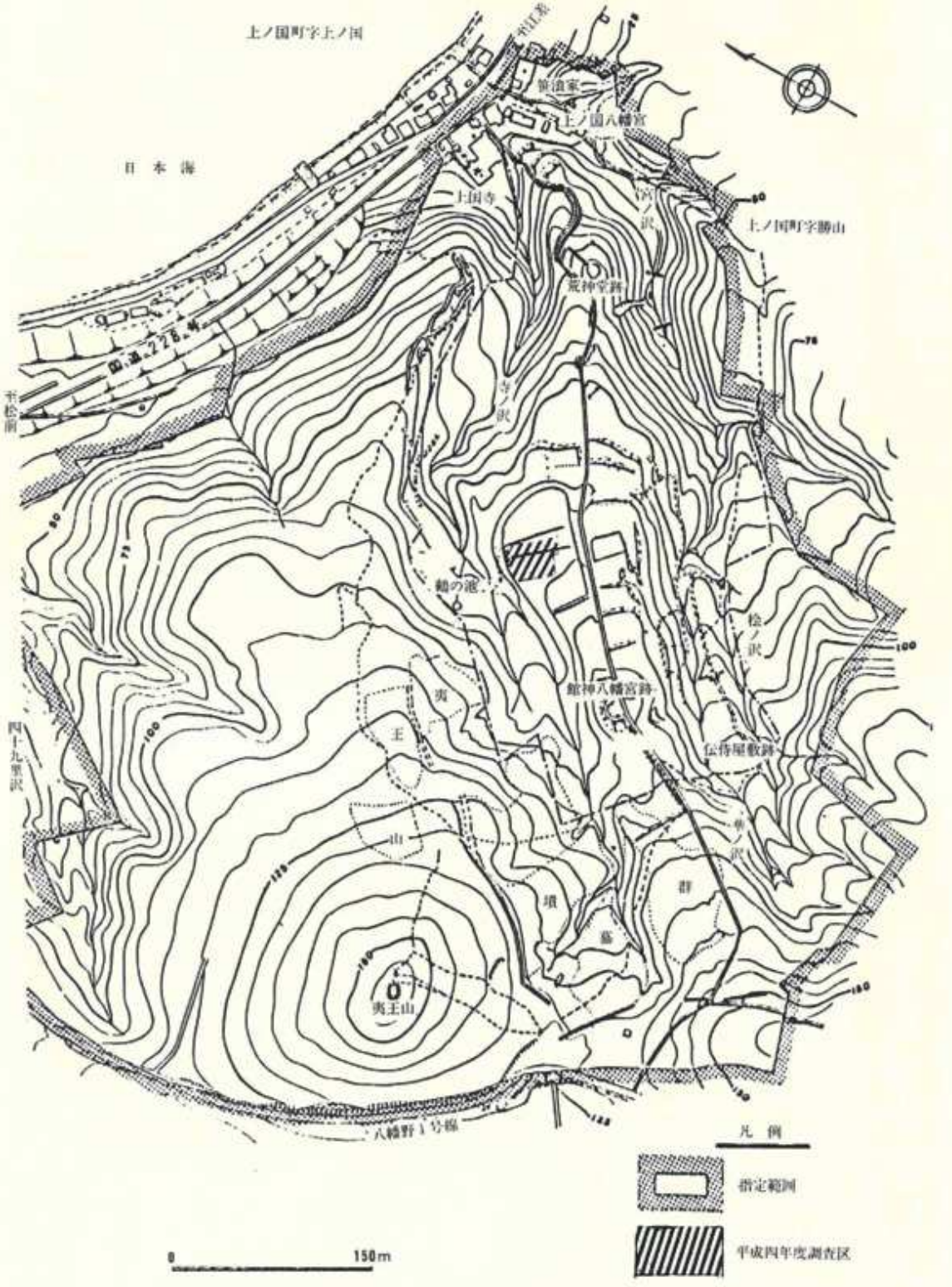
Ⅳc層　縄文期包含層。10YR4/6褐、シルト、やや密。

Ⅴ層　10YR5/4にぶい黄褐～10YR5/6黄褐、ソフトローム。

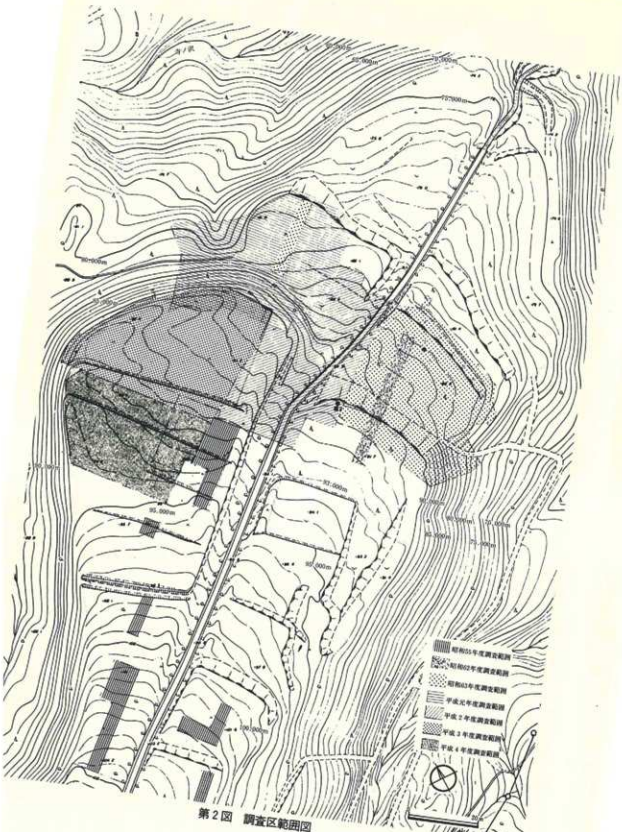
Ⅵ層　ハードローム。

3．保存処理

勝山館出土木製品等の保存処理を行った。



第1図　遺跡地形図、調査区位置図


昭和55年度調査範囲
昭和62年度調査範囲
昭和63年度調査範囲
平成元年度調査範囲
平成2年度調査範囲
平成4年度調査範囲

第2図　調査区範囲図

II　遺構確認調査

1　調査目的

平成3年度の調査によって"客殿"とも推される大型の建物跡が見つかったが、その敷地(地割)の南西界は調査区外と推され、建物規模等も一部曖昧なままとなった、この為今年度はこの大型建物跡の構えられる地割の範囲とその内部の構成、それに隣接する地割とそこでの建物構成その他を知ることを目的として調査を開始した。

2　検出遺構と出土遺物

(1)　位置・概要

平成4年度は前年度に引続き第二平坦面のうち館の主体部中央を縦貫する自然研究路（旧御代参道路）の北西中央部1,100㎡を調査の対象とした。北東は前年度調査区、南東は昭和55年度調査区に連続し、一部重複する。

調査区北東部で南東～北西方向の段とそれに併行する柱列が見られ、前年度調査区の建物跡が立つ敷地（地割）の境界と推された。この地割内からは銅鋳造を主とした（銅細工）作業場跡、竪穴状土壙、井戸跡等が見つかった。段・柵列の上、（南西側）に6区画程の地割面と一部それに跨り、8棟の掘立柱の建物跡、竪穴建物跡10基、土壙55基、地割を画する溝、掘立柱建物の柱穴等を検出した。又台地北西端には溝に柱を立てた柵列が前年度調査区から続いて検出された。

(2)　層　序

遺構の形成等を把えるべく調査区に縦横して土層観察面を設定し記録した(第3、4図)。又遺構は確認した時点で土層観察面を設け記録することとした。

(3)　段、柱列他

調査区北東部に南東～北西方向に0.2～0.8mの段差があり、段上南東半に5個の平な石からなる礎石列、その南西に中間に折れを持つ柱列が並ぶ。礎石列は6.6尺等間3.5間が検出できた（PL 4－2）。最北西部の礎石は井戸跡の肩にかかる為井戸の掘り上げ時には取りはずした(PL 4－1)。この礎石列に平行して焼土、炭化材が見られ(同－2)たが、その下位で上述の柱列の一部をなす柱穴が見つかっている。柱列は6.6尺等間で井戸を中心に南東へ6間、北西へ10.5間連続し、両者間は5.9尺の距離をもって直角に折れる。又やや北西よりの段直上に6個の石が踏み石状に並べられている。この段が前年度調査区に続く地割を画する段と推される。

(4)　鍛冶、鋳造跡（第6～8図）

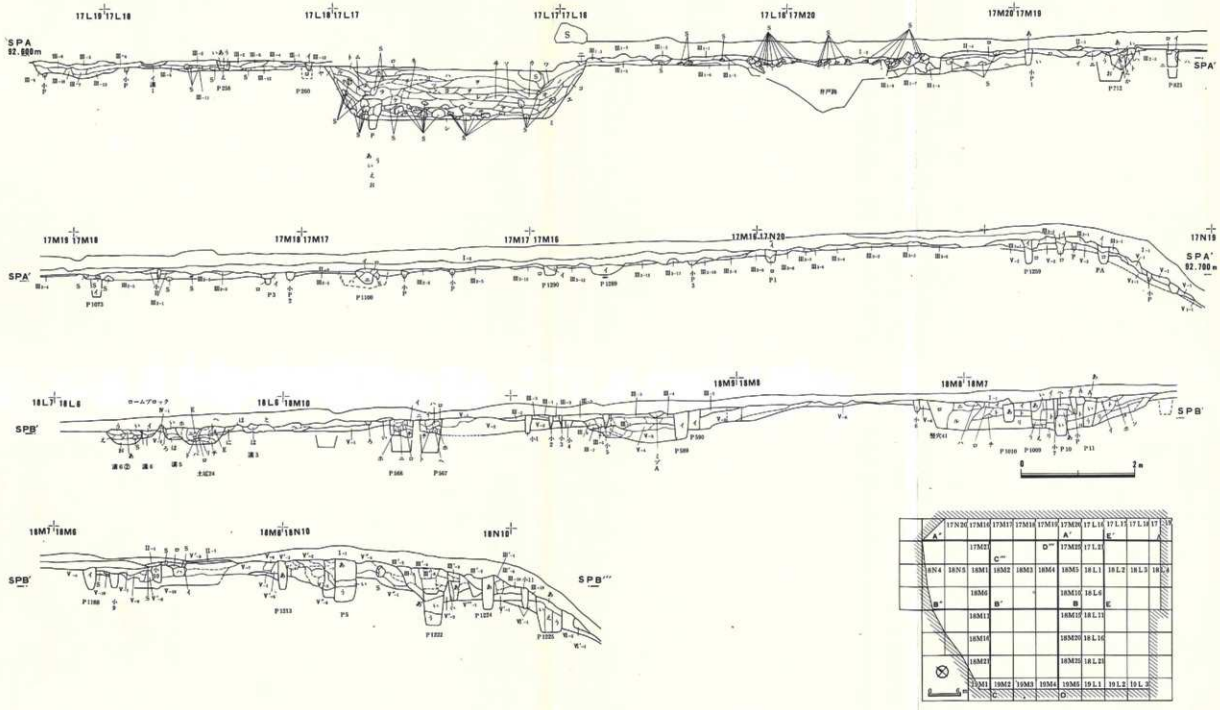
a 焼土・溝・土壙

調査区北の隅18N 5区周辺、段の直下に6×5.m程のL字形の低い一段があり、5×6m程の範囲に径2cm内外の小石（砂利）が10～20cm前後の厚さで堆積している。その中央南北方向に焼土層がみられ、北西寄り等に焼失材と思われる炭化物があった。砂利層の下位には先の段に沿った小柱穴、礎石かと推される偏平な石、踏石状の集石等が見られたが建物跡としてのまとまりは把え得なかった。砂利除去後の下面精査で土壙9と浅い溝が確認された。なお中央焼土層には炭化物等も含まれるが、砂利面下での赤変等は顕著ではない。

この一画で羽口、るつぼ、銅地金、八双金物他の銅製品、釘、小札他の鉄製品、陶磁器等が出土した。各々の出土位置はほぼ砂利層中に含まれ、層位的には区別することは難しく平面的な広がりもほぼ同じ様相を示している（第6～8図）。

b　出土遺物

銅鋳造関係遺物(第9図)：1は粘土製羽口。長軸10.5cm程、先端部径4×4.2cm、基部6.4×6.5cmと基部の開く円筒形でほぼ中央に同じく1.6×1.7、1.8×1.9cmで中間部がやや細くなる空気孔が穿たれる。先端平面部は熱変溶出し、気泡を生じている。基部平面は平滑に調整され、空気孔周囲が僅かに隆起する。体部は出土時下位の（地面に接していた）側面が暗灰褐色を呈し、上位が明るい肇色である。この上下に対する一側面に巾2.5、長さ5.5cm程の灰黒色の発色が見られる。体部は先端から2～3cm程の四周が熱変し、一部発泡しているが、上下が側方より幾分広く熱変し、気泡も多い。又基部を下に垂直にすると先端は下位側が0.5cm弱短い。側面基部直近に赤褐色の付着物が見られる。胎土に小石を噛む。2、3はるつぼである。2は径8cm、器壁1.1cmで口唇と底部中央は厚くなる、胎土に砂粒が含まれ、6×2cm前後の剥痕が数個みられる。内面口端まで赤褐・黒



第３図　調査区土層堆積図①

第3図SPA-A″（17L19〜17N19）南北ライン西壁土層

Ⅰ−1 10YR 5/4 にぶい黄褐　礫粒　ローム粒　C焼土粒
2 4/4 5/4 褐にぶい黄褐　〃　〃　〃　〃　玉砂利基盤礫
Ⅱ−1 4/4 5/4 褐、にぶい黄褐　〃　〃　〃　〃
2 4/4 3/4 〃、暗褐　〃　〃　〃　〃　砂利　火山灰少量
3 5/4 にぶい黄褐　C　砂利　火山灰多量　少しサラサラしている
4 3/4 暗褐　〃　小礫　火山灰60%
5 4/4 褐　〃　焼土粒微量　小礫　粗
6 3/4 暗褐　焼土粒　粗

Ⅲ−1 10YR 5/4 にぶい黄褐　礫粒　焼土粒　C少量　火山灰
2 4/4 4/6 褐　〃　〃　基盤礫　ややハード
3 4/4 〃　〃　〃　C少量
4 5/6 黄褐　〃　〃　〃　火山灰
5 4/4 4/6 褐　〃　焼土粒　C少量　〃
6 4/4 〃　〃　〃　基盤礫　〃少量
7 4/4 〃　〃　基盤粒
8 4/4 〃　〃　焼土粒基盤礫
9 4/4 〃　〃　（Ⅲ8）よりややハード
10 4/4 〃　〃　焼土粒微量（Ⅲ8）よりややハード
11 4/4 4/6 〃、暗褐　〃　〃　ローム少量
12 4/4 〃　〃　〃　C少量　火山灰
13 5/6 黄褐　〃　〃　〃　〃
Ⅲ1−1 4/4 褐　〃　C　玉砂利　土器　基盤礫20%
2 〃 〃　〃　〃　〃　小礫2〜3コ　〃
3 5/6 黄褐　焼土粒　基盤礫80%　中礫　ハード
4 4/4 褐　〃　C微量　土器1コ
5 4/4 〃　基盤粒　ローム粒　玉砂利　C微量　焼土粒　小礫3コ　ソフト
6 〃 〃　礫粒　〃　焼土微量　ハード
7 〃 〃　基盤粒　〃　玉砂利　土器　粘性あり
8 10YR 4/4 褐　C　ローム粒　玉砂利　土器　基盤粒　粘性あり
9 3/4 暗褐　C微量　基盤粒　粘性あり
Ⅲ2−1 4/4 3/4 褐、暗褐　基盤粒　焼土粒　C少量　ロームブロック　ややハード
2 4/4 〃　〃　〃　〃　ローム粒　基盤礫　ハード
3 4/4 〃　〃　焼土少量　C　ロームブロック　（Ⅲ2−5）よりソフト
4 4/4 〃　〃　焼土粒　〃　砂利　粘質　ハード
5 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃　基盤礫
Ⅲ3−1 〃 〃　〃　〃　C少量　ローム粒　砂利少量　ややソフト
2 4/4 〃　〃　〃　C　砂利
3 4/4 〃　礫粒少量　全面ローム　ハード
4 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C　砂利　火山灰少量
5 4/4 褐　〃　〃　C少量　砂利　ソフト
6 4/4 〃　〃　〃　ローム粒　〃　ややハード
7 5/4 にぶい黄褐　〃　〃　砂利多量
8 3/4 暗褐　ローム粒　〃　C　砂利　ソフト
9 4/4 4/6 褐　礫粒　〃　〃　全面ローム　粘質　ハード
10 4/4 〃　ローム粘質　〃　〃
11 4/4 4/6 〃　礫粒　C　全面ローム　ハード
12 〃 〃　〃　〃　ローム粒　ややハード

V−1 10YR 4/4 4/6 褐　粘質まじり　ロームブロック　湿ってやや団子状　やや粘
2 5/6 5/8 黄褐　〃　ややソフト　やや湿った土
Ⅵ−1 4/4 4/6 褐　C　焼土粒　全面粘土　ハード

土坑56イ 4/4 4/6 〃　礫粒　焼土粒　ローム粒　砂利　C多量　ややソフト
ロ 4/4 褐　〃　〃　〃　C　砂利がやや多い
ハ 〃 〃　〃　〃　〃　〃
ニ 〃 〃　〃　〃　〃　（イ）よりやや粘質
ホ 〃 〃　〃　〃　〃　〃　基盤粒　小礫少量　土器
ヘ 〃 〃　〃　ローム塊5%　〃　火山灰微量
ト 4/4 〃　〃　〃　全面粘質　ハード
P712 あ 3/4 暗褐　〃　ローム粒少量　C　ソフト
い 4/4 褐　〃　ロームブロック　〃　ハード
う 3/4 暗褐　〃　〃　〃　C（あ）よりハード
え 4/4 褐　〃　〃　〃　C砂利　（い）よりソフト
お 3/4 暗褐　〃　C多量　焼土粒　ソフト
か 〃 〃　〃　C砂利　〃　〃
き 〃 〃　〃　ローム粒　〃　〃　やや粘土
溝1 イ 4/4 〃　〃　焼土粒
P258 あ 4/4 褐　〃　〃　C　火山灰
い 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
う 4/4 4/6 褐、にぶい黄褐　〃　〃　〃　〃
え 4/4 褐　〃　〃　〃　〃
P825 イ 4/4 褐　〃　C
ロ 5/4 にぶい黄褐　〃　〃　ややソフト
ハ 〃 〃　ロームブロック　C多量　ハード
ニ 4/4 褐　礫粒　C　ローム粘質　ハード

P1073 イ 〃 〃　礫粒　焼土粒　ローム　粘質　ハード
P3 イ 4/4 〃　〃　C　ローム粒
ロ 3/4 暗褐　〃　〃　〃　（イ）よりややソフト
P1100 イ 4/4 褐　〃　〃　焼土粒
ロ 5/4 にぶい黄褐　〃　基盤礫　C　砂利　ハード
ハ 4/4 褐　〃　〃　〃　（イ）よりハード
ニ 〃 〃　〃　〃　〃　ローム粒　（イ）よりしまりあり　ハード
P1290 イ 3/4 暗褐　焼土粒
ロ 4/4 褐　礫粒　C少量　全面ローム　ハード
P1 イ 3/4 暗褐　焼土粒　C　ソフト
ロ 〃 〃　〃　〃　ロームブロック
P1259 イ 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　ローム粒　ややハード
ロ 5/6 黄褐　C微量　〃　ソフト
PA イ 4/4 褐　〃　〃　〃　焼土粒
ロ 5/6 黄褐　シルト　ソフト
溝 イ 5/4 にぶい黄褐　礫粒　C　焼土粒　ソフト
（樹）ロ 4/4 褐　ローム粒　〃　〃　（イ）よりややハード
溝か イ 4/4 〃　〃　礫粒　ソフト
小P1 あ 3/4 暗褐　〃　〃　砂利
い 〃 〃　〃　〃　〃　ソフト
2 〃 〃　C　〃　ソフト
3 3/4 〃　〃　焼土粒　基盤粒　C　火山灰

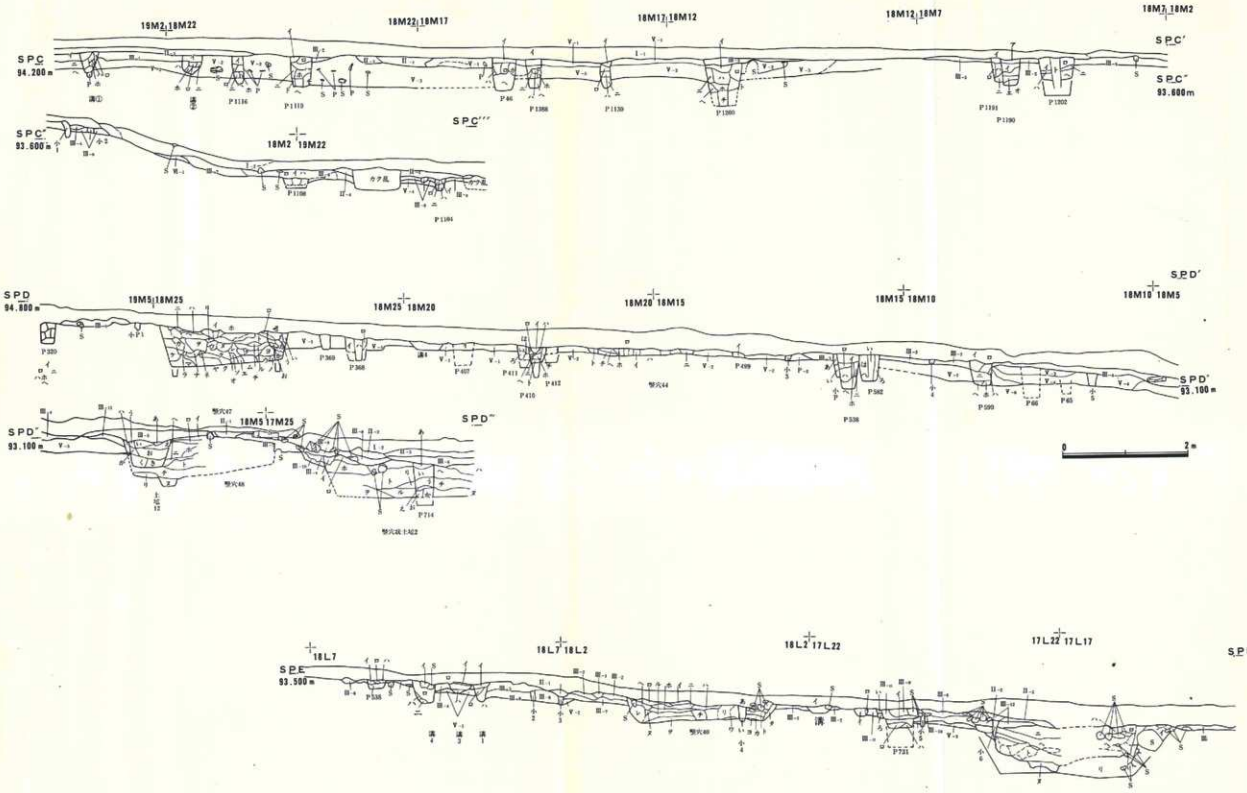
土坑1 イ 10YR 5/4 5/3 にぶい黄褐、褐　礫粒　焼土粒　C微量　基盤礫　基盤粒　ローム
ロ 5/6 黄褐　〃　〃　〃　〃　〃　〃
ハ 4/4 4/6 〃　褐　〃　〃　〃　〃　〃　〃
ニ 4/4 〃　〃　〃　C少量
ホ 3/3 3/4 暗褐　〃　〃　C微量　〃　〃　〃
ヘ 3/4 4/4 〃　〃　C少量　火山灰　〃　〃
ト 5/6 5/8 黄褐　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃
チ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃
リ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　火山灰少量　ローム多量
ヌ 3/4 暗褐　全面粘土質　C微量
ル 4/4 4/6 〃　礫粒　焼土粒　C少量　火山灰多量　〃　ハード
ヲ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃少量　〃
ワ 4/4 4/6 褐　〃　C微量　火山灰　基盤粒　ローム　ややハード
カ 4/4 〃　〃　焼土粒　C少量　〃　微量　ローム多量
ヨ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　火山灰少量　基盤粒　〃　ハード
タ 4/4 4/6 褐、黄褐　〃　〃　〃　〃
レ 3/4 暗褐　〃　〃　ローム　ややハード
ソ
ツ 4/4 3/4 暗褐、黄褐　〃　〃　〃　〃　〃
ネ 4/4 4/6 褐　〃　〃　火山灰　〃
ナ 4/4 4/6 〃　〃　〃　C少量　ローム少量　ややソフト
ラ 4/4 3/4 〃暗褐　〃　〃　〃　〃　ボロボロ
ム 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　〃
ウ 4/4 3/4 褐暗褐　〃　〃　〃　〃　ややソフト
ヰ 4/4 5/6 〃黄褐　〃　〃　〃　〃　ややハード
ノ 4/4 褐　〃　火山灰少量　ローム多量
オ 4/4 3/4 〃暗褐　〃　焼土粒　〃　〃　火山灰少量
ク 4/4 〃　〃　〃　C微量　ローム　粗
ヤ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃
マ 4/4 4/6 〃　〃　〃　C少量　〃　〃　ソフト
ケ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　火山灰　ボロボロ
フ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　ボロボロ
コ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　粗
エ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　ボロボロ
テ 4/4 3/4 〃暗褐　〃　〃　〃　〃　団子状
ア 4/4 〃　〃　〃　〃　ローム多量　基盤礫　ハード
サ 4/4 〃　〃　〃　〃　ローム　ソフト
キ 4/4 3/4 〃暗褐　〃　〃　〃　〃　ややハード
ユ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　ややソフト
メ 3/4 暗褐　〃　火山灰　〃　ボロボロ
ミ 4/4 3/4 褐暗褐　〃　〃　焼土粒　団子状
シ 4/4 5/6 〃灰黄褐　全面粘土質　団子状
P あ 4/4 3/4 〃暗褐　礫粒　焼土粒　C　火山灰　粗
い 〃 〃　〃　〃　（あ）よりC多い　粗　火山灰
う 〃 〃　〃　〃　C　（い）より火山灰多い
え 4/4 〃　〃　〃　〃　火山灰　粗

SPB−B‴（18L7・6〜18N10・9）南北ライン西壁土層

Ⅰ−1 10YR 4/4 褐　礫粒　焼土粒　C　ローム
Ⅱ−1 4/4 4/6 〃　〃　〃　C微量
Ⅲ−1 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃　ソフト
2 5/4 にぶい黄褐　〃　〃　〃　〃　しまりあり
3 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃　土器　ややしまりあり　ややハード
4 〃　〃　〃　〃　ソフト　〃
5 〃　〃　〃　〃　ややハード〃
6 7.5YR 4/4 褐　〃　焼土粒多量〃　ハード
7 3/4 暗褐　〃　焼土粒　〃　〃
Ⅲ′−1 〃　火山灰少量　焼土粒　粗　ソフト
2 4/4 4/6 褐　礫粒　焼土粒　C微量　ロームややソフト
3 3/4 暗褐　〃　焼土粒　C微量　〃　ソフト
4 4/4 4/6 褐　火山灰　〃　〃　〃　〃
5 3/4 暗褐　礫粒　〃　C少量　ややソフト
6 〃　〃　C微量　ローム　ソフト
7 〃　火山灰少量　焼土粒　C少量　ソフト
8 10YR 4/4 3/4 褐、暗褐　〃　〃　ローム多量　ソフト
9 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C微量　しめりあり　ソフト　土器まじり　火山灰少量
10 4/4 3/4 褐、暗褐　〃　〃　〃　ローム　粗　ハード
Ⅳ−1 10YR 3/4 暗褐　シルト
2 〃　礫粒　焼土粒　C少量　ローム
Ⅳ′−1 3/4 暗褐　シルトそのもの　ボタボタ　ソフト
Ⅴ−1 4/4 褐　全面ローム（Ⅴ−1〜6縄文包含層）
2 10YR 3/4 7.5YR 4/4 褐、暗褐　礫粒　焼土粒　C微量　土器　ハード
3 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃　〃
4 4/4 4/6 〃　褐　〃　〃　〃　〃
5 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　〃
6 〃　〃　〃　〃　ハード
Ⅴ′−1 3/4 暗褐　〃　〃　〃　土器まじり　火山灰少量　ややハード（Ⅴ′−1
2 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　ややソフト
3 4/4 褐　〃　〃　〃　〃　ややハード
4 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　ローム　基盤粒　粗　しめっぽい　ハード
5 5/6 黄褐　〃　〃　〃　粗　ハード
6 4/4 4/6 褐　〃　〃　〃　土器まじり　粗　火山灰　ハード
7 4/4 5/6 褐、黄褐　〃　〃　C微量　火山灰　ハード
8 4/4 褐　〃　〃　C少量　〃　〃　ハード
9 3/4 暗褐　〃　〃　C微量　〃　〃　〃
10 4/4 褐　〃　〃　〃　C少量　〃　〃　骨まじり　〃
Ⅴ″−1 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃（Ⅴ″−1〜6縄文竪穴覆土）
2 4/4 4/6 褐　〃　〃　〃　〃　〃　ソフト
3 2/3 黒褐　〃　〃　C多量　しめりあり　ソフト
4 4/4 3/4 〃褐　〃　〃　C少量　土器まじり　粗　ハード
5 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃　〃　骨まじり　ハード
6 〃　〃　〃　〃　ローム　しめりあり　ソフト
Ⅴ‴−1 3/4 暗褐　〃　C微量　ややソフト
2 〃　ローム　〃　〃　ソフト
Ⅵ−1 4/4 褐　密　シルト　ハード
2 〃　粗　〃　ソフト　しめりあり

溝6②あ 10YR 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C少量　ローム
い 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
う 2/3 黒褐　〃　〃　〃　〃
え 3/4 暗褐　火山灰　〃　〃　〃　骨まじり
お 5/4 にぶい黄褐　火山灰と砂まじり〃　ザラザラ
溝6①イ 3/4 暗褐　C少量　焼土粒　ローム　骨まじり
ロ 4/4 〃　C多量　〃
溝5 い 2/3 黒褐　礫粒　C微量　〃　火山灰
ろ 3/4 暗褐　〃　〃
は 4/4 3/4 褐、暗褐　ローム　C少量　砂まじり　ザラザラ
土坑24イ 2/3 黒褐　礫粒　焼土粒　C少量　ローム
ロ 3/4 暗褐　C微量　ローム
ハ 5/4 4/4 にぶい黄褐、褐
ニ 3/4 暗褐　〃　〃　礫粒
ホ 2/3 黒褐　〃　〃　〃　火山灰
ヘ 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C少量　骨まじり
ト 5/4 にぶい黄褐　火山灰　〃　C微量
チ 2/3 黒褐　〃
リ 3/4 暗褐　〃　〃　C少量　ローム
溝3 い 4/4 〃　礫粒　〃　C微量　〃
ろ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
は 4/4 〃　〃　〃　C少量　〃
に 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
ほ 3/4 2/3 暗褐、黒褐　〃　〃　〃　〃　火山灰
へ 2/3 黒褐　〃　〃　〃　〃　炭化物
と 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　火山灰
P568 イ 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃
ロ 5/6 4/4 黄褐、褐　全面ローム
ハ 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C少量　ローム
ニ 4/4 褐　〃　〃　〃　〃
ホ 5/6 4/4 黄褐、褐　〃　〃　ローム多量
ヘ 4/4 5/6 褐、黄褐　〃　〃　C微量　ローム
ト 5/6 4/4 黄褐、褐　全面ローム
P567 イ 3/4 暗褐　礫粒　焼土粒　C少量　ローム
ロ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
ハ 4/4 〃　〃　〃　C微量　〃
ニ 4/4 〃　〃　〃　〃　ローム多量
ホ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
ヘ 4/4 4/6 〃　〃　〃　〃　〃
ト 4/4 〃　〃　〃　C少量　〃
チ 4/4 〃　〃　〃　〃　〃
溝1 イ
竪穴41イ 4/4 褐　〃　火山灰微量　〃　〃　土器
ロ 3/4 暗褐　火山灰　〃　ハード
ハ 4/4 褐　〃　C微量　〃　〃
ニ 3/4 暗褐　焼土粒　火山灰微量　C少量　ローム多量　ソフト
ホ 4/4 褐　礫粒　火山灰　C微量　ローム多量　焼土粒
ヘ 4/4 〃　全面ローム　〃　しめりあり

竪穴41ト 3/4 暗褐　焼土粒　C少量　礫粒　ローム　火山灰　骨ソフト
チ 4/4 4/6 褐　ロームブロック　C少量　ハード
リ 4/4 〃　焼土粒　C微量　火山灰　ローム　土器　ややソフト
ヌ 4/4 4/6 〃　〃　C少量　ローム　ハード
ル 〃　〃　〃　〃　炭化物2cm1コ　ややハード
ヲ 3/4 暗褐　〃　〃　〃　火山灰　ややソフト
溝？ イ 4/4 褐　〃　C微量　〃
ロ 〃　〃　〃　〃
ハ 3/4 暗褐
P589 イ 〃　〃　C少量　礫粒　土器　ハード
P590 イ 〃　〃　〃　〃　骨　ハード
P1010 あ 4/4 褐　粗　〃　土器まじりソフト
P1009 あ 3/4 暗褐　火山灰　C少量　〃　ローム　ソフト
い 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　〃
う 4/4 褐　焼土粒　C微量　〃　骨少量　ややソフト
え 4/4 3/4 〃暗褐　ローム多量　〃　火山灰　骨しめりあり　ややハード
P11 あ 4/4 褐　ローム　C微量　火山灰少量　ソフト
い 3/4 暗褐　ローム多量　C少量　炭化物1cm1コ　しめりあり　ソフト
P10 あ 〃　礫粒　C微量　ローム　火山灰
い 〃 〃　C少量　〃　〃　ソフト
う 4/4 褐　〃　〃　焼土粒　土器　ローム　やや粗
P1188 イ 4/4 〃暗褐　〃　〃　〃　ややハード
P1213 あ 4/4 4/6 〃　〃　C微量　〃　ローム　ソフト
P5 あ 3/4 暗褐　〃　〃　〃　〃　土器まじり　ソフト
い 〃　〃　〃　〃　〃　ソフト
う 4/4 4/6 褐　〃　C少量　〃　〃　〃
P1222 あ 2/3 黒褐　焼土粒　C多量　〃　しめりあり
い 3/4 暗褐　〃　C少量　ローム　〃　〃
う 4/4 褐　〃　C微量　〃　〃
P1224 あ 3/4 暗褐　〃　C少量　〃　ややソフト
P1225 あ 4/4 褐　礫粒　〃　〃　土器まじり　粗ソフト
い 4/4 〃　〃　〃　〃　〃　しめりあり　ソフト
う 4/4 〃　火山灰　C微量　〃　しめりあり　ソフト
え 4/4 3/4 〃暗褐　礫粒　〃　〃　土器まじり　しめりあり　ソフト
小P1 4/4 〃　〃　C少量　焼土粒　ややハード
2 3/4 暗褐　〃　〃　〃　ローム　ソフト
3 〃　〃　〃　〃　〃
4 〃　〃　〃　〃　〃
5 〃　〃　〃　〃　やや明るい
6 4/4 4/6 褐　〃　〃　〃　ハード
7 3/4 暗褐　〃　C微量　火山灰　ソフト
8 〃　〃　〃　焼土粒　〃
9 4/4 褐　〃　C少量　〃　ハード
10 3/4 暗褐　〃　C微量　〃　〃
11 4/4 褐　〃　C少量　〃　ローム　土器まじり　ややソフト



第4図　調査区土層堆積図②

第４図　SPC～C″（18M２～17M22）東西ライン北壁土層

I－1 10YR 5/1 褐　　礫粒 焼土粒 全体 砂利少し粒
3 〃 〃 〃 〃 C微量 基盤粒
8 〃 〃 〃 〃 Ox.
II－2 〃 〃 〃 〃 〃
3 5/1 にぶい黄褐 〃 〃 〃 C少量
4 5/1 褐 〃 〃 〃 C微量
III－1 5/3 〃 〃 〃 〃 火山灰 玉砂利多量 密
3 5/1 〃 〃 〃 〃 土器
3 5/3 褐，にぶい黄褐 〃 〃 〃 火山灰 ややソフト
4 5/1 黄褐 〃 〃 〃 C微量（III 5）よりややハード
5 5/3 褐 〃 〃 〃 土器 ローム ややハード
6 5/1 〃 〃 〃 〃 やや粒
7 5/3 〃 ２明褐 〃 〃 〃 土器 ローム 火山灰微量
8 5/2 〃 〃 〃 〃 C少量 ローム やや粒
V－1 5/3 褐，にぶい黄褐 〃 〃 〃 火山灰 土器 C微量 シルト，ソフト　ややキ
2 5/1 褐 〃 〃 〃 C少量 ハード 〃 土器
3 5/1 〃 黄褐 〃 〃 〃 C微量 〃 土器
VI－1 〃 〃 〃 〃 〃 全層至砂利多量 基盤粒 青銅粒 ハード
満－1イ 10YR 5/2 褐　　礫粒 焼土粒 砂土ミ ぐずきず
ロ 5/1 褐 〃 〃 〃
ハ 5/2 褐 〃 〃 〃 （II）よりしまりより
ニ 5/1 〃 〃 〃 〃
ホ 5/1 褐 〃 〃 〃
ヘ 5/1 〃 〃 〃 ローム 土器 ハード
満－2イ 5/1 褐，暗褐 〃 〃 〃 C微量 火山灰
ロ 〃 〃 〃 〃 ややソフト
ハ 〃 〃 〃 〃 焼土粒 やや密
ニ 5/1 褐 〃 〃 〃
ホ 〃 〃 〃 〃 C微量
ヘ 〃 〃 〃 〃 （ヘ）よりやや明るい
P116 イ 〃 〃 〃 〃 やや密
ロ 〃 〃 〃 〃
ハ 〃 〃 〃 〃 ローム
ニ 〃 〃 〃 〃 〃 青銅
ホ 〃 〃 〃 C少量 シルト ソフト
ヘ 〃 〃 〃 礫粒 焼土粒 砂ミ じり
P119 イ 〃 〃 〃 〃 青銅 密
ロ 〃 〃 〃 〃 C微量 粒（イ）よりあい
ハ 〃 〃 〃 〃 粗 〃 （ロ）よりあい
ニ 〃 〃 〃 〃 青銅 〃 玉砂利 粗
ホ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヘ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 やや密
ト 〃 〃 〃 〃 〃 ハード
チ 〃 〃 〃 〃 粗
P 46 イ 5/3 褐，暗褐 C微量 〃 ややキ
ロ 5/1 〃 〃 〃 ローム C （イ）よりややハード
ハ 5/2 〃 〃 〃 〃
ニ 10YR 5/1 褐暗褐 ローム C少量 ソフト
ホ 5/3 褐 〃 〃 〃
ヘ 5/2 〃 ややキ ソフト
P126 イ 5/1 〃 〃 〃 土器 C微量
ロ 〃 〃 焼土粒 ローム ややソフト
ハ 5/3 暗褐 C少量 （ロ）よりソフト
ニ 〃 〃 ローム ソフト
ホ 〃 〃 〃 C少量 ソフト
ヘ 5/3 褐 土器 C微量 ややキ
P130 イ 5/3 暗褐 焼土粒 〃 ソフト
ロ 〃 〃 〃 砂利少量
ハ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 ローム 層性 ややハード
ニ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 （ハ）よりややハード
P 130 イ 〃 〃 〃 〃 ローム 砂利少量
ロ 〃 〃 〃 〃 〃 （イ）よりあい
ハ 〃 〃 〃 〃 〃 （イ）よりあい
ニ 〃 〃 〃 〃 ローム層ブロック 砂利少量 ソフト
ホ 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヘ 5/3 褐 〃 〃 〃 粗質
ト 5/3 暗褐 〃 〃 〃 ローム（ロ）より粗 ソフト
チ 5/1 〃 〃 〃 〃 ローム層ブロック 砂利少量 ソフト
P 119 イ 5/3 褐 〃 〃 〃 礫粒 火山灰微量
ロ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 ローム
ハ 5/1 〃 〃 〃 〃 礫粒 （イ）よりややソフト
ニ 5/3 褐 〃 〃 〃 （ハ）よりややハード
P 130 ア 5/3 暗褐 〃 〃 〃 火山灰微量 ローム
イ 〃 〃 〃 〃 砂利 〃 〃
ウ 〃 〃 〃 〃 〃 （イ）よりソフト
エ 5/3 褐 ローム少量 〃 ややキ ソフト
オ 5/3 暗褐 〃 〃 C微量 （エ）よりややハード
P 122 イ 5/2 〃 ローム 〃 焼土粒 礫粒 火山灰微量
ロ 5/3 褐 〃 〃 〃 粘土が多く粗性
ハ 5/3 暗褐 〃 C微量 ややキ ソフト
ホ 5/1 〃 〃 〃 焼土粒 （ロ）よりソフト
ヘ 〃 〃 〃 〃 （ハ）よりあい
ト 5/3 褐 〃 〃 〃 焼土粒 粘土質でややベースト状
チ 5/3 暗褐 〃 〃 ソフト
P 130 イ 5/3 褐 〃 〃 礫粒 焼土粒 ややソフト
ロ 5/3 〃 ローム多量 焼土粒 C少量
ハ 〃 〃 〃 〃 〃
P 118 イ 5/3 〃 〃 礫粒 土器 ややソフト
ロ 5/1 〃 〃 C少量 〃 〃
ハ 5/1 〃 〃 焼土粒 ローム C微量

SPD～D″（19M5～17M25）東西ライン北壁土層

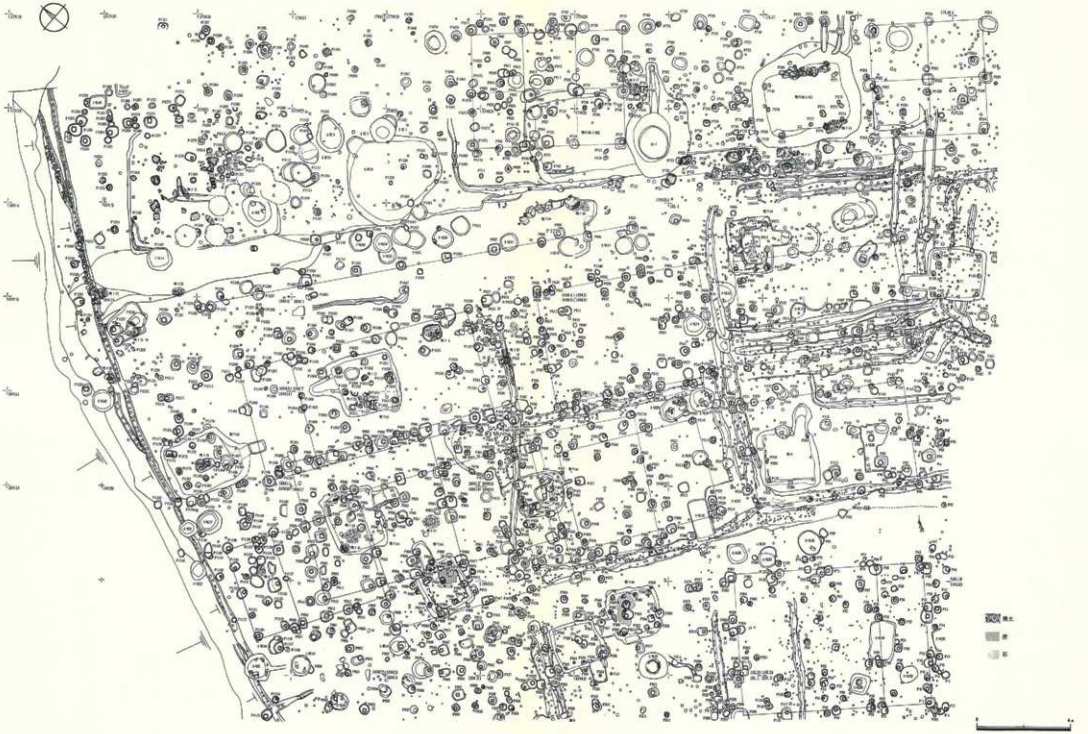
I－1 10YR 5/3 褐　　礫粒 焼土粒 ローム C 砂利 Ox.
2 〃 〃 〃 ロームブロック 砂利
II－1 〃 〃 〃 焼土微量
2 5/3 褐暗褐 焼土粒 ローム 火山灰少量 C
3 〃 〃 〃 〃 火山灰5％ 〃
III－1 5/1 〃 〃 〃 〃 火山灰 C少量 密 ややソフト
2 5/3 褐暗褐 〃 砂利少量 密
3 5/3 褐 ローム 焼土微量 やや固性あり
4 5/3 褐 C
5 〃 〃 〃 礫粒 焼土粒 C（III 9）よりややソフト
6 〃 〃 〃 〃 〃 C 火山灰 ややハード 密
7 〃 〃 〃 〃 ローム 基盤微
8 5/3 暗褐 〃 ローム粒 〃 5％
9 5/1 褐 〃 ロームブロック C少量 整性
10 〃 〃 〃 焼土粒 ローム C 基盤微 ソフト
11 〃 〃 〃 C
V－1 5/3 〃 〃 〃 基盤粒 しまりあり ややソフト
2 〃 〃 〃 〃 焼土粒 焼土粒 火山灰 ローム ハード
3 5/3 〃 〃 〃 砂利 〃 〃
4 5/3 暗褐 黄褐 〃 〃 〃 粗性ハード
5 5/3 褐暗褐 〃 C
6 5/3 〃 〃 〃 粗性 ローム粒
V－7 10YR 5/3 褐 〃 〃 砂利 C ハード

P 336 イ 10YR 5/1 暗褐　　焼土粒 C多量 ソフト
ロ 5/3 褐 〃 〃 C少量 ハード
ハ 5/1 暗褐 焼土粒 C多量 ローム 火山灰 ソフト
ニ 5/3 褐 〃 〃 C少量 ローム多量 火山灰 ソフト
ホ 5/1 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
ヘ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 ややソフト
整理7イ 10YR 5/1 〃　　礫粒 焼土粒 C微量 火山灰 ローム
ロ 5/3 褐 〃 ローム C少量
ハ 5/3 〃 〃 〃 焼土粒多量 C多量
ニ 5/1 〃 〃 〃 〃 C少量
ホ 5/1 暗褐 〃 ローム 〃
ヘ 5/3 〃 〃 〃 ローム少量 〃 焼土粒
ト 5/3 〃 〃 〃 焼土粒 全層ローム ハード
チ 5/1 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
リ 5/1 〃 〃 〃 〃 ローム多量
ヌ 5/1 〃 〃 〃 〃 C微量 全層ローム しまりあり ややボロボロ
ル 5/1 〃 〃 〃 〃 焼土粒 C少量 ローム多量
ヲ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 全層ローム ハード
ワ 5/3 暗褐，黒褐 〃 〃 〃 ローム
カ 5/3 褐 〃 〃 〃 C微量
ヨ 5/3 暗褐 〃 〃 C微量 全層ローム ハード
タ 5/3 〃 暗褐 〃 焼土粒 C土ローム多量 ＳＣ少 しまりあり
レ 5/3 〃 〃 〃 C多量 ローム土じり 焼土粒 砂利 ややハード
ソ 5/3 〃 〃 〃 C少量 ローム多量 しまりあり
ツ 5/3 暗褐 〃 〃 C多量 ローム多量 〃 ややボロボロ ソフト
ネ 5/3 〃 〃 〃 礫粒 C少量 ローム ソフト
ナ 5/3 褐 〃 〃 〃 全層ローム ハード
ラ 5/3 暗褐 〃 〃 C少量 ローム しまりっぽい ややソフト
ム 5/3 〃 〃 〃 礫粒 C少量 焼土粒 全層ローム しまりあり ややソフト
ウ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 ローム ややハード
ゐ 5/3 〃 〃 〃 〃 全層ローム しまりあり ソフト
ノ 5/3 〃 〃 〃 全層ローム ハード
オ 5/3 暗褐 〃 〃 C少量 ローム しまりあり ソフト
ク 5/3 〃 〃 〃 全層C 〃 焼土粒 しまりあり ソフト
ヤ 5/3 暗褐 〃 C少量 ローム多量 しまりあり 〃
マ 5/3 褐 〃 〃 全層C 〃 ハード
ケ 5/3 暗褐 〃 〃 ローム少量 ソフト
整理7ロ 10YR 5/3 暗褐　　礫粒 焼土粒 C微量 ローム
い 〃 〃 〃 〃 ローム多し 〃 ハード
ろ 5/3 褐 〃 〃 〃 〃 〃 ややハード
え 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 ややソフト ボロボロ
お 〃 黒褐 原木のもの 〃 〃 〃
か 5/3 褐，暗褐 〃 〃 〃 ローム（ホ）よりC少し多い
P 308 イ 5/3 褐 C少量 全層ローム 火山灰微量 ハード
ロ 5/3 〃 C少量 〃 〃 〃
ハ 5/3 暗褐 C少量 焼土粒 ローム 基盤粒 ややソフト
満4 イ 5/3 〃 〃 〃 〃 砂ミじり 礫粒 シルト
P 407 イ 5/3 褐 C微量 〃 〃 ハード
P 411 い 5/3 暗褐 C少量 〃 〃 基盤粒 火山灰 ややハード
ろ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃
は 5/3 〃 〃 〃 〃 〃
P 410 イ 5/3 〃 C微量 〃 〃 火山灰
ロ 5/3 〃 〃 〃 〃 （イ）よりやや軟い
ハ 5/3 〃 〃 〃 〃 （ロ）よりやや明るい
ニ 10YR 5/1 暗褐 焼土粒 C微量 ローム 火山灰
ホ 5/3 〃 〃 〃 ローム多量 〃
ヘ 5/3 〃 〃 〃 焼土粒 全層ローム
ト 5/3 〃 〃 〃 C少量 ローム 火山灰 しまりあり ソフト
チ 5/3 暗褐 〃 〃 全層ローム ハード
リ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 火山灰 しまりあり ソフト （ボ）よりローム多く明るい
P 413 あ 5/3 褐 〃 〃 〃 ローム ややハード
整理4イ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 ソフト
ロ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
ハ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ニ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 ソフト
ホ 5/3 褐 〃 〃 焼土質 ハード
ヘ 5/3 黒褐 〃 C微量 ローム 火山灰
ト 5/3 暗褐 C少量 焼土粒微量 ローム 火山灰
チ 〃 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃

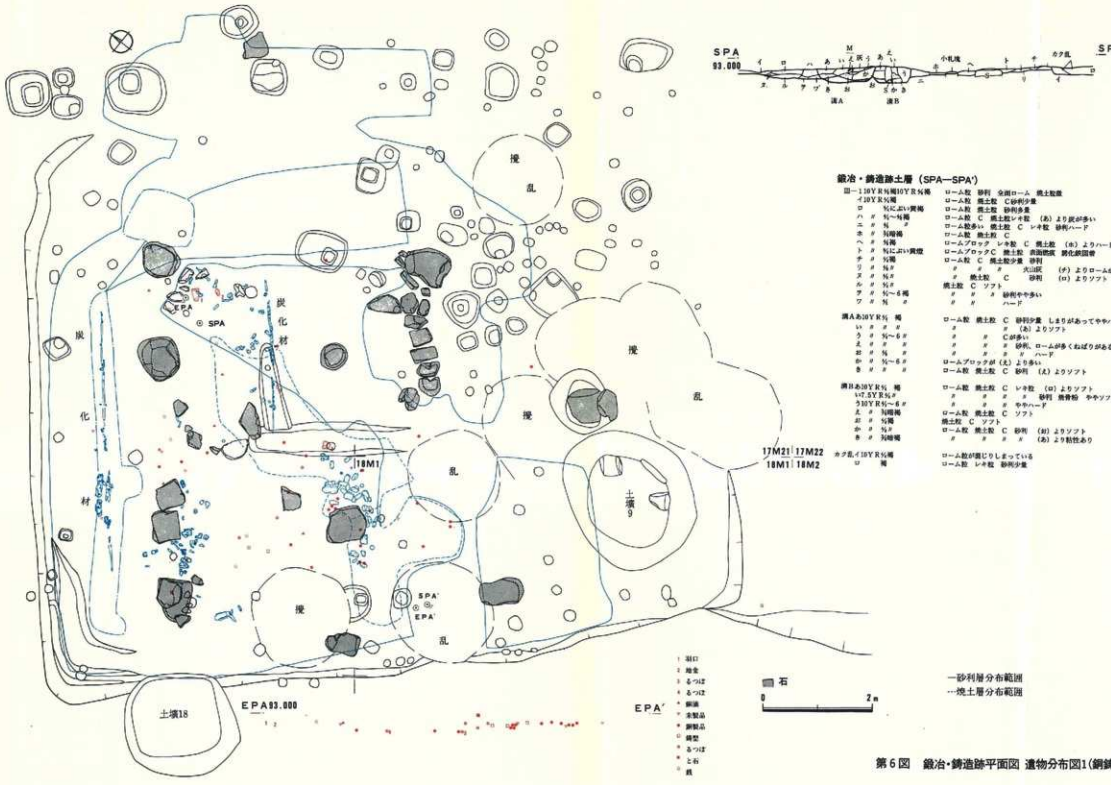
P 499 イ 5/3 褐　　C微量 焼土粒 砂利 火山灰 ややソフト
P 538 イ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 火山灰
ロ 5/3 褐 焼粒微量 ローム
ハ 5/3 暗褐 礫粒 C ローム
ニ 〃 〃 〃 〃 〃
ホ 5/3 黒褐 〃 〃 〃
ヘ 5/3 褐 〃 粗性あり E 礫 すり鉢
P 583 い 5/3 暗褐 ローム 基砂利 C微量
ろ 5/3 〃 ローム粒 30％ C
は 〃 〃 50％ 〃
P 599 イ 5/3 暗褐 焼粒 焼土粒 ローム粒
ロ 〃 〃 〃 〃 （イ）よりソフト
ハ 〃 〃 〃 〃 〃
ニ 〃 〃 〃 〃 火山灰
ホ 〃 〃 〃 〃 （ニ）よりハード
土址3 あ 5/3 褐 〃 〃 〃 ロームブロック
い 5/3 暗褐 〃 〃 〃 基盤微
う 〃 〃 〃 〃 〃 （あ）よりシルトが少なくややソフト
え 〃 〃 〃 〃 〃
お 〃 〃 〃 〃 C 基盤微 ローム粒 （あ）より粗
か 〃 〃 〃 〃 〃 （あ）よりシルト分が少なくややソフト
き 5/3 褐 〃 〃 〃 〃
く 5/3 〃 〃 〃 〃 （お）より粗
整理4ロ 5/3 褐 〃 〃 〃 全層粘土質
ロ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 焼土粒
ハ 5/3 褐 〃 〃 〃 基盤微 ローム粒 ややハード
ニ 5/3 〃 〃 〃 〃 46％
ホ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 ややソフト
ヘ 5/3 褐 〃 〃 〃 （ニ）よりソフト
ト 〃 〃 〃 〃 〃 ローム粒微量 （ヘ）よりややハード
チ 〃 〃 〃 〃 〃 ややキ ソフト
リ 5/3 褐 〃 〃 〃 〃
ヌ 10YR 5/1 暗褐 〃 〃 〃 〃
整理6イ 5/3 褐 〃 〃 〃 〃 ハード
土址7 ロ 5/3 暗褐 焼土粒 ソフト 〃 〃 火山灰 基盤粒
ハ 〃 〃 〃 〃 焼粒 焼土粒 C
ニ 〃 〃 〃 〃 〃 ソフト
ホ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
ヘ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ト 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
チ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
リ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ル 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヲ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ワ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
カ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヨ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
タ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
レ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ソ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ツ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 〃
ネ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ナ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ラ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ム 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ウ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ゐ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ノ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
オ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ク 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヤ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
マ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ケ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
フ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
コ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
エ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
テ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ア 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
サ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
キ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ユ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
メ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ミ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
シ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ヒ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
モ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
セ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ス 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ン 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃

SPE～E′（18L７・２～17L22）東西ライン北壁土層

I－1 10YR 5/3 褐暗褐　　礫粒 焼土粒 ローム粒 C 砂利
II－1 5/3 褐暗褐 シルト 火山灰
2 5/3 暗褐 礫粒 焼土粒 〃 C多量 ややハード
3 5/3 褐 〃 〃 〃 〃 基盤微（イ）よりソフト
III－1 5/3 〃 〃 全層ローム ハード
2 5/3 〃 〃 礫粒 焼土粒 ローム 〃 〃
3 〃 〃 〃 全層ローム 砂利少量 C ハード
4 5/3 暗褐 ローム粒 焼土粒 火山灰 密
5 5/3 褐 〃 〃 礫粒 C ハード
6 5/3 暗褐 〃 〃 〃 焼土粒 ハード
7 5/3 褐 〃 〃 〃 C 〃 （III 2）よりハード
8 〃 〃 砂利 〃 〃 （III 3）よりソフト
9 5/3 暗褐 焼土粒 〃 C多量 ローム粒 〃
10 5/3 褐 〃 〃 C 〃 〃 ややソフト
11 5/3 〃 〃 〃 C多量 〃 〃
12 5/3 褐 〃 〃 〃 基盤粒 全層粘土質ハード
V－1 5/3 黄褐 火山灰少量 密 ハード
2 5/3 〃 ねばりあり
3 〃 〃 〃 〃 〃
P 538 イ 5/3 暗褐 ローム粒 C ソフト
ロ 〃 〃 〃 ロームブロック C ハード
ハ 〃 〃 焼粒 ローム粒 C ややソフト
ニ 〃 〃 〃 ロームブロック C
満4 イ 5/3 褐 礫粒 焼粒 火山灰 ローム粒
ロ 5/3 〃 C 〃 〃 〃 （イ）よりソフト
ハ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 ややハード
ニ 〃 〃 〃 〃 〃 ソフト
満3 イ 5/3 褐 礫粒 C^{h} 〃 〃 焼土粒 （ロ）よりハード
ロ 5/3 暗褐 〃 〃 〃 〃 ソフト
ハ 5/3 褐 〃 〃 〃 ロームブロック 焼土粒 ハード
満1′ イ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 （イ）よりハード
ロ 10YR 5/1 暗褐 礫粒 C 全層ローム
〃 イ 5/3 褐 〃 焼土粒 ローム粒 C 砂利
〃 イ 5/3 暗褐 〃 焼土粒 ローム粒 C 火山灰 ソフト
ロ 〃 〃 〃 ロームブロック 炭化？
満 い 5/1 にぶい黄褐 〃 〃 〃 〃 ハード
ろ 5/3 褐 礫粒 ローム粒 （い）よりややソフト
P 731 イ 5/3 〃 〃 焼土粒 C少量 ロームブロック
ロ 5/3 黄褐 〃 基盤微 C 〃
ハ 〃 〃 〃 ロームブロック C （ロ）よりねばりあり
小P 1 5/3 暗褐 〃 ローム粒 C 砂利 火山灰
2 5/3 〃 〃 〃 〃 焼土粒 砂利
3 5/3 〃 〃 火山灰微量 〃
小P 4 イ 5/3 暗褐 ローム粒 焼土粒 C 火山灰
ロ 〃 〃 〃 〃 〃
5 〃 〃 〃 焼粒 焼土粒 石 C
6 〃 〃 〃 〃 〃 砂利 C多量
整理4イ 10YR 5/3 暗褐 ローム粒 焼土粒微量 C
ロ 5/3 〃 〃 〃 C ロームブロック 火山灰
ハ 5/3 褐 〃 〃 〃 砂利 火山灰
ニ 5/3 黄褐 砂利 全層ローム ハード
ホ 5/3 褐 ローム粒 焼土粒 C ロームブロック
ヘ 5/3 黄褐 C少量 全層粘土 ハード
ト 5/3 褐 ローム粒 焼土粒 C 粘土粒
チ 5/3 暗褐 〃 砂利少量 〃
リ 5/3 暗褐 〃 焼土粒 〃 〃 砂利 火山灰
ヌ 5/3 黄褐 焼粒少量 〃
ル 5/3 暗褐 ローム粒 焼土粒 C ロームブロック
ヲ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 炭C砂
ワ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
カ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 砂利
ヨ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ねばりあり
タ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ねばりあり
レ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ねばりあり
ソ 5/3 褐 〃 〃 〃 〃 〃
ツ 5/3 暗褐 焼粒 焼土粒 ローム粒 ソフト
整理5イ 10YR 5/3 暗褐 ローム粒 焼土粒 火山灰多量
ロ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 〃
ハ 5/3 にぶい黄褐 〃 C少量 小礫2～3 C
ニ 5/3 褐 C微量 〃 ローム ややハード
ホ 5/3 黄褐 焼粒 〃 中礫1コ ローム ややハード
ヘ 5/3 褐 〃 〃 ローム粒 C 火山灰 ソフト
ト 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 基盤微 ソフト
チ 5/3 〃 〃 〃 〃 〃 （ヘ）よりハード
リ 5/3 褐 〃 火山灰少量 基盤微 全層粘土質 ハード



第５図　調査区遺構配置図



鍛冶・鋳造跡土層（SPA—SPA'）

ロ—10YR½褐10YR½褐	ローム粒 砂利 全面ローム 焼土粒微	
イ10YR½褐	ローム粒 焼土粒 C砂利少量	
ロ ½に近い黄褐	ローム粒 焼土粒 砂利多量	
ハ 〃 ½～½褐	ローム粒 C 焼土粒レキ粒 (あ) より炭が多い	
ニ 〃 ½ 〃	ローム粒多い 焼土粒 C レキ粒 砂利ハード	
ホ 〃 ½暗褐	ローム粒 焼土粒 C	
ヘ 〃 ½褐	ロームブロック レキ粒 C 焼土粒 (あ) よりハード	
ト 〃 ½に近い黄褐	ロームブロックC 焼土粒 表面地区 焼化跡固有	
チ 〃 ½褐	ローム粒 C 焼土粒少量 砂利	
リ 〃 ½〃	〃 〃 〃 大山砂 (ず) よりロームが多い	
ヌ 〃 ½〃	〃 焼土粒 C 砂利 (ロ) よりソフト	
ル 〃 ½〃	焼土粒 C ソフト	
ヲ 〃 ½～6褐	〃 〃 〃 砂利やや多い	
ワ 〃 ½ 〃	〃 〃 ハード	
溝A赤10YR½ 褐	ローム粒 焼土粒 C 砂利少量 しまりがあってややハード	
い 〃 〃 〃	〃 〃 (あ) よりソフト	
う 〃 ½～6〃	〃 〃 C砂多い	
え 〃 〃 〃	〃 〃 〃 砂利、ロームが多くねばりがある	
お 〃 ½ 〃	〃 〃 〃 〃 ハード	
か 〃 ½～6〃	ロームブロックが (え) よりあい	
き 〃 〃 〃	ローム粒 焼土粒 C 砂利 (え) よりソフト	
溝B赤10YR½ 褐	ローム粒 焼土粒 C レキ粒 (ロ) よりソフト	
いC.5YR½〃	〃 〃 〃 〃 砂利 焼骨粉 ややソフト	
う10YR½～6〃	〃 〃 〃 ややハード	
え 〃 ½暗褐	ローム粒 焼土粒 C ソフト	
お 〃 ½褐	焼土粒 C ソフト	
か 〃 ½〃	ローム粒 焼土粒 C 砂利 (ロ) よりソフト	
き 〃 ½暗褐	〃 〃 〃 〃 (あ) より粘性あり	
カク乱イ10YR½褐	ローム粒が固じりしまっている	
ロ 褐	ローム粒 レキ粒 砂利少量	

1 溝口
2 地業
3 るつぼ
4 るつぼ
5 銅滴
6 金製品
7 銅製品
8 鋳型
9 るつぼ
10 と石
11 鉄

第6図 鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図1(銅鋳造関係)

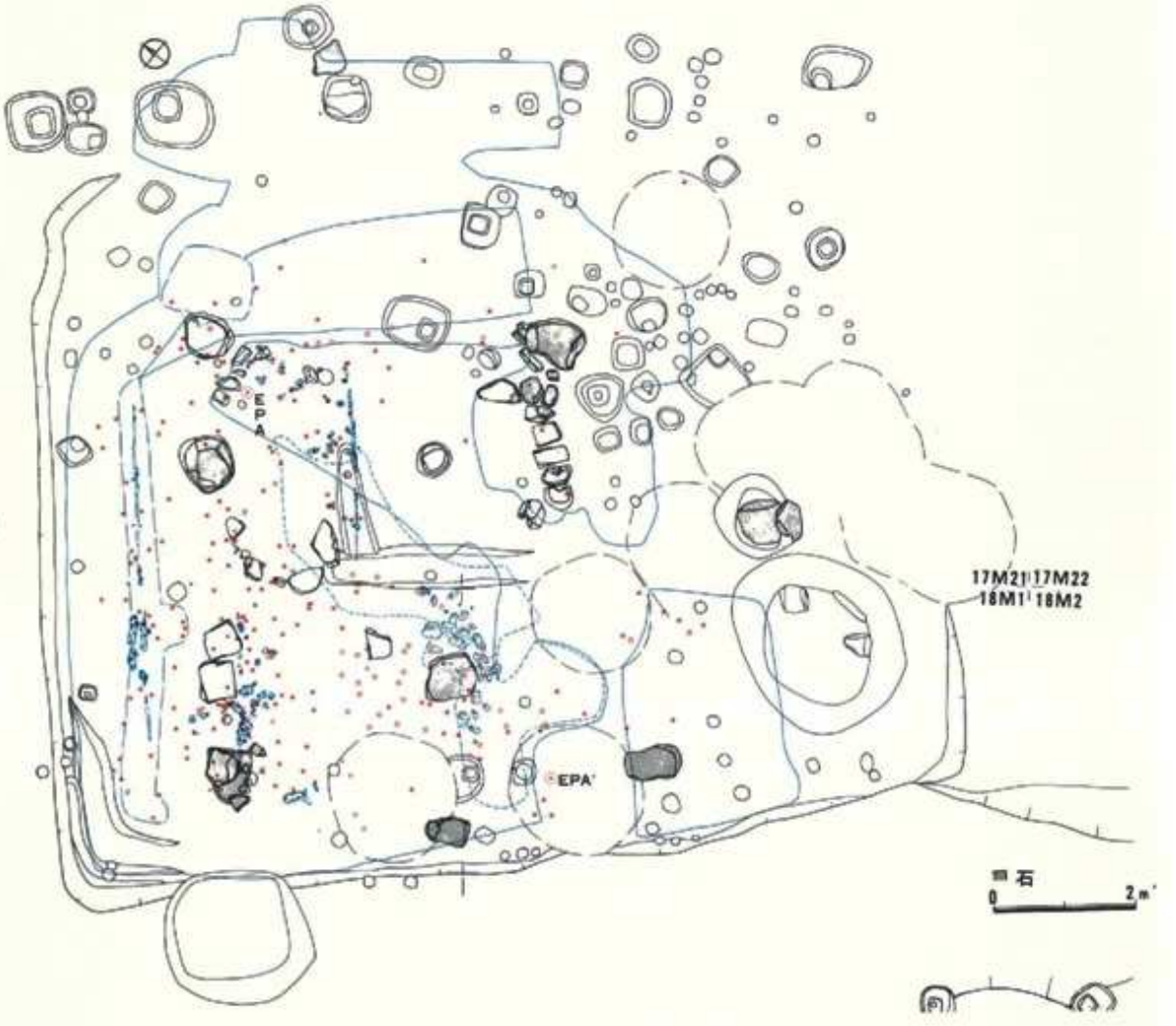
灰・薄緑色等の溶解物が付着し、発泡・ひび割れが見られる。底面は刷毛目状の整形痕が残る。底部中央2.5×3㎝の部分は表面が溶け、発泡が顕著である。3はやや小振りで底部中央が平になるようである。胎土に砂粒を含む。発泡その他熱変の痕等は見られない。図示していない他の4片の内1点には熱変等が見られないが他の3片は発泡等が見られる。4は鋳型と推される。外径10.5㎝程と推される円形で上部へ細く窄む。接地面の巾は2㎝で平滑に整えられている。内面平滑で、接地面の1.5㎝程上部から内反し肉厚となる。外面に溝状の抉りが3条程ある。胎土は粉っぽいが爽雑物は見られない。他に小石や繊維などの爽雑物の多い熱で赤変した粘土塊がある。一部に面取りが見られ、炉壁の一部かとも推したが、鋳型とも思われる。7は57×27.5×12㎜の銅地金である。97.3gを計る。形状は字義通りのナマコ形を呈し、上面及び一側面に5～9ミリ巾の面が不規則に残り、整形時の痕跡かと推される。一部亀裂を生じている。8は銅釘で未使用品である。9は八双金物である。薄板が弯曲して凸面状をなす。七子地に菊？の折枝を配する。10、11は鞐である。13、14、17は同種の止め金具類であろう。前二者は輪を二つ連結した形であるが後者はS字に曲げ密着させた形である。図示できなかったが、同種の紐金具（ぐみ）が出土している。12、15、16は八双鋲である。12は八重菊笠鋲で1本止めである。16は放射（菊花）状の笠に座金を一枚挟んで鋲止めするが先端が二本になっており、押し開いて止める。15は16の上部が欠失したものである。18～23は鋲（銅釘）である。19は一本のもの他は二本に開くものである。笠と組み合せて用いられるものであろう。銅滴・滓とした物には球状の固着物で一部空洞化した物もある。未製品は溶融、固着した物で面取り、紋様等の跡が残る失敗例かと推される物である。なお6は瀬戸・美濃の皿をるつぼに転用した物である。他に2点程あるが、いずれも過去の調査時に他地区で出土したものである。

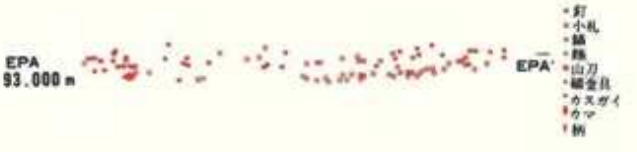
鉄製品：本地区出土の鉄製品類を第10図と表1に示した。釘と小札の出土量が特に多い。10図8の小札は良好な遺存状態である。20は刀身と柄の境に締金具が残り、山刀、鉈の類と思われる。釘の一部に未使用品かと推される物もあるが、共通の特徴とすることはできない。

表1　鍛冶・鋳造跡出土遺物集計表（鍛冶・鋳造関連遺物、銅・鉄製品他）

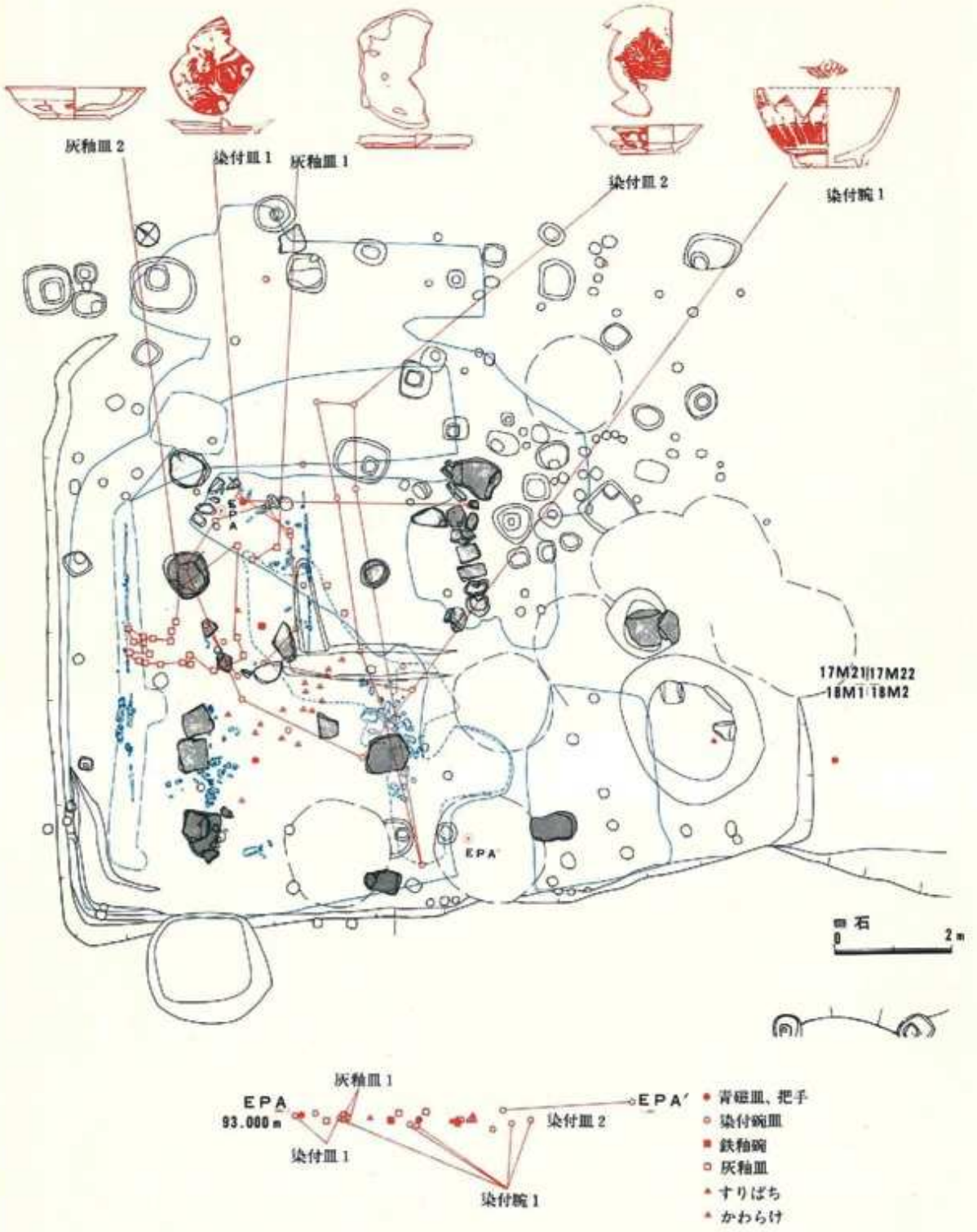
種別	数量	点数	重量（g）	備考
鍛冶・鋳造関連遺物	るつぼ	(7)		7片6個体
	羽口	(2)		1個体
	鋳型？	(1)		3片同1個体
	銅地金	1	97.3	
	銅滴・滓	7	32.2	
	銅未製品	8	87.2	（失敗例？）
	鍛造剥片		2.1	
	砥石	2		
	計	(29)	218.8	
銅製品	八双鋲	3	5.4	
	八双金物	1	5.1	
	鞐	9	20.7	
	薬莢	1	2.9	
	縁金具	7	6.4	
	釘（鋲）	8	3.4	
	その他	8	37.6	紐金具他
	計	(37)	81.5	

種別		数量	点数	重量（g）	備考
鉄製品		鍋	(27)	801.8	
	建築用具	釘	(317)	836.3	
		鋲	1	4.0	
		小計	(317)	840.3	
	武器武具	小札	(149)	810.2	
		刀子	(1)	20.0	
		小刀	(12)	335.3	
		鏃	(3)	35.4	
		小計	(164)	1,200.9	
	農具？	鎌	(1)	50.8	
		締金具	4	15.0	
		小計	(5)	65.8	
	不明		2	106.1	
	計		515	3,014.9	
土製品	陶器		1		
	その他		3		鋳型？（赤変）
	不明		3		
	計		7		

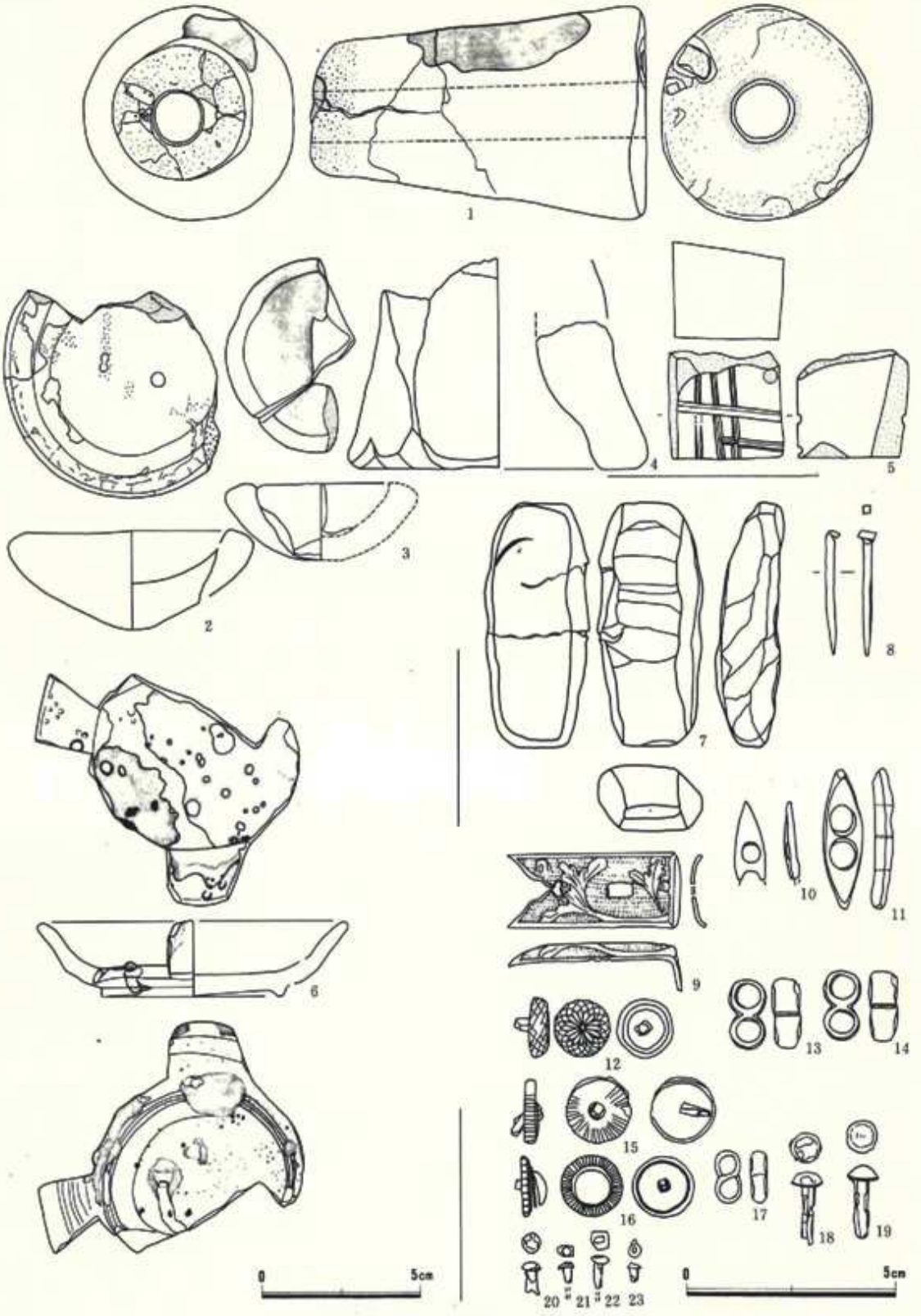




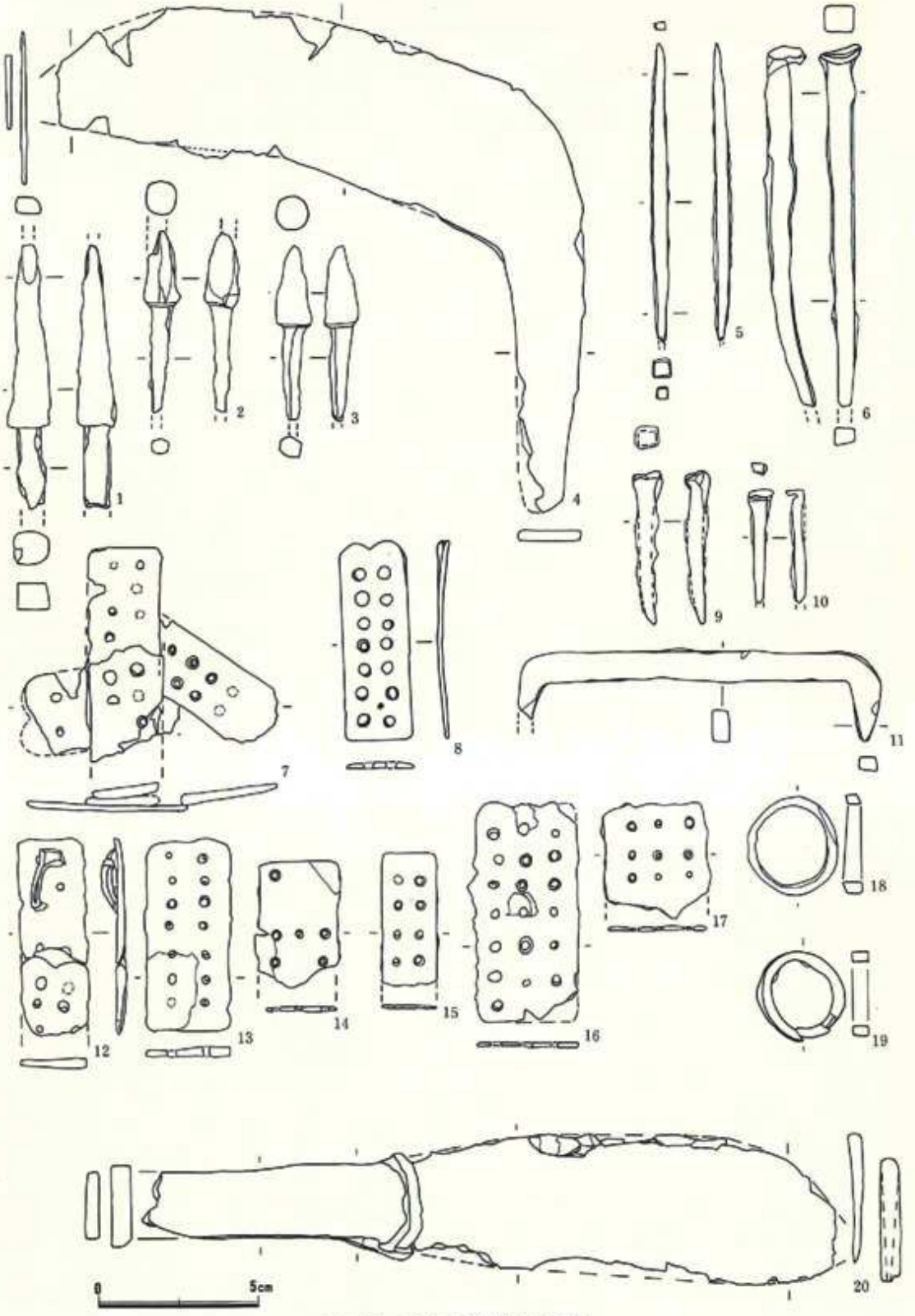
第７図　鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図2（鉄製品）



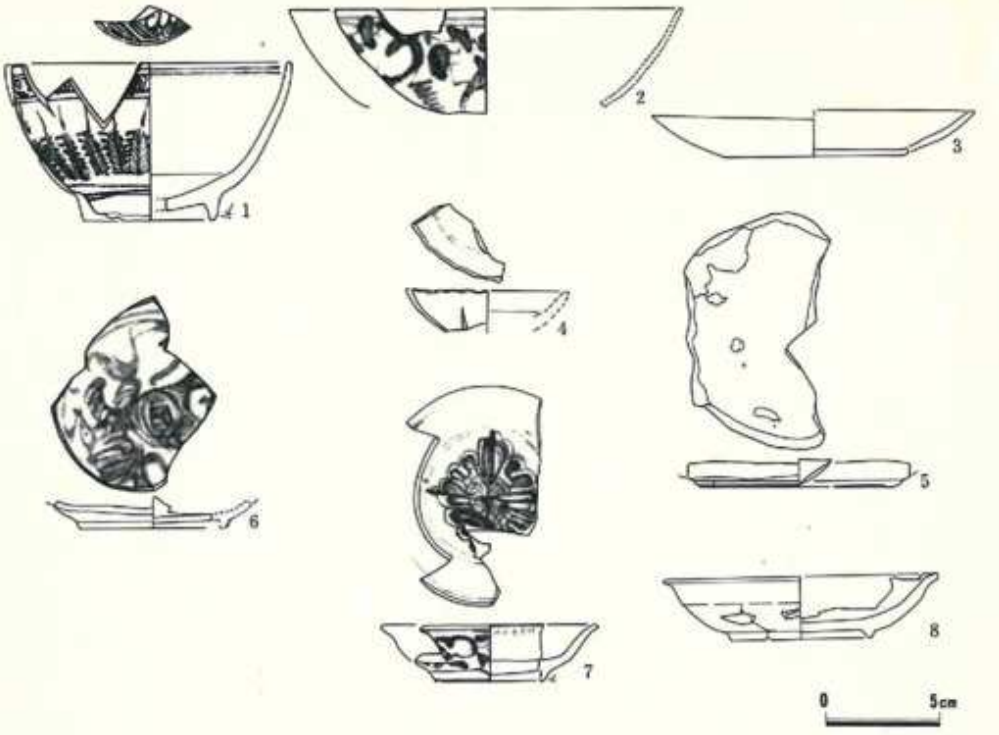
第8図　鍛冶・鋳造跡平面図 遺物分布図3(陶磁器)



第９図　鍛冶・鋳造跡出土遺物他



第10図　鍛冶・鋳造跡出土遺物

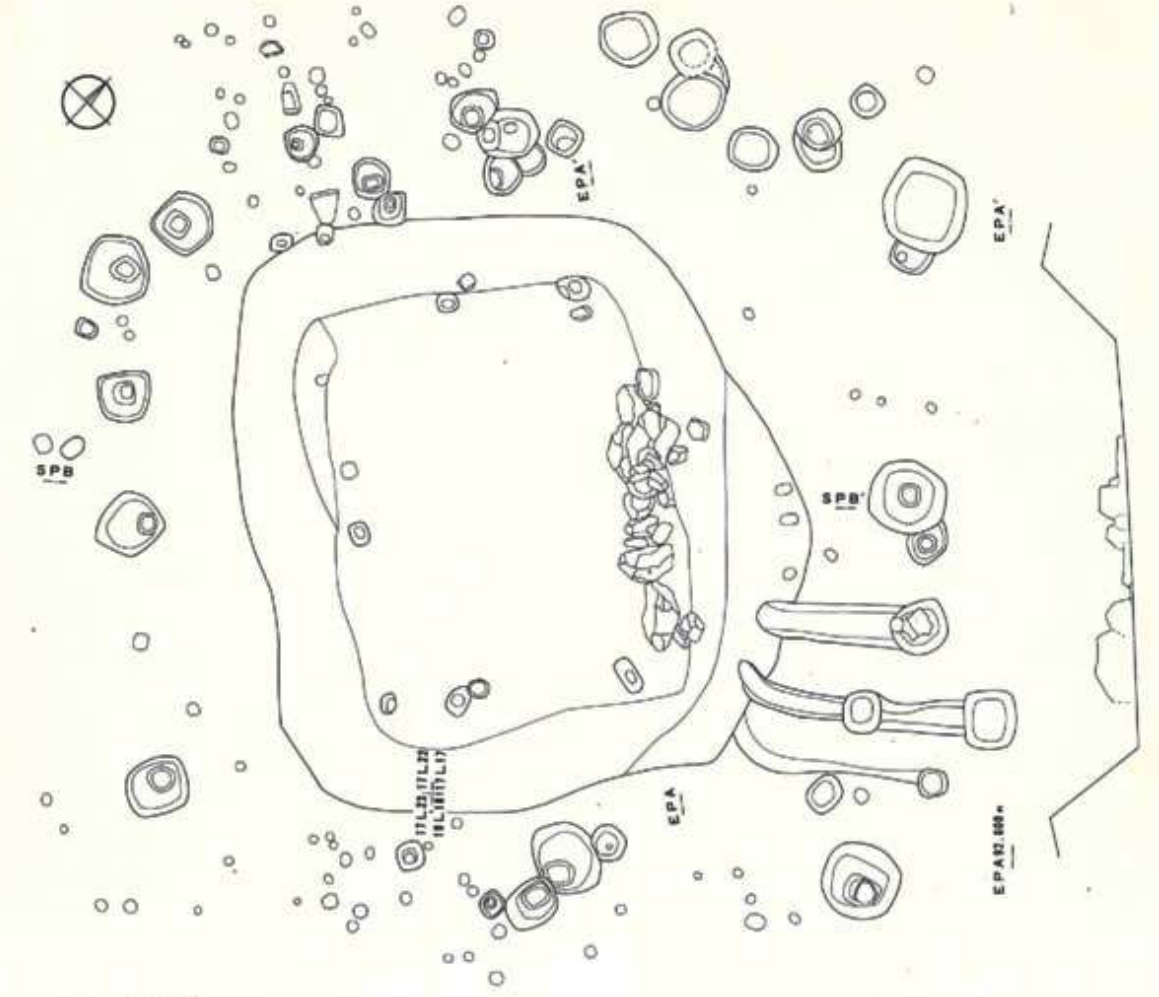


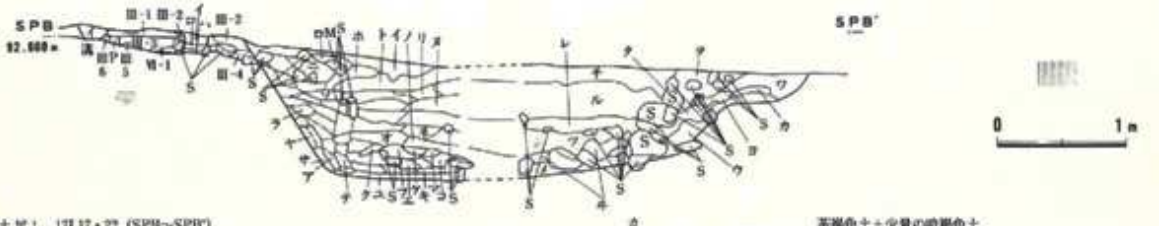
第11図　鍛冶・鋳造跡出土遺物

表 2　鍛冶・鋳造跡出土陶磁器集計表

（総破片数）

産地 / 種別 / 器種	舶載				国産						合計
	中国			小計	瀬戸・美濃		土器	越前	美濃	小計	
	青磁	白磁	染付		灰釉	釉釉					
碗	6		28	34	3					11	45
皿	7	5	56	68	34		20			54	122
盤	3			3							3
擂鉢								9	1	10	10
壺壺鉢								29		29	29
その他	1			1		1				1	2
総計	17	5	84	106	37	9	20	38	1	105	211

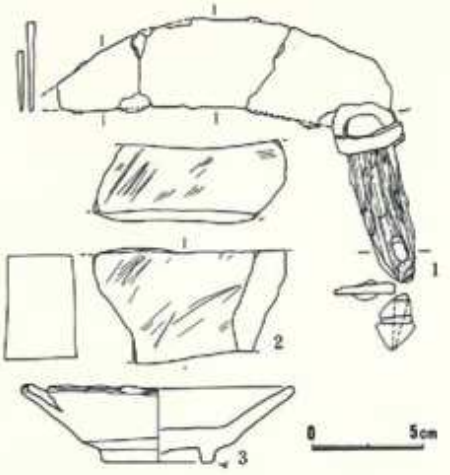




竪穴状土壙1　17L17・22 (SPB～SPB')

一1 10YR⅓褐	全面ローム　ハード
2　⅓⅓〃	〃　〃　礫粒　焼土粒　火山灰　C微量
3　⅓〃	〃　〃　〃　〃　C少量
4　⅓⅓〃	礫粒　焼土粒　C微量　ローム
5　⅓黄褐	全面ローム　ハード
6　⅓褐	焼土粒　密
一1　⅓黄褐	〃　礫粒　全面ローム　ハード
裏イ10YR⅓7.5YR⅓褐	焼土粒多量　C多量
イ　⅓褐	焼土粒　礫粒　C少量
ロ　⅓⅓〃	〃　〃　〃　ローム
ハ　⅓〃	〃　〃　C微量　ソフト
P1　⅓〃	〃　〃　C少量　ローム
1イ10YR⅓褐	〃　〃　〃　火山灰
ロ　⅓⅓〃	〃　〃　ローム多量　〃
ハ　〃〃	〃　〃　〃　〃　基盤礫
ニ　⅓〃	全面ローム　ハード
ホ　⅓⅓〃	〃　礫粒　焼土粒　火山灰
ヘ　⅓⅓〃	C少量　〃　〃　〃　炭のかたまりあり
ト　⅓〃	〃　〃　〃　基盤礫　全面ロームでハード
チ7.5,10YR⅓⅓暗褐	少量の黄褐色土＋極少量の火山灰
リ　⅓⅓褐	礫粒　焼土粒　C少量　火山灰　ローム　ハード
ヌ　⅓〃	〃　〃　C微量　〃　〃　基盤礫　N
ル	黒褐色土＋少量の褐色土＋極少量の黄褐色土＋極少量の炭化物　ぼろぼろ
ヲ　〃⅓⅓⅓褐	極少量の黄褐色土
ワ　〃⅓⅓暗褐	褐色土＋少量の火山灰
カ	茶褐色土＋少量の暗褐色土
ヨ7.5-10YR⅓⅓暗褐	黄褐色土＋極少量の炭化物
タ	ローム粒　ブロック
レ	黒褐色土＋極少量の黄褐色土＋極少量の炭化物
ソ10YR⅓⅓褐、黄褐	礫粒　焼土粒　ローム　基盤礫　ハード　C微量　土器　N
ツ7.5-10YR⅓⅓暗褐	黄褐色土　炭化物
ネ10YR⅓⅓褐	微粒　焼土粒　ローム　基盤礫　C少量　ハード
ナ　〃　⅓⅓暗褐、にぶい黄褐	火山灰多く明るい　ソフト
ラ　〃　⅓⅓褐	礫粒　焼土粒　C少量　火山灰　ローム　黄色っぽい
ム　〃　⅓⅓暗褐	〃　〃　〃　〃　炭まじりでソフト
ウ7.5,10YR⅓⅓暗褐	少量の火山灰　炭化物を含む
ヰ	暗茶褐色土＋少量の炭化物
ノ10YR⅓⅓褐	礫粒　焼土粒　基盤礫　ハード
オ　⅓⅓〃暗褐	〃　〃　〃　C多量　ローム　粗
ク　⅓〃　〃	〃　〃　全面ロームでハード
ヤ　⅓⅓褐〃	〃　〃　炭少量　ローム微量
マ　⅓〃	〃　〃　ハード
ケ　⅓暗褐	〃　〃　C微量　ローム
フ　⅓〃	シルト　炭でソフト
コ　⅓〃	礫粒　焼土粒　C少量　ローム
エ　⅓⅓〃	〃　〃　〃　〃　砂まじりソフト
テ　⅓〃	C微量　〃　ローム　ソフト
ア　⅓〃	〃　礫粒　ローム　基盤礫　火山灰と炭でソフト　しまりなし
サ　⅓〃	全面ローム　ハード
キ　⅓⅓褐、暗褐	礫粒　焼土粒　C少量　砂まじり　ソフト　ローム
ユ　⅓にぶい黄褐	全面粘土質
メ	暗灰褐色土＋極少量の火山灰　粘性

第12図　竪穴状土壙1平面図



第13図　竪穴状土壙・井戸出土遺物

陶磁器：本地区出土陶磁器を第11図と別表に示した。第11図は表のうち表面が熱変しているものを主とした。これらは本地区の焼土が形成された時期を知る手掛りとなる資料と推されるものである。2、6、7は染付である。1、2の蓮子碗は勝山館内では第二段階として来た一群である。5、6は瀬戸・美濃灰釉皿である。5は径8.8cmの輪高台が付く。外面高台脇以下無釉、内面も既存部分は殆んど無釉で一部見込みに釉が流れこんでいる。体部上半のみ内外施釉する皿であろう。6は見込みに菊の印花文を有する端反り皿である。大窯Ⅰ期であろう。③はかわらけ（土師器）である。宇野隆夫氏のご報示によれば京都系の16世紀初め頃の物かと推されるとのことである。この外に図示していないが熱変の陶磁器に青磁稜花皿、染付列点文状の蓮子碗1、染付十字花文皿2、瀬戸・美濃灰釉端反皿2、同鉄釉（天目茶）碗（大窯Ⅰ）1、角形口唇の越前擂鉢1などの破片がある。図1、4の染付の熱変は明らかでない。他に染付碁笥底魚文皿、などの熱変を受けていないものがある。

羽口の形態は従前勝山館で出土していた物に比し、大きさ径共に小型で一端が漏斗状に広いなど著しく異っている。従来の羽口の先端には鉄分（滓）の付着した物もあり、鉄の加工等に使用したものとすることができる。本例については、類例にあたることができなかったが後述の銅の鋳造に関連すると推される遺物の存在から、これに用いられた羽口と考えられる。銅地金・銅滓付着のるつぼ、鋳型、銅滴・滓、鋳込みの失敗と思われる未製品と37点の銅製品の出土は本地区での銅の鋳造加工作業の存在を示すものであろう。又銅製品が全て甲冑金物であることは更に留意される。

他方鉄製品が小札と釘を中心に大量に出土していることも留意される。少量の鍛造剝片以外に鉄の加工に連る資料は得られていないが、小札の多いことは銅製品が甲冑金物だけであることと関係することかも知れない。

（5）、竪穴状土壙・井戸跡

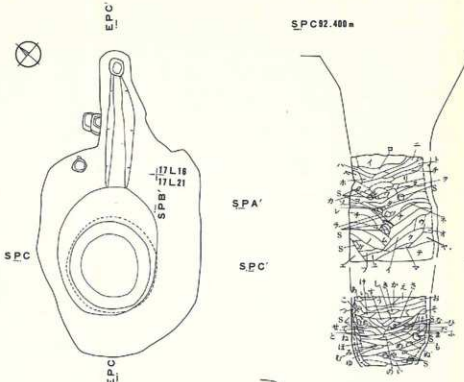
1：17L17・22区に位置する。4.6×3.6cm程の隅丸方形で深さ1～0.7mである。短軸北東側が浅く張り出す。3条の溝状の凹みがこれに重なるが、付随するものか、他の地割溝かは不明である。覆土は粘土質で堅く礫を多く含む。北東壁際に30×50cmの大きな礫が集中していた。施設の一部とも推したが明らかでない。粘土質の床面に柱穴があるが、西隅には検出できなかった。又集石の下位にP227に対応する柱穴も考えられたが石をはずして調査はしていない。覆土中から第14図2、3の他、鉄鍋12片、釘17、小札1、陶錘2点が出土した。3の青磁稜花皿は前述の鋳造跡出土の熱変した破片と接合する。柱穴が一部欠けているが上屋の架けられる遺構と推される。性格は不明である。

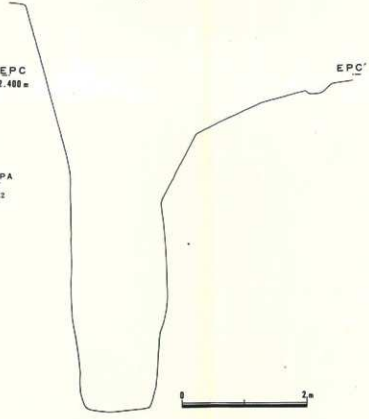
2：M25区に位置する。南東壁は井戸の掘り上げに伴い消失したものと推される。1よりは浅い。ほぼ同一のものであろう。

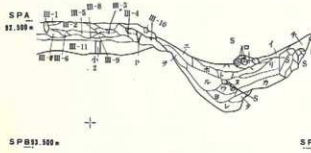
井戸跡：17M25区に位置する。上部掘り込み部は3.3×2.8mの長円形でも長軸北東側に巾50～60cm長さ1.5m程の溝状の張り出しが付く。地表下0.9～1.6mまでは漏斗状、以下途中は崩落の為か幾分抉れながら真直に壙底に至る素掘りの井戸である。上部径1.4×1.3m底径1.0×0.9m、地表からの深さ6.4m余。覆土最上部には大量の礫が堆積する。第14図1の鎌は上部覆土中の出土。陶磁器等若干出土しているが、未整理である。竪穴状土壙2の埋没後に掘られた井戸である。

(6)　掘立柱建物跡

第1号建物跡（第15図）：18M7・8、12・13区周辺に位置する。3×5間で梁行の柱間は5.5尺等間、桁行は7.3尺等間の3間と、南側11尺を6.5尺と4.5尺の2間とする建物と想定した。柱穴内に一







井戸跡土層地積（SPC～SPC'）

イ7.5Y R ¼明褐、2.5Y R ¼暗赤褐
ロ　　¼ 褐　　〃　　〃
ハ　　〃　〃
ニ　　〃　〃　　　　　5G Y ¼K
ホ　　¼明褐　5G Y ¼K　2.5Y R ¼暗赤褐
ヘ　〃　〃　　〃　　〃
ト　〃　　〃　　2.5Y R ¼暗赤褐
チ　¼¼褐　　〃　　〃　　〃
リ　　¼明褐、5G Y ¼K、2.5Y R ¼暗赤褐
ヌ　¼¼　〃褐、2.5Y R ¼暗赤褐
ル　　¼褐
ヲ　¼ 〃
ワ　¼褐、5G Y ¼K、2.5Y R ¼暗赤褐
カ　¼褐
ヨ　　¼明褐、5G Y ¼K、2.5Y R ¼暗赤褐
タ　¼¼　〃灰白　〃　　〃
レ　¼褐
ソ　¼　灰褐、褐
ツ　¼¼褐、明褐
ネ　¼ 〃
ナ　¼¼ 〃　〃
ラ　¼ 〃
ム　¼¼ 〃　〃
ウ　¼¼ 〃　〃
オ　¼¼ 〃　〃　2.5Y R ¼暗赤褐
ノ　　¼明褐
オ　¼¼　褐、黒褐
ク　¼¼ 〃　明褐
ヤ　¼　〃
マ　¼　暗褐
ケ　¼¼　にぶい褐、明褐
フ　¼¼　褐、明褐
コ　¼¼　〃　〃2.5Y R ¼暗赤褐、5G Y ¼暗緑灰
エ　¼¼　〃　〃　〃　〃　〃　〃　〃
テ　¼¼　〃　〃

C少量　粘土質
〃　　土器 骨
〃　　火山灰
粘土質
C少量　粘土質
C少量　粘土質
〃　　火山灰
粘土質
C微量
C微量
〃
粘土質
C微量
粘土質　しまりなしややぐりぐり
〃
C微量
C微量　火山灰
C少量
C微量
〃　　粘土質
〃　〃
C微量　粘土質
C微量　粘土質
〃　　〃
C微量　〃
〃　　〃
〃　　火山灰
〃
〃
C微量　粘土質
〃　　しまりなしややぐりぐり
しまりなしぐりぐり

あ7.5Y R ¼褐　粘土質
い　　¼暗紫　5G　緑灰¼ C少量　基盤礫
う　¼¼褐　明褐紫　C少量　赤色粘土質
え　¼¼褐　火山灰　〃　〃
お　¼¼ 〃　明褐　5G¼緑灰　赤色粘土質　C少量　粘土質　基盤礫
か　　¼ 〃　5G¼緑灰　赤色粘土質　基盤礫
き　　¼ 〃　〃　〃　粘土質　基盤礫
く　　¼ 〃　C微量　粘土質
け　¼¼ 〃　5G¼緑灰　基盤礫
こ　¼¼ 〃　にぶい褐G¼　緑灰　赤色粘土質　青い縞状じり　しまりなし　基盤礫
さ　¼¼ 〃　灰褐　C微量　火山灰
し　¼¼ 〃　粘土質　〃
す　¼¼ 〃　火山灰
せ　¼¼ 〃　灰褐　5G¼緑灰　赤色粘土質　基盤礫
そ　¼¼ 〃　5G¼緑灰　粘土質　基盤礫
た　¼¼ 〃　緑灰　火山灰　C微量　赤色粘土質
ち　¼¼ 〃　5G¼　緑灰　基盤礫　〃
つ　¼¼ 〃　しまりあり　〃　〃　C微量　土器1コ
て　　¼ 〃　小さい石粒混じり　ややぐりぐり　ややしまりなし
と　¼¼ 〃　明褐紫　10Y R ¼褐　粘土質
に　¼¼ 〃　灰褐　火山灰
ぬ　　¼ 〃　粘土質
ね　¼¼ 〃　5G¼緑灰　C少量　赤色粘土質　基盤礫
の　¼¼ 〃　C微量　粘土質
は　¼¼ 〃　5G¼緑灰　C微量　赤色粘土質
ひ　　¼ 〃　〃　〃　基盤礫　〃
ふ　¼¼ 〃　明褐　赤色粘
へ　　¼ 〃　5G¼緑灰
ほ　¼¼ 〃　粘土質
ま　　¼ 〃　赤色粘土質　C微量
み　¼¼ 〃　灰褐
む　¼¼ 〃　にぶい褐
め　　¼ 〃　5G¼緑灰　粘土質
も　　¼ 〃　〃　〃　全面礫ぐりぐり　基盤礫
や　　¼ 〃　全面礫混じり
い　　¼ 〃　褐紫　C少量　しまりなし　ぐりぐり
ゆ　¼¼ 〃　にぶい褐　砂混じり　基盤礫　しまりなし

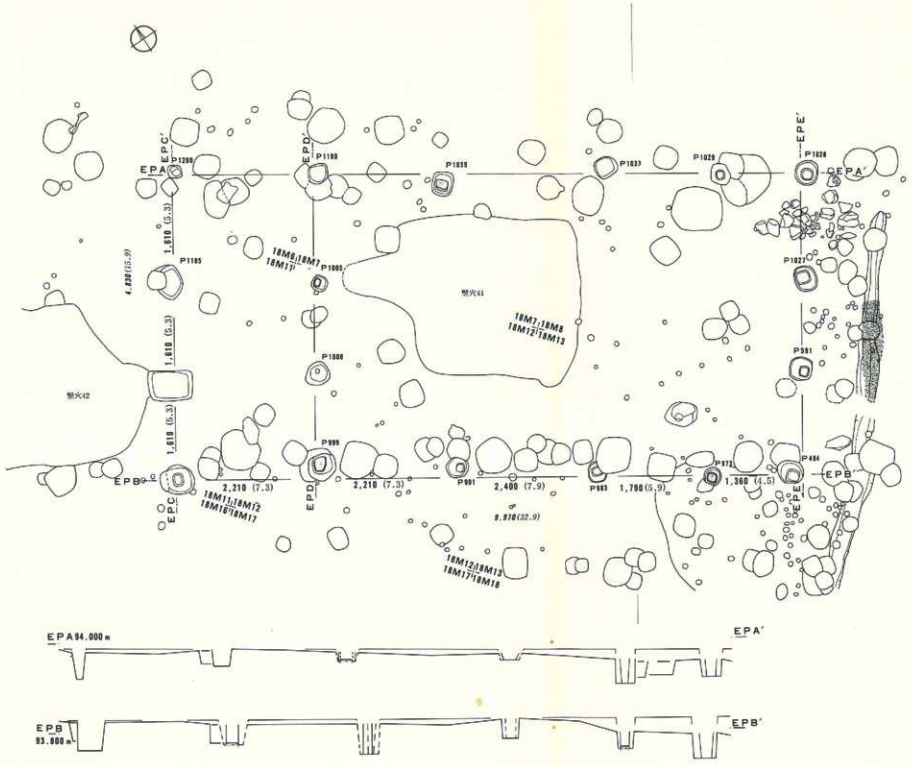
17M25　17L21　南北ライン東壁土層地積（SPA～A'）

Ⅱ－1 10Y R ¼褐　　褐紫　玉砂利微量　ローム粒微量　シルト粒状
Ⅲ－1 10Y R ¼褐　　褐紫　C　玉砂利微量　土器1コ　ハード
2　　¼にぶい黄褐　〃　〃　〃　ハード
3　　¼¼褐　〃　〃　〃　土器　ローム粒　粘土質　ねばりあり
4　〃　〃　〃　〃　C微量　〃　〃　ローム粒　土器1コ　焼土粒　ソフト
5　¼¼ 〃　〃　C 1cm大1コ　〃　玉砂利1.5cm大1コ（図2）よりソフト　焼土粒　粘土質
6　　¼にぶい黄褐　〃　焼土粒　C微量
7　　¼褐　〃　玉砂利　C　土器1コ
8　〃　〃　〃　〃　〃　〃　保性あり
9　¼ 〃　〃　〃　〃　ハード
10　¼ 〃　〃　焼土粒　〃　小礫　（11）よりややソフト
11　¼ 〃　〃　玉砂利　ローム粒　粗性あり　粗
12　¼ 〃　ロームブロック　粘土質　ややハード
13　¼ 〃　褐紫　焼土粒　ローム粒　ソフト
14　¼¼ 〃　〃　ロームブロック　ローム粒　ハード
小1　　¼にぶい黄褐　〃　ローム粒　ハード　〃
2　　¼褐褐　〃　玉砂利　火山灰　（11）よりソフト
井戸
ロ
ハ　　¼褐褐　〃　玉砂利　C　礫5cm以下　C0.5cm　密　ハード
ニ　　　　　　粗　ややかたい
ホ
ヘ
ト　　　　　砂利微量
チ　　¼褐褐　褐紫　ローム粒　砂利　C　粗　ハード
リ　　¼ 〃　小礫　玉砂利　C微量
ヌ　　¼ 〃　ローム粒微量　〃　玉砂利
ル　〃 〃　〃　〃　〃　〃　褐紫
ヲ　〃 〃　褐紫　ローム　〃　カイ1コ
ワ　　¼ 〃　〃　C
カ　　¼ 〃　ローム　C
ヨ　〃 〃　ローム微量　C
タ　　¼褐　ローム　C　火山灰微量
レ　　¼明褐　〃　C微量　ロームブロック

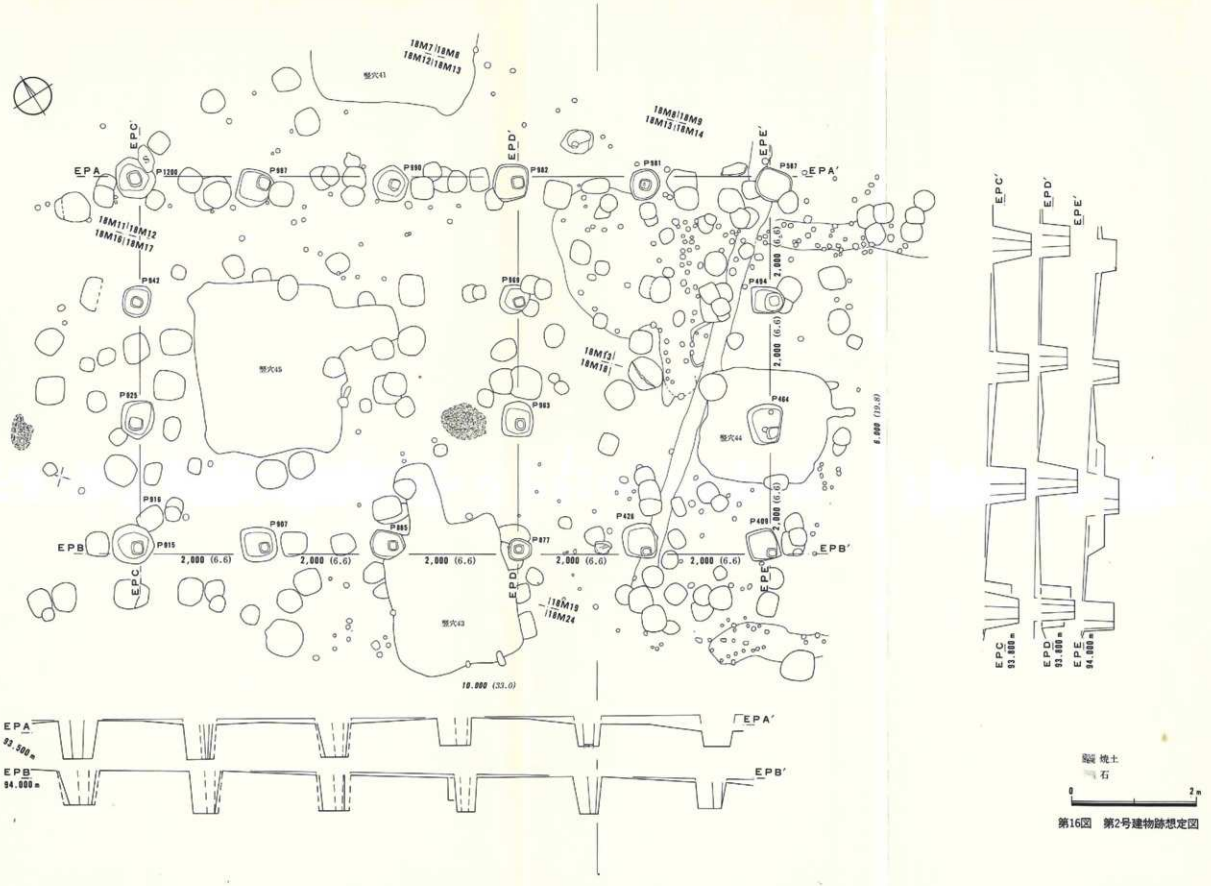
17L21（SPB～SPB'）東西ライン北壁土層地積

Ⅰ－1 10Y R ¼褐褐　褐土粒微量　玉砂利　ローム
Ⅱ－1　　¼¼ 〃　C　玉砂利　ローム微量　密　かたい
Ⅲ－1　　¼褐　C微量　土器8コ　ソフト
Ⅴ－1　　¼¼ 〃　小礫　玉砂利　焼土粒微量　粗性あり
P38イ　　　ローム＋粒　シルト
ロ　　¼褐褐　ローム40%　C
ハ　　　焼土粒混入　C　シルト
ニ　　　〃　玉砂利　ローム40%　C
ホ
井戸あ　¼褐褐　褐紫　C　焼土粒　シルト
い　　¼褐　ローム　C多量　焼土粒　粗
う　〃 〃　密

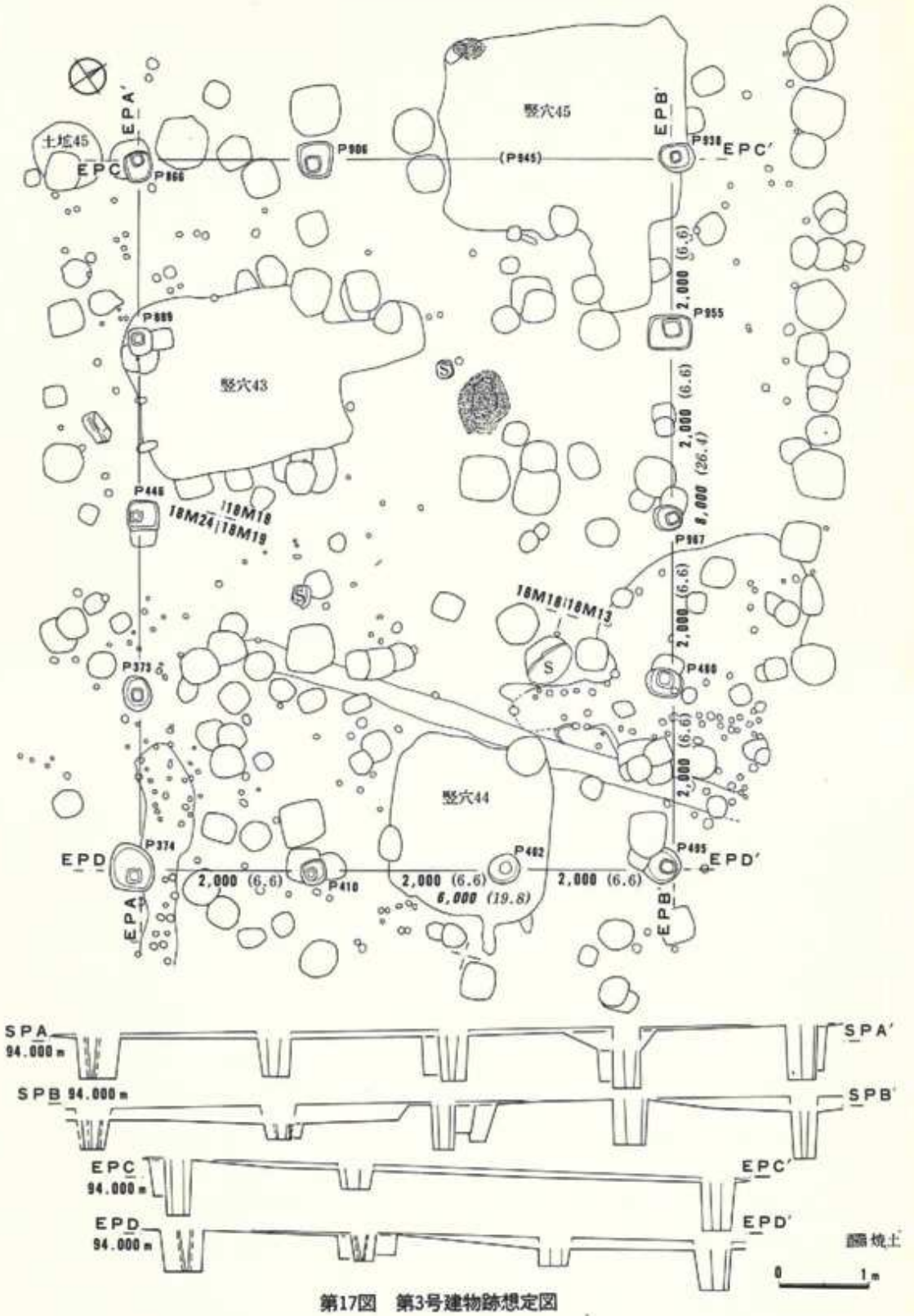
第14図　井戸跡平面図



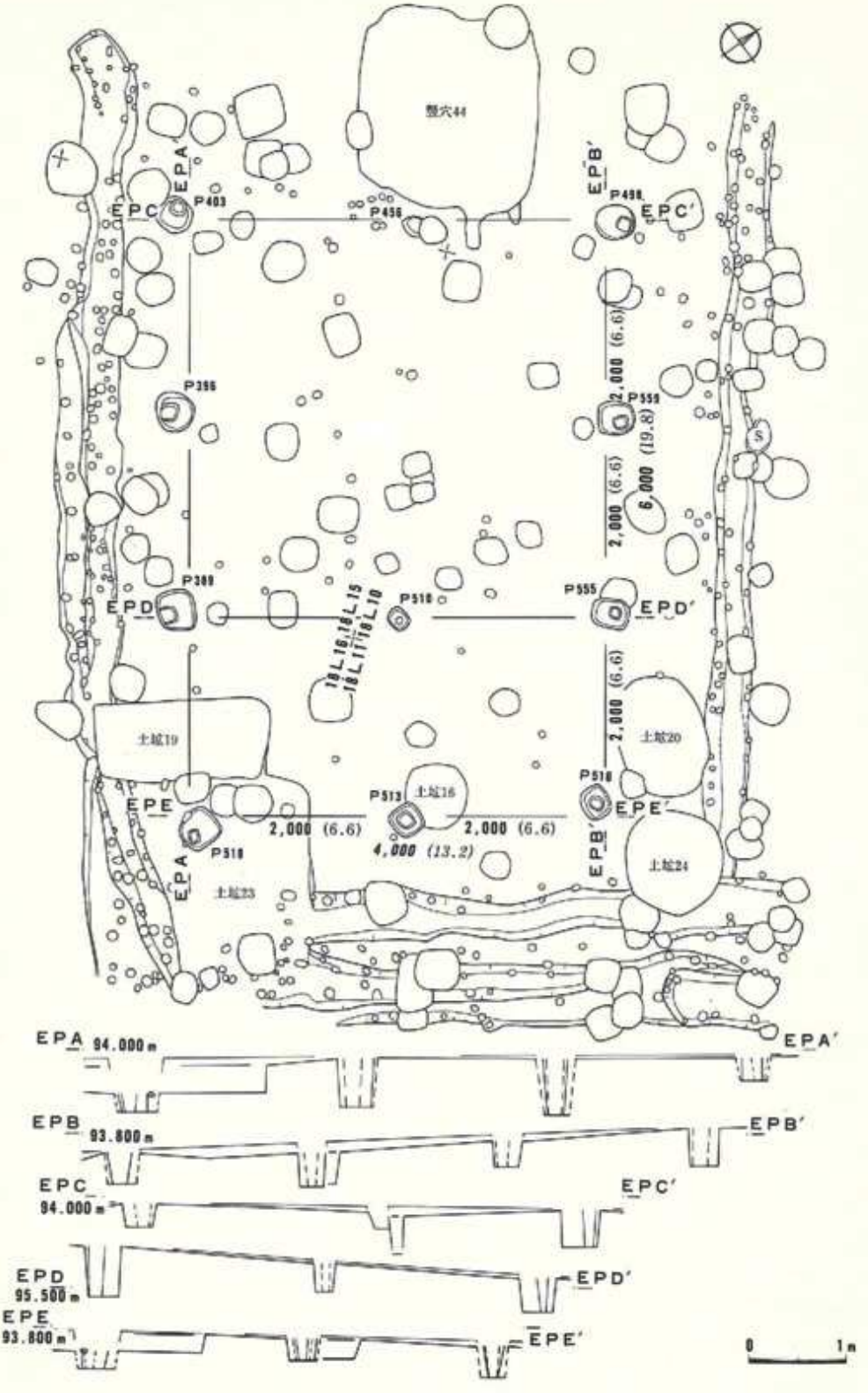
第15図　第1号建物跡想定図



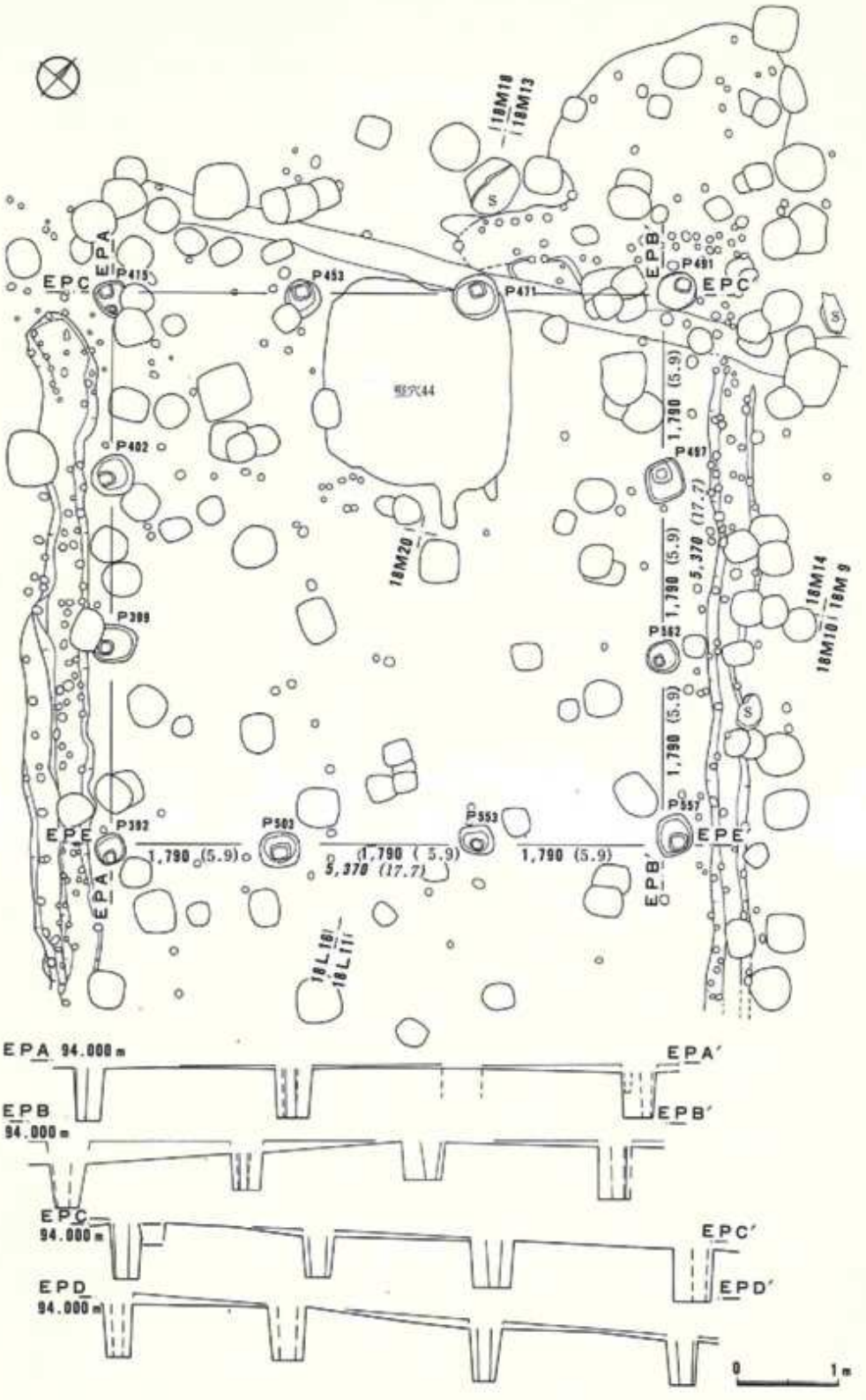
第16図　第2号建物跡想定図



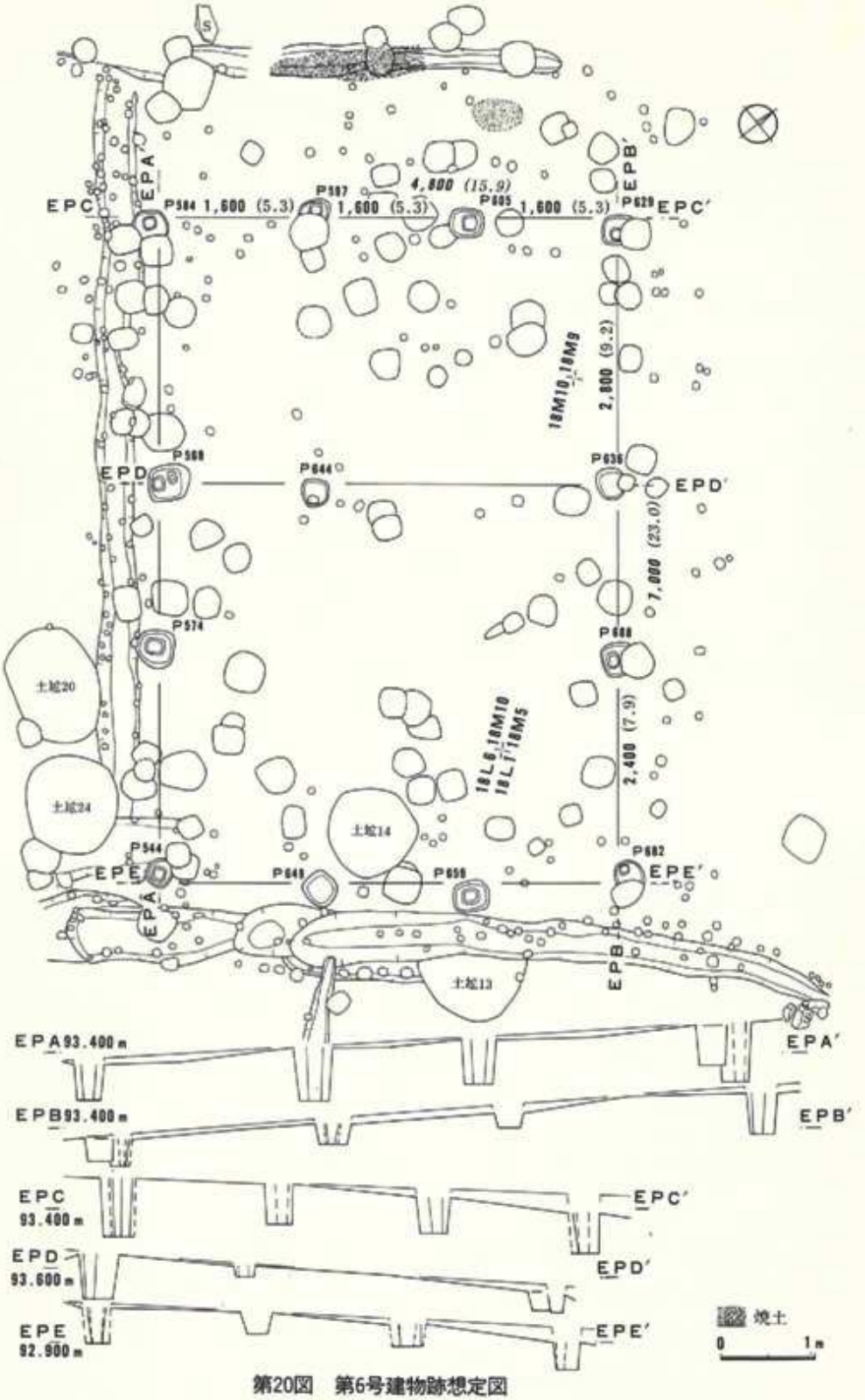
第17図　第3号建物跡想定図



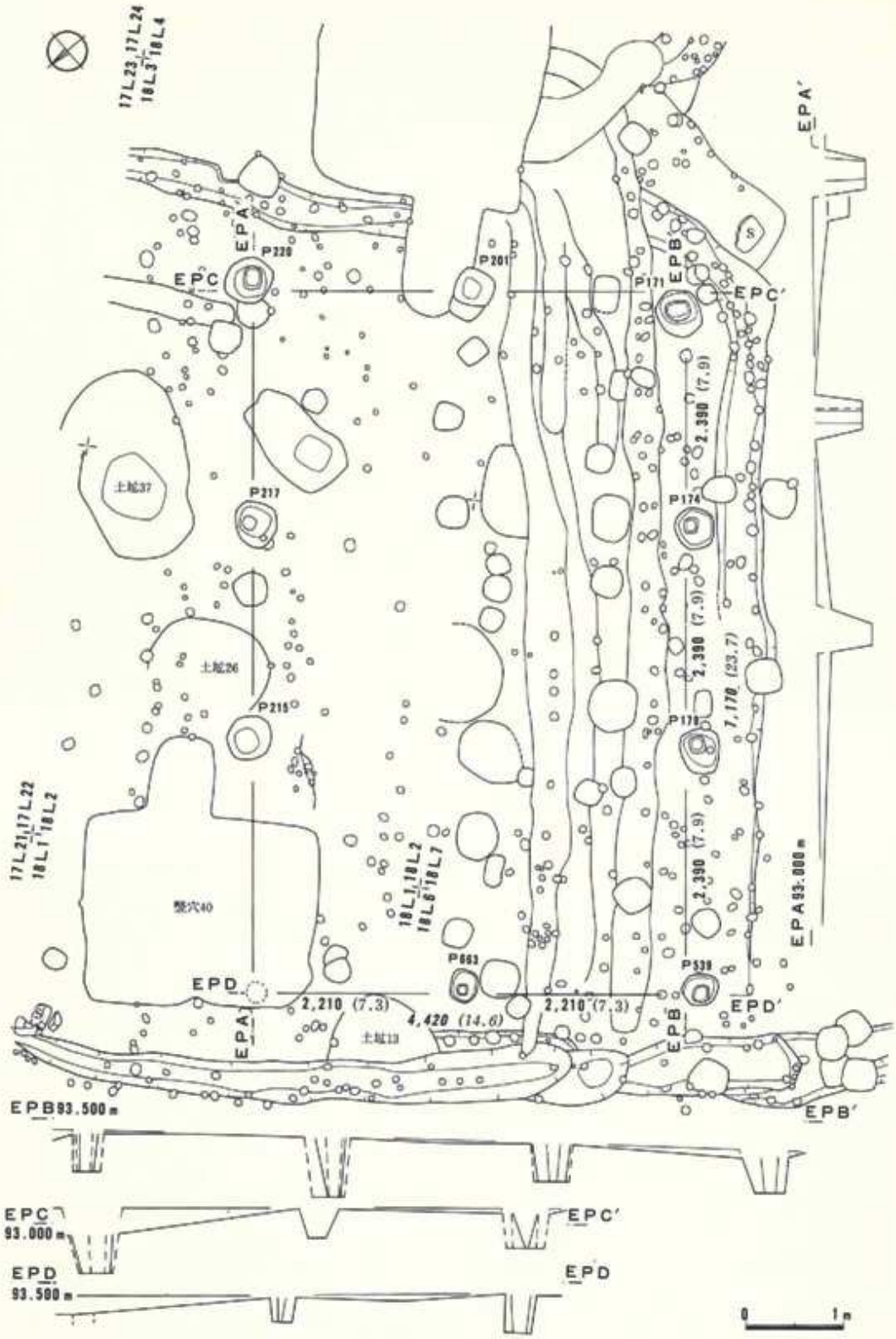
第18図　第4号建物跡想定図



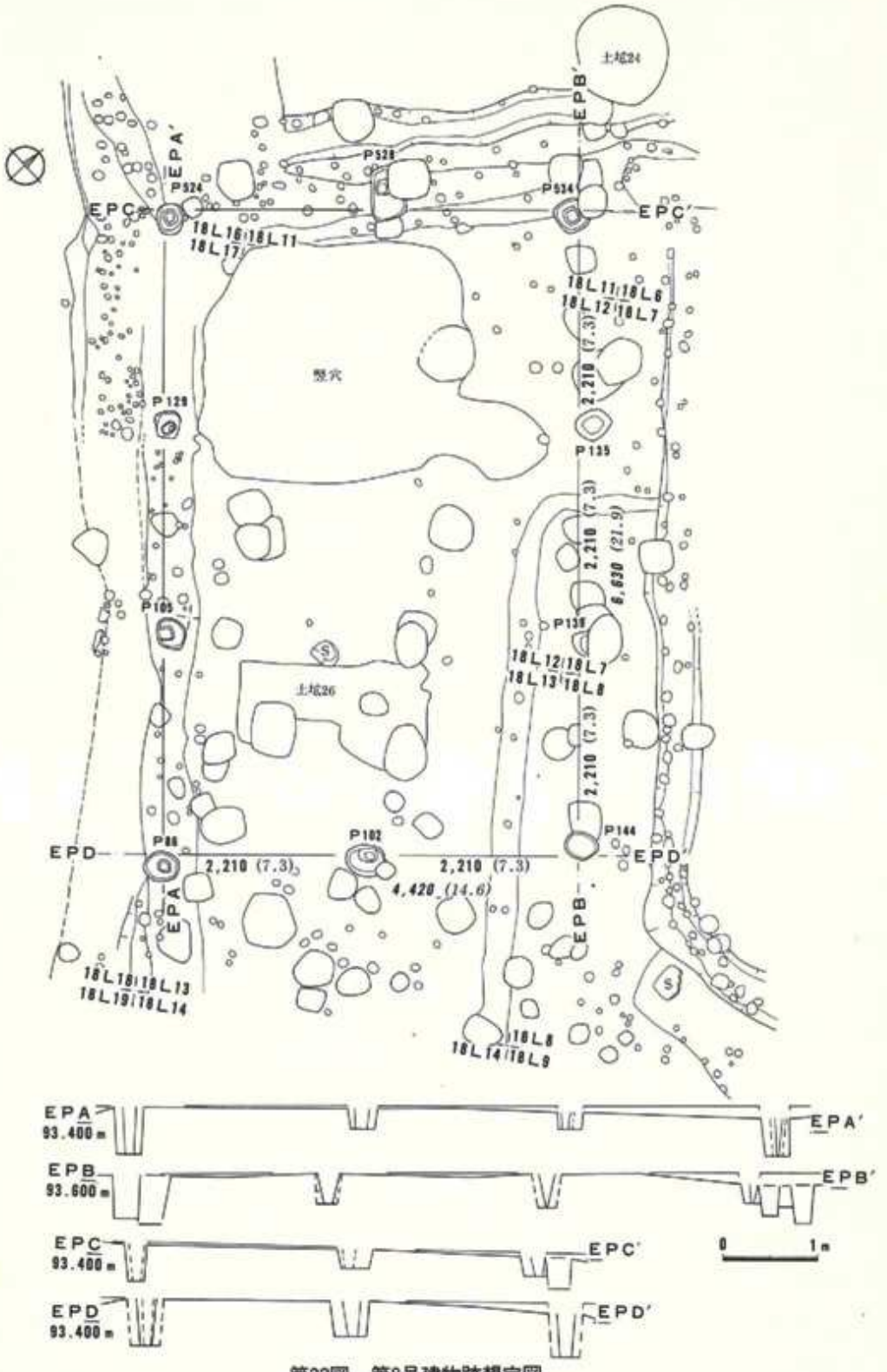
第19図　第5号建物跡想定図



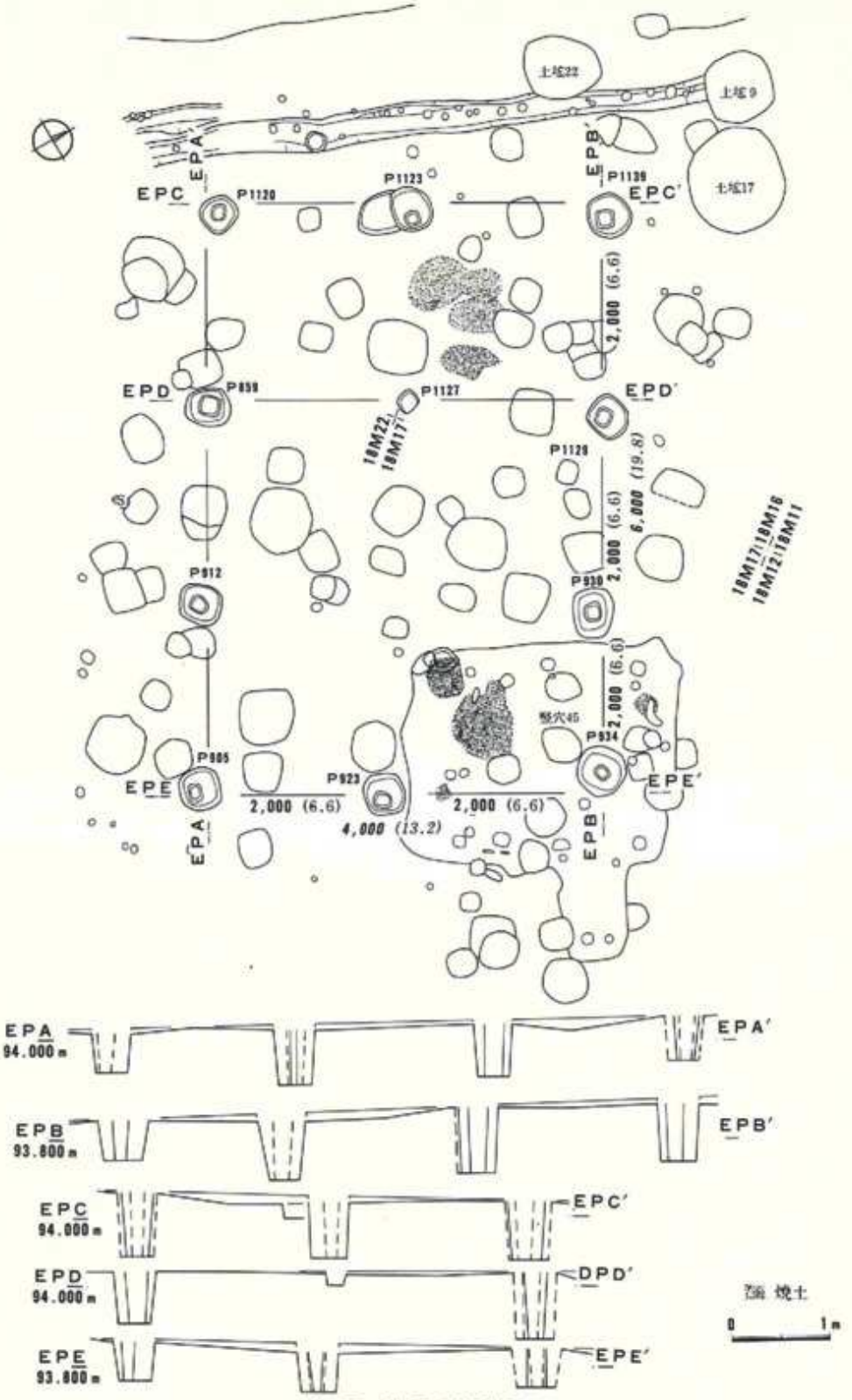
第20図　第6号建物跡想定図



第21図　第7号建物跡想定図



第22図　第8号建物跡想定図



第23図　第9号建物跡想定図

部石が支えとして用いられている。一番北寄り一間は仕切られるようである。南端柱列の50～60cmには地割界と推される溝がみられるが、他の三面は明らかでない。第2号建物跡より古い。

第2号建物跡（第16図）：18M17・18区周辺に位置する。第1号建物跡の西でその西柱列に本建物跡の東柱列が重複する。3×5間、柱間は6.6尺等間で3×3間と3×2間の二室からなる建物と想定した。地割界を示す溝跡は明らかでない。

第3号建物跡（第17図）：18M18区周辺、第2号建物跡の西に位置し、⅔余りが重複する。3×4間で柱間6.6尺の等間の建物跡と想定した。北柱列の1柱穴は竪穴45と重複している。間仕切り、地割界は明らかでない。

第4号建物跡（第18図）：18M10区周辺に位置する。2×3間、6.6尺等間で、2×2間と2×1間の二室からなる建物跡と想定した。東西と南側は柱筋にほぼ平行する溝跡が敷地の地割界を示すと推される。北の溝跡は柱列と軸線が異っている。

第5号建物跡（第19図）：18M19、20区周辺、第4号建物跡と½余重複して北に位置する。3×3間、5.9尺等間の建物跡と想定した。東西と南の地割界溝は第4号建物跡と同じ溝跡かと推されるが、北側は不明である。

第6号建物跡（第20図）：18M10区周辺、第1号建物跡南、第4、5号建物跡東に位置する3×3間の建物跡を想定した。梁行は5.3尺等間であるが桁行は、9.2、5.9、7.9尺と不規則である。

第7号建物跡（第21図）：18L7区周辺、第6号建物跡の溝を挟んで北側に位置する。2×3間、梁行の柱間7.3尺、桁行7.9尺の建物と想定した。北隅の柱穴は竪穴40号との重複により欠失している。本地区の溝はつくり替えが激しく明確ではないが、敷地地割を画する溝が囲繞するようである。

第8号建物跡（第22図）：18L22区周辺、第7号建物跡西、第4号建物跡の南に位置する。2×3間、梁行7.3尺等間、桁行7.3、7.9、7.3尺の柱間の建物跡を想定した。しかし南側は未調査であり、更に大きくなるかも知れない。東は、7号建物跡との間の、北は7号建物跡から続く溝跡が画すると推される。西は一部のみ調査した。破線で位置を示した溝跡が地割を画する溝跡かと推している。

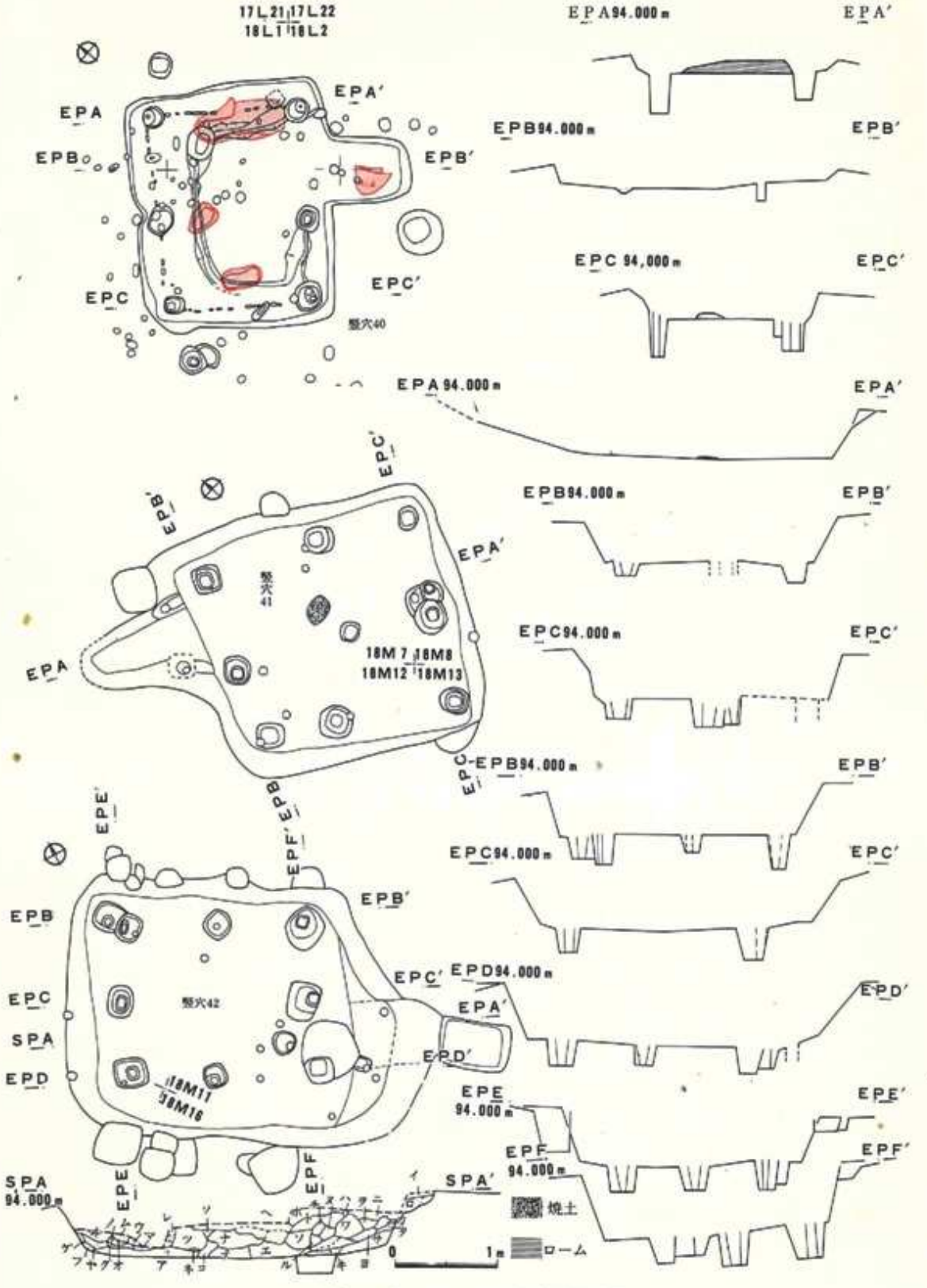
第9号建物跡（第23図）：18M22区周辺に位置する2×3間、6.6尺等間の建物跡と想定した。

(7) 竪穴建物跡、土壙、溝

a 竪穴建物跡

本年度の調査で10基の竪穴建物跡を検出したがこのうち18L3・4区と18L12区に位置する2基は過年度（昭和55年度）に調査されたものである。一辺が2mから2.8mと幾分大小の差がある方形で一方に出入口とされる緩く傾斜する張り出しが着く。この出入口はほぼ掘立柱建物跡の軸線に直行又は平行するが、その方向は一定していない。18M13、14区の不定形な落ち込みは小柱穴、柱穴等から、竪穴建物跡の可能性が考えられる。18M4区踏石状石積、土壙12の下位に竪穴建物跡が推されたが完掘していない。18L16区の方形の落ち込みも同様の可能性がある。40～43、45、46の床面で焼土、炭化物の堆積が見られた。掘立柱の建物跡との前後関係は、一部整理途中にあるが、相互に切り合うようであり、一方だけを古くすることはできないと推している。40～46号竪穴から1～5点（4.2～91.8g）の釘が出土し、40、43、45号竪穴から鍛造剝片が0.6～11.3g出土している。他に鍋、カスガイ、小札、小刀等が出土しているが、45号を除いて少量である。

第45号竪穴建物跡（第25図）：18M17区に位置する。28×2.2m、深さ55cm、長軸は南北方向。短軸に平行して東側へ1.1mの出入口が張り出して付く。柱穴はイ～チの8個と推されるが、ハチなど更に検討しなければならないものもある。出入口張出しには基部と先端に2個1対づつの小柱穴がある。出入口の踏み板等を支えるものであろうか。この竪穴は火災により焼失したらしく内部に大量の炭化材等が堆積していた。細かな観察等ができていないが概要を記す。炭化材等は床面に密着するものは少ない。柱材は柱穴内には残っていない。これは火災の際床面より高い位置の部材等は焼失炭化した為残存したが、床に密着したもの、柱穴内等地下に埋まった部分は炭化せず、その後腐触消失したものと推される。柱穴ロ、トの柱材が炭化残存したが、少くともトは正方形ではなく、長方形の所謂半柱の形状である。トの柱材の外側に北へ厚さ2cm、巾10～15cmの炭化した板材が立って3～4枚出土した。イ～ト、イ～ハなど四周の柱列の外側に、ほとんどがほぼ柱列に平行して茅類が集まっていた。直立の板材は壁板を示すもの



第24図　第40、41、42号竪穴遺構平面図

と推している。床面を精査すると柱穴の外側に巾2㎝、長さ10㎝余の浅い溝を検出できたがこれがこの板材の床面に残された痕跡と推するところである。茅類は壁の断熱・防風材又は屋根の葺代であろう。束ねた痕はまだ明らかでない。長軸南部、柱列イ～トの外側が他の面或いは他の竪穴に比し広くとられているが茅類以外の炭化材は少なく、四周に壁材が廻る建物はこの柱列外側までで完結するかと推するものである。幾分まとまって小柱穴が分布するようであるが、或いは棚状の施設を支える一部でもあろうか。或いは当初の建物を南側だけ縮小して建てかえた結果とも推されるが、なお検討しなければならない。覆土中から他の竪穴に比べ多量の鉄製品が出土している。釘42点113g、小札48点166gなどが目立つところであるが、更に出土位置等細かく検討したく思っている。美濃大窯Ⅰ期の鉄軸碗（第27図5）も出土している。

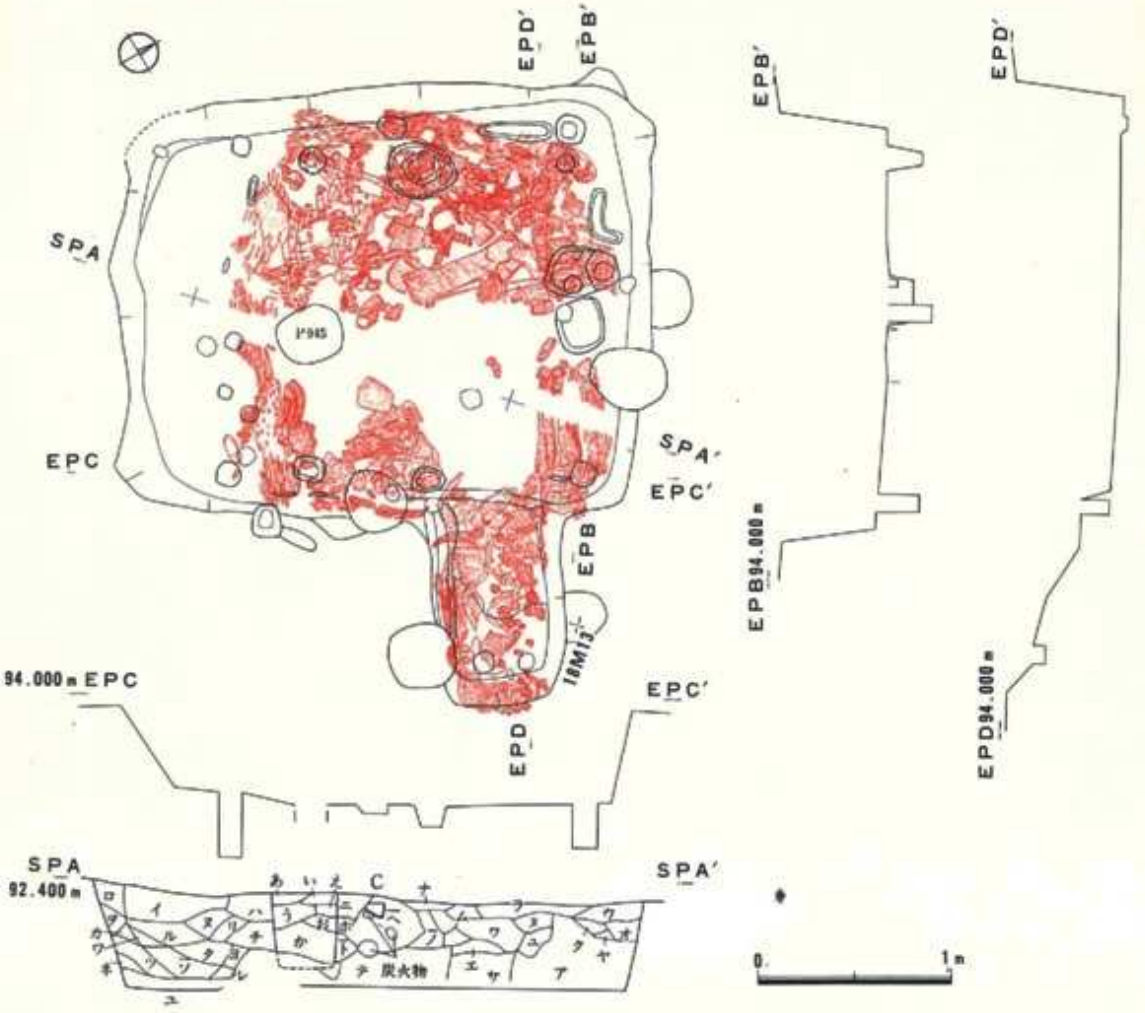
45号竪穴の炭化材中に壁体と推されるものがありその痕跡を床面に見たが、40、43、18L12過年度調査竪穴等にも同様の痕跡を検出し得た。ある程度推測の妥当性を示し得たかと思う。

18M11　竪穴42東西セクション南壁（SPA-A'）土層堆積

イ	10YR 4/6褐	礫粒	C、ややハード
ロ	10YR 3/4暗褐	焼土粒	C、少量、ローム粒少量(ハより)ハード
ハ	10YR 4/4～4/6褐		ローム　C
ニ	10YR 4/6褐	焼土粒	ローム粒・C、ややソフト
ホ	10YR 4/6褐	焼土粒	ローム粒・C、礫粒
ヘ	10YR 4/4～4/6褐	焼土粒	ローム粒・C、礫粒ソフト
ト	10YR 4/6褐～3/4暗褐	焼土粒	ローム粒・C、ソフト
チ	10YR 4/6褐	ロームブロック	C　砂利、粘土質
リ	10YR 4/6褐	ローム粒	C　焼土粒(ハ)よりソフト
ヌ	10YR 4/6褐	ローム粒	C　(ハ)より粗
ル	10YR 4/6褐	C	やや粘性(チ)よりソフト
ヲ	10YR 4/6褐	C	(ヘ)よりソフト
ワ	10YR 4/4～4/6褐	ロームブロック	焼土粒　C
カ	10YR 4/6褐	ロームブロック	C
ヨ	10YR 4/6褐～3/4暗褐	礫粒	ローム粒　C
タ	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム粒　C　焼土粒
レ	10YR 4/6褐		ローム粒　C　焼土粒　ソフト
ソ	10YR 3/4暗褐	焼土粒	Cやや多い
ツ	10YR 4/6褐	小礫	ローム粒　C
ネ	10YR 5/6黄褐	全面ローム	
ナ	10YR 4/6褐～3/4暗褐	ロームブロック	焼土粒、C、ソフト
ラ	10YR 4/6褐	ロームブロック	C　(ヲ)より粘質
ム	10YR 4/6褐	礫粒、焼土粒	C　ややハード
ウ	10YR 4/6褐	ローム粒	C　粗
ヰ	10YR 4/6褐	ロームブロック	焼土粒　C、火山灰散量
ノ	10YR 4/6褐	ローム粒	焼土粒やや多い
オ	10YR 4/6褐～3/4暗褐	ローム粒	C
ク	10YR 5/6褐	C	焼土粒多い
ヤ	10YR 3/4暗褐	C	(オ)よりソフト
マ	10YR 6/6明黄褐	C	全面ローム
ケ	10YR 4/6褐	ローム粒	C、ややソフト
フ	10YR 3/4暗褐	ローム粒少量	C、ソフト
コ	10YR 4/4～4/6褐	ローム	C　粘質　ソフト
エ	10YR 4/6褐	ロームブロック	C　粘質
テ	10YR 4/6褐～3/4暗褐	ロームブロック	C　粘質　ややハード
ア	10YR 4/6褐	焼土粒	C　粘土質
サ	10YR 4/6褐	C	全面ローム
キ	10YR 4/6褐	焼土粒	C　粘質　(ヲ)よりハード

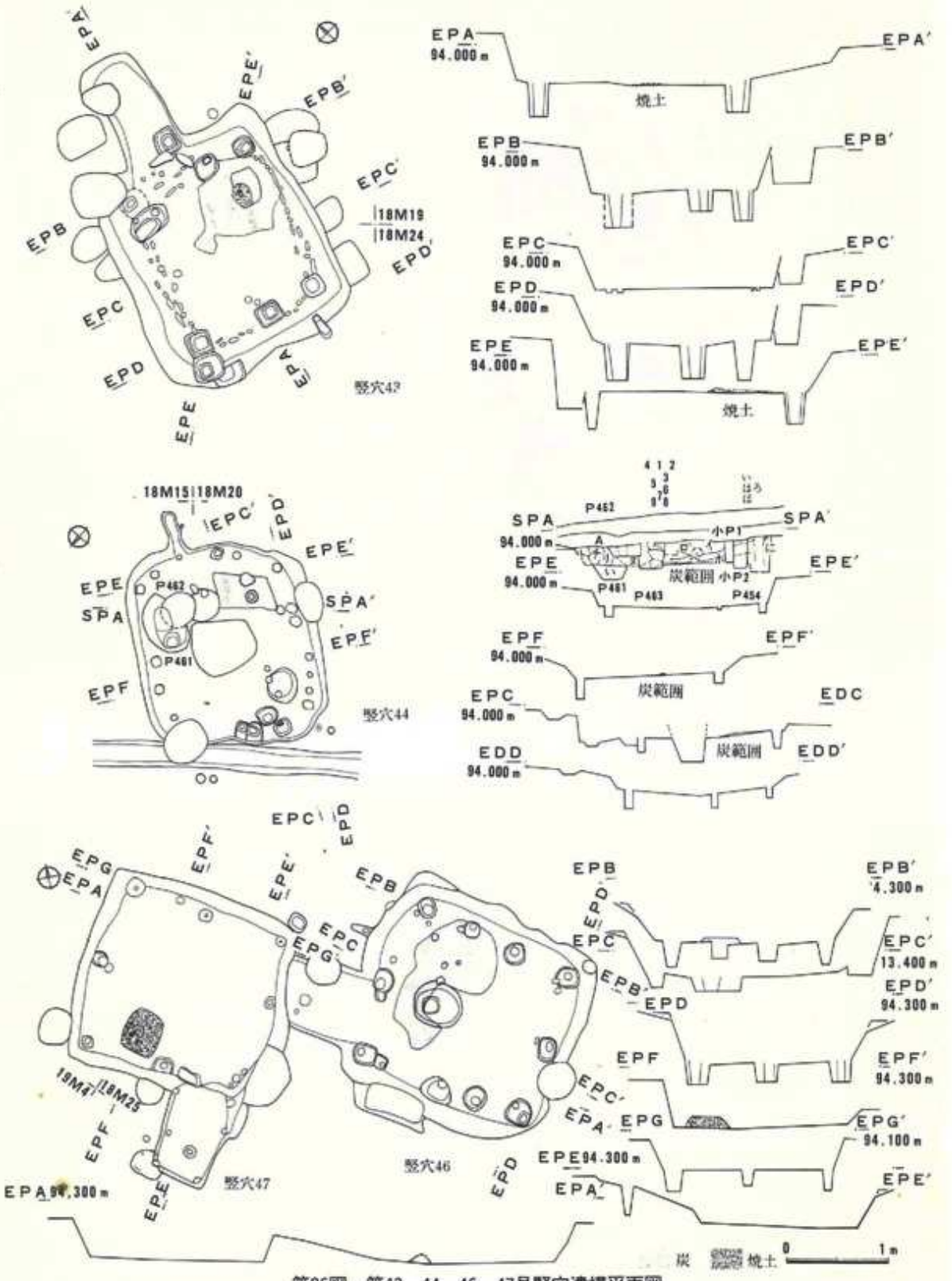
18M14　竪穴44南北セクション東壁（SPA-A'）土層堆積

Ⅰ-1		10YR 4/6褐	礫粒	草根多量
Ⅲ-1		10YR 4/6褐　礫粒	焼土粒	ローム　C散量
Ⅴ-1		10YR 4/6褐	礫粒	C散量　全面ローム、ハード
竪穴44	イ	10YR 3/3暗褐	礫粒	焼土粒　ローム　C散量
	ロ	10YR 4/4～4/6褐	礫粒	焼土粒　ローム　C散量ハード
	ハ	10YR 4/4～3/3褐・暗褐	礫粒	焼土粒　ローム　C散量ソフト
	ニ	10YR 4/4～3/3褐・暗褐	礫粒	焼土粒　ローム　C散量ややハード
	ホ	10YR 4/4～4/6褐	礫粒	焼土粒　ローム　C散量火山灰ややハード
	ヘ	10YR 3/3褐～2/3黒褐	ローム	C散量粘性ソフト
	ト	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム　C少量
	チ	10YR 4/4～4/6褐	礫粒	焼土粒　ローム　C少量
	リ	10YR 3/4暗褐	礫粒	焼土粒　ローム　C少量
	ヌ	10YR 4/4褐	礫粒	焼土粒　ローム　C少量
P-462	A	10YR 4/4褐	礫粒焼土粒	C少量
P-463	1	10YR 4/4褐	ローム少量	C散量
	2	10YR 4/4～4/6褐	ローム多量	C散量　ハード
	3	10YR 3/4暗褐	ローム多量	C散量　焼土粒
	4	10YR 3/4暗褐	ローム少量	C散量　焼土粒
	5	10YR 3/4暗褐	ローム少量	C少量　焼土粒ソフト
	6	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム　C散量　ソフト
	7	10YR 3/4暗褐	礫粒	焼土粒　ローム　C少量　ソフト
	8	10YR 4/6褐	C散量	全面ローム
	9	10YR 3/4暗褐	礫粒	C散量　ロームソフト
P-461	い	10YR 4/4褐	礫粒	ローム多量　ややハード
P-454	い	10YR 4/4褐	礫粒	ローム多量　ハード
	ろ	10YR 3/4暗褐	礫粒	ローム、焼土粒　C散量、ソフト
	は	10YR 4/6褐	礫粒	焼土粒　C散量、全面ローム　ハード
	に	10YR 4/6褐	礫粒	C散量　全面ローム　ハード
	ほ	10YR 4/4～4/6褐	礫粒	焼土粒　C散量、ローム多い粘性
小柱穴1		10YR 4/6	礫粒	C散量、ローム多量
小柱穴2		10YR 3/4	礫粒	C散量、ローム

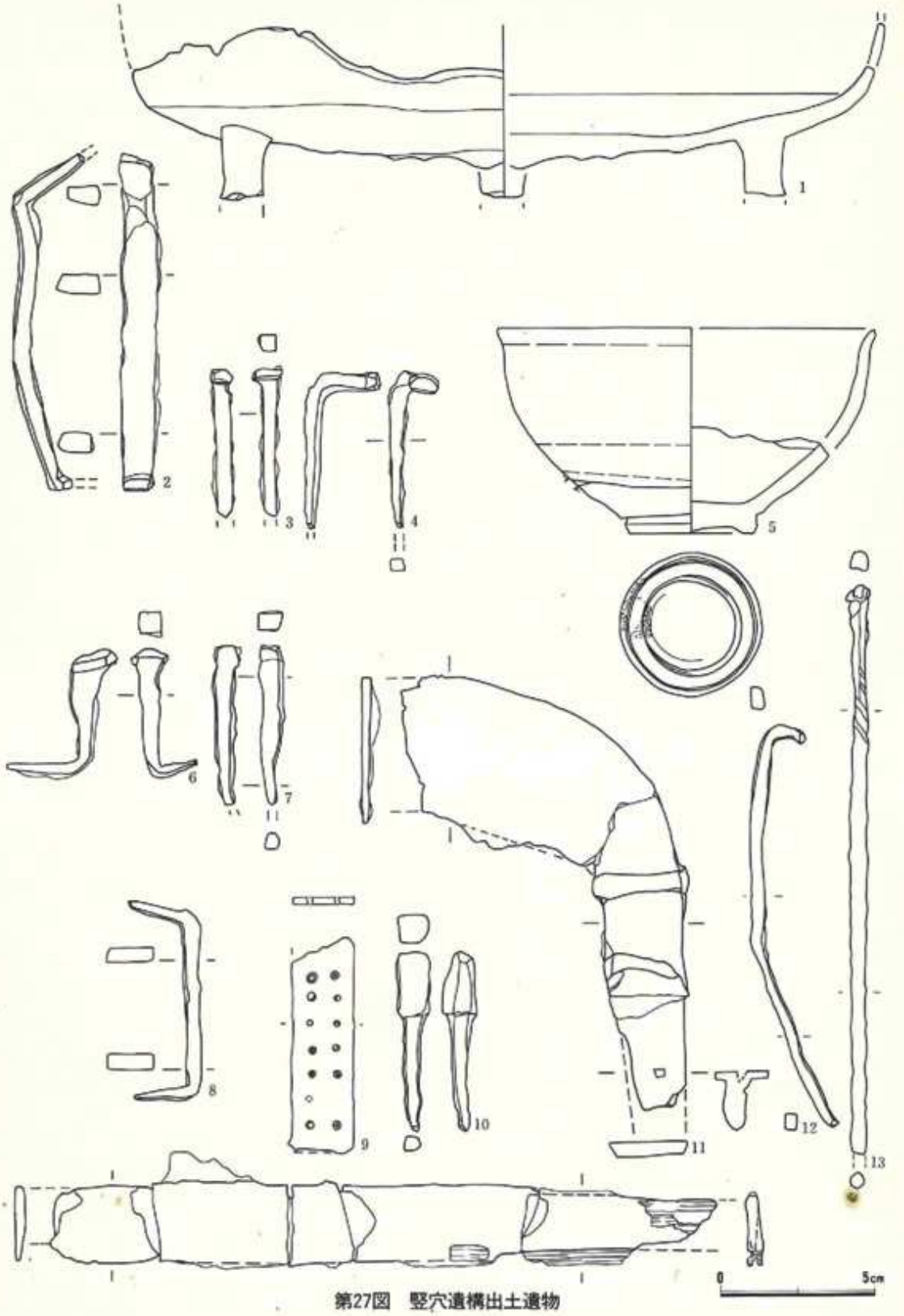


第穴45
A～A' イ10YR ½ 暗褐 焼土粒 C ローミブロック少量 ソフト
ロ ½ 褐 〃 シルト
ハ ½ 暗褐 焼土，ブロック共に多量 C
ニ ½ 〃 焼土粒 基盤礫 ロームブロック
ホ ½ 〃 〃 〃 C ソフト
ヘ ½ 黒褐 〃 ローム粒 火山灰 C
ト ½ 暗褐 〃 砂粒微量 粘性あり
チ 〃 〃 〃 礫粒 C ロームブロック (リ) より明いソフト
リ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 ソフト
ヌ 〃 〃 ローム粒 〃 砂粒 C ソフト
ル 〃 〃 〃 〃 C ヤヤハード
ヲ ½ 褐 砂粒 シルト
ワ ½ 暗褐 〃 C 微量 やや粗
カ ½ 〃 砂粒微量
ヨ ½ 黒褐 焼土粒 C ソフト
タ ½ 暗褐 〃 C ローム粒
レ ½ 〃 焼土粒微量 〃 C 粘性あり
ソ ½ 〃 ロームブロック C 粘性あり
ツ 〃 〃 ローム粒微量 土器1コ シルト ソフト
ネ ½ 褐 ロームブロック 粘性あり
ナ ½ 〃 〃 〃 ローム粒 (ム) よりCが少ない ソフト
ラ ½ 〃 〃 〃 ロームブロック ソフト
ム ½ 〃 〃 〃 ローム粒 ソフト
ウ ½ 〃 〃 〃 ロームブロック ややハード
キ 〃 〃 焼土ブロック 基盤礫 C ロームブロック ソフト
ノ ½ 黒褐 焼土粒 礫粒 ローム粒 C
オ ½ 暗褐 〃 C微量
ク ½ 〃 〃 ロームブロック ソフト
ヤ 〃 〃 〃 ローム粒 (ク) よりソフト
マ 〃 〃 〃 ロームブロック ソフト
ケ ½ 〃 焼土ブロック 〃 基盤礫 ソフト
フ ½ 黒褐 焼土40% 炭化物
コ 〃 〃 焼土粒 ロームブロック1～2コ C ソフト
エ 〃 〃 焼土粒 ローム粒 C 5人3㎝大 ソフト
テ ½ 暗褐 〃 基盤礫粒 ソフト ロームブロック
ア10YR ½ 黒褐 礫粒ブロック C 焼土粒 ロームブロック ソフト
サ 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 (ア) よりやや明るいソフト
キ ½ 〃 焼土粒 C ローム粒
ユ ½N褐 〃 〃 ローム多量
P945 あ
い10YR ½ 黒褐 焼土粒 ロームブロック C ソフト
う 〃 〃 〃 礫粒 ソフト
え 〃 〃 〃 ローム粒 〃
お ½ 暗褐 〃 基盤礫 C ソフト
か ½ 〃 〃 土器 〃 ハード

第25図　第45号竪穴遺構平面図



第26図　第43、44、46、47号竪穴遺構平面図



第27図　竪穴遺構出土遺物

b　土壙

55基の土壙が見つかっている。未整理の部分が多く全容を明らかにできない。径が90～135cmの円形が多く、深さは30～150cm程と差異がある。

土壙７（第28図）:17M22区に位置する。135×130cm、深さ105cm程を測る。本遺跡で見られる土壙の一類型となるもの。Ⅲ層下位に掘り込みがある。覆土中から釘３点鍛造剝片1.8ｇなどが出土している。

土壙９（同）:18M１区に位置する。130×115cm、深さ80cm程である。覆土中から1.9ｇの鍛造剝片が出土している。鍛冶・鋳造跡内に位置すると推され、その作業に関連する遺構とも考えられるが、一帯に分布する砂利層が覆土内に見られるなど今少し検討しなければならない。鍛造剝片もこの砂利層中の出土とも推される。

土壙13（第29図）:18Ｌ１区に位置する。110×110cm、深20～30cm、鍛造剝片2.8ｇ、釘１点などが出土する。溝５より新しい。

土壙17（同）:18M16区に位置する。土壙７と同種か。110×110cm深さ100cm程である。同心円状の土の堆積を見る。

土壙18（第30図）:18Ｎ５区に位置する。100×100cm、深さ25～45cm。3.8ｇの鍛造剝片が得られている。土壙９と同じく覆土中に鍛冶・鋳造跡全体に分布する砂利層の一部がみられることから鍛造剝片もこの覆土中からの出土とも考えられる。

土壙20（同）:18Ｌ11区に位置する。120×90cm。深さ40cm程である。径20cm前後の礫が集積する。粘土の固い層が中段に厚く堆積する。鉄鍋・小札釘が出土している。

土壙31（同）:18M25区に位置する。120×110cm。深さ150cm程である。中央部が外周に比べやや軟らかな土の堆積をしている。壙底20cm余りに曲物枠が据えられていた。この枠の下位から壙底には１～３cm大の砂利が７～８cm敷きつめられていた。鍋の小片（1.6ｇ）と釘７点が出土している。

土壙42（同）:18N15区に位置する。平坦面北西端を廻る柵列の外に位置している。鍛造剝片1.2ｇが出土している。

土壙の一部について略述したが、土壙内から採取した土壌サンプルの洗浄、フローティング結果や他の遺物の出土状況、土層の堆積等未整理の状況にある。土壙19、24、30、38等からは鉄鍋の小片（6.7～151ｇ）が、土壙43の壙底からは内耳鉄鍋片（304.4ｇ）が出土しいる。釘は土壙の４、８、10、14、19、22、23、24、38、39から１～４本（2.2～12.4ｇ）出土している。完掘してはいないが、47、48からの各33、18本（77.6、18.0ｇ）の出土が際立っている。小札は14、19、24から１、２点出土する。鍛造剝片は６、14、15、19、24、48から0.6～3.6ｇ出土している。

土壙31の壙底に砂利が敷かれ、曲物枠が据えられていたことは、井戸としての使用が考えられそうである。他の類似の形態の物も併せ保水性、建物との位置関係など更に検討したい。

c　溝

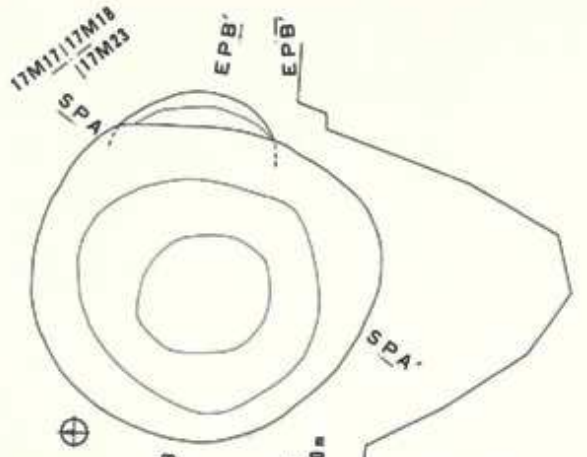
調査区北東部に18M６～18Ｌ１に至る塀様の柱列が続く。この柱列に平行して北東側に段がつくられ段と柱列で前後の区画が強く区分されている。この柱列の南西の平坦面に建物敷地を区画する地割の溝が作られている。東西に長軸を持つ長方形が基本形であるが、作りかえや削平の為もあってか必ずしも四辺が揃わないし建物の配置と一致するものも少ない。18M20区では東西8.8ｍ南北６ｍ約53m²程の区画である。なお18M１区及び17M21区の土壙２から東へ溝跡が僅かに見つかっているが、これらの延長が18M19区の溝につながり、地割がつくられるかとも推している。溝の巾は35～50cm、深さは10～40cm程で、溝の中には径７～10cm程の小柱穴が不規則に並んでいる。

(8)　柵列

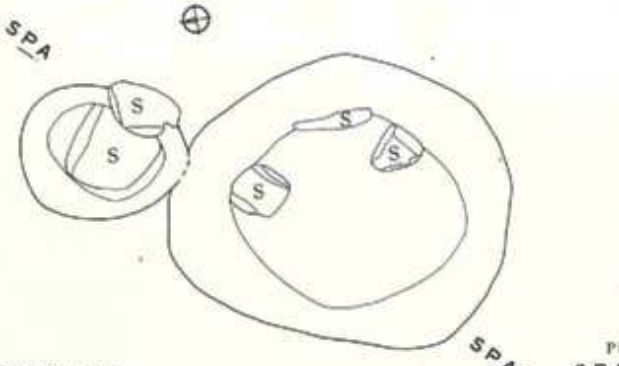
台地西側の端部に巾30cm、深さ10～50cmの溝がつくられている。溝の中には径10cm前後の柱穴が５～20cm間隔で並んでいる。台地の端部を廻る柵列で前年度調査区で検出されたものに連続するものである。柵列の上に10cm前後の礫が集積しているところがある。前年度の調査区にも見られたが、館の時期の集石とする確証は得られていない。

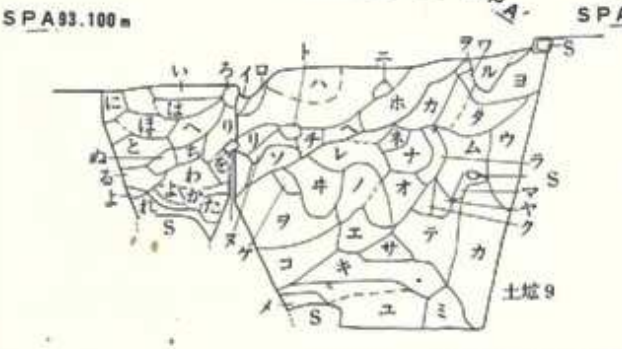
(9)　遺物

出土遺物の概要を表として末尾に付すとともに主な遺物を31、32図に示した。31図は、土壙、柱穴覆土からの出土、32図は包含層からの出土遺物である。31図10、11は鉄製品で土壙23、31出土。刺突具の類か。13～15は土壙47出土。木箱等の存在が推される。21は鉄製の容器か。32図13は火打金、27は太刀柄頭、28は六器台。又23の金鎚は近代のものかも知れない。



土坑7





土坑9

17M22土坑7（A－A'）土層堆積

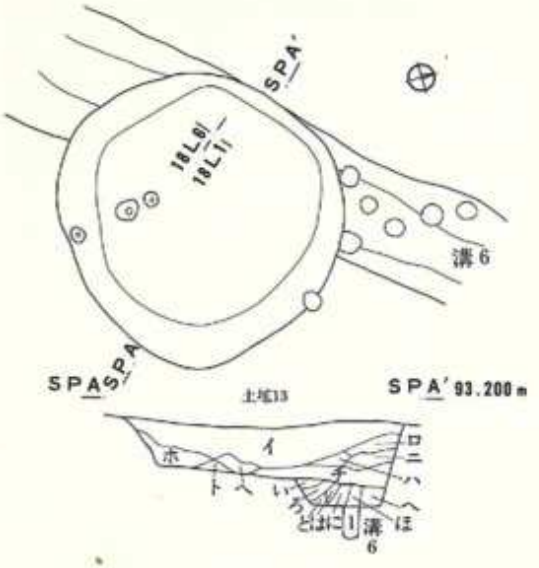
Ⅲ－1	10YR⅓黄褐	礫粒 C
〃 2	〃 ⅓褐	小礫 〃 焼土粒
〃 3	〃 ⅓暗褐	焼土粒微量 ソフト
土坑7 イ	10YR⅓褐	礫粒 C 玉砂利 小・中・礫
ロ	〃 ⅓暗褐	焼土粒 ローム粒微量 ソフト
ハ	〃 ⅓褐	礫粒 玉砂利
ニ	〃 ⅓褐	小礫 C ローム
ホ	〃 ⅓ 〃	礫粒 基盤礫 C ハード
ヘ	〃 ⅓暗褐	ローム C
ト	〃 〃	玉砂利 焼土粒微量
チ	〃 ⅓褐	礫粒 焼土粒 C微量 ソフト
リ	〃 〃	玉砂利 〃 C ローム ソフト
ヌ	〃 ⅓褐	〃 〃 〃 〃 〃
ル	〃 ⅓暗褐	〃 〃 〃 〃
ヲ	〃 ⅓暗褐	〃 C ローム ソフト
ワ	〃 ⅓褐	〃 焼土粒 C ローム ハード
カ	〃 ⅓暗褐	焼土粒 C微量
ヨ	〃 ⅓褐	玉砂利微量
タ	〃 ⅓暗褐	玉砂利 C ローム粒 ソフト
レ	〃 ⅓褐	礫粒 小礫 C 〃 〃
ソ	〃 ⅓ 〃	〃 C微量 焼土粒
ツ	〃 〃	〃 玉砂利
ネ	〃 〃	小礫 〃 C
ナ	〃 ⅓褐	〃 玉砂利微量 微量 C ローム
ラ	〃 ⅓暗褐	焼土粒微量 C ソフト
ム	7.5YR⅓褐	玉砂利微量 ザラザラ
ウ	〃 ⅓褐	〃 〃
赤	10YR⅓にぶい黄褐	礫粒 ベトベト
ノ	〃 〃	〃 ザラザラ
オ		
ク		
ヤ	10YR⅓褐	礫粒 ベトベト

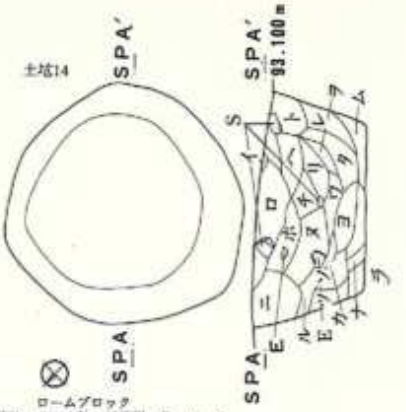
17M21・18M1 土坑9 P1323（A－A'） 土層堆積

土坑9 イ	10YR⅓黄褐	礫粒 焼土粒 C少量 ハード
ロ	〃 ⅓～⅓褐	〃 〃 〃多量 ソフト
ハ	〃 ⅓褐	〃 〃 C少量 全面玉砂利多量
ニ	〃 〃	〃 〃 C微量 ロームブロック ハード
ホ	〃 〃	〃 〃 〃 全面玉砂利多量
ヘ	〃 〃	〃 〃 〃 玉砂利少量
ト	〃 〃	〃 〃 〃 ロームブロック ハード
チ	〃 〃	〃 〃 〃 全面玉砂利多量
リ	〃 〃	〃 〃 〃 〃
ヌ	〃 〃	〃 〃 〃 ローム基盤粒 ソフト
ル	〃 〃	〃 〃 〃 全面玉砂利多量
ヲ	〃 〃	〃 〃 〃 ローム
ワ	〃 ⅓～⅓褐	〃 〃 〃 ソフト
カ	〃 ⅓褐	〃 〃 C少量 ローム基盤粒 ハード
ヨ	〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃
タ	〃 ⅓～⅓褐	〃 〃 〃 〃 〃 ややハード
レ	〃 ⅓褐	〃 〃 C微量 ローム ややソフト
ソ	〃 ⅓褐～⅓黄褐	〃 〃 C少量 基盤粒 ハード
ツ	〃 ⅓～⅓ 褐	〃 〃 〃 ローム ややハード
ネ	〃 ⅓黄褐	全面ロームブロック （ナ）より明るい ハード
ナ	〃 ⅓褐	礫粒 C少量 ロームブロック （ラ）よりやや暗い
ラ	〃 ⅓褐～⅓にぶい黄褐	礫粒 C少量 ロームブロック 基盤粒 ハード
ム	〃 ⅓～⅓褐	礫粒 焼土粒 C微量 ローム 基盤粒 〃
ウ	〃 ⅓褐	〃 〃 〃 〃 〃 粘性 ややソフト
赤	〃 〃	〃 〃 〃 〃 ややハード
ノ	〃 〃	〃 基盤粒 ローム ハード
オ	〃 ⅓褐～⅓黄褐	〃 〃 〃 C少量 ハード
ク	〃 ⅓褐	〃 〃 〃 C微量 ややハード
ヤ	〃 〃	〃 〃 〃 C微量 ソフト
マ	〃 ⅓褐～⅓黄褐	〃 〃 〃 〃 粘性 ややソフト
ケ	〃 ⅓黄褐	〃 〃 〃 C少量 ハード
フ	〃 ⅓褐～⅓黄褐	〃 〃 〃 〃 ややソフト
コ	〃 ⅓褐	〃 〃 〃 C微量 粘性 ハード
エ	〃 〃	〃 〃 〃 C少量 ややハード
テ	〃 〃	〃 〃 〃 C微量 粘性 団子状 ソフト
ア	〃 〃	〃 〃 〃 〃 〃 〃
サ	〃 ⅓～⅓褐	〃 〃 〃 〃 〃 ソフト
キ		
ユ	〃 ⅓褐	礫粒 ローム C微量 粘性 団子状 ソフト
メ	〃 〃	〃 C微量 ローム 〃 〃 〃
ミ	〃 〃	〃 基盤粒 〃 C微量 〃 粘性 ややソフト
P1	1323h 10YR⅓褐	礫粒 焼土粒 C微量
ろ	〃 〃	〃 〃 〃 ややハード
は	〃 〃	〃 〃 〃 ローム ややソフト
に	〃 〃	〃 〃 〃 火山灰 ややハード
ほ	〃 〃	〃 〃 〃 〃 骨まじり ややソフト
へ	〃 ⅓褐	〃 〃 〃 ローム多い ややハード
と	〃 ⅓～⅓褐	〃 〃 〃 〃 〃
ち		
り	10YR⅓褐	礫粒 焼土粒 C少量 炭化物 火山灰 ソフト粗
ぬ	〃 ⅓褐	〃 〃 C微量 ローム ややハード
る	〃 ⅓にぶい黄褐	〃 〃 〃 〃 火山灰 ソフト
を	〃 ⅓褐～⅓にぶい黄褐	礫粒 基盤粒 ローム 粘性 ソフト
わ	〃 ⅓にぶい黄褐	火山灰 C少量 玉砂利 ローム 粘性 ソフト
か	〃 ⅓黄褐	礫粒 焼土粒 C微量 基盤粒 ソフト
よ	〃 ⅓にぶい黄褐	焼土粒 火山灰 C少量
た	〃 ⅓褐	礫粒 焼土粒 〃 〃 ソフト
れ	〃 ⅓褐～⅓にぶい黄褐	基盤粒 焼土粒

0 50cm

第28図 土壙7、9平面図他





18L 6 土坑14 土層堆積

土坑14イ　ロームブロック
ロ10YR⅓暗褐　雑粒　ローム粒　玉砂利　C　ハード
ハ　〃　〃　〃　〃
ニ　〃　〃　ローム粒5%　〃　C　シルト
ホ　〃　⅓〃　雑粒　ローム粒　C 2cm角1コ　越前擂鉢1コ（E-5）
ヘ　〃　⅓褐　ローム粒　玉砂利　C　火山灰　雑粒多くザラザラ
ト　〃　⅓暗褐　雑粒微量　C微量　火山灰10%　玉砂利　ソフト
チ　〃　⅓褐　雑粒　ローム微量　C　玉砂利
リ　〃　⅓暗褐　〃　ローム粒　C微量　玉砂利ザラザラ
ヌ　〃　〃　〃 微量　〃　C 1cm角（青磁1個体3片E-3・4）ダンゴ状
ル　〃　⅓〃　ローム粒20%
ヲ　〃　⅓褐　ローム3%　C
ワ　〃　〃　ローム粒　C
カ　〃　⅓黒褐　C　粘性
ヨ　〃　⅓暗褐　ローム粒30%粘性
タ　〃　⅓〃　〃　火山灰　粘性ベトベト
レ　〃　⅓褐　ローム粒　C　火山灰微量
ソ　〃　〃　ローム20%　C
ツ　〃　⅓暗褐　ローム　C　シルト＊
ネ　〃　⅓褐　ローム粒　C微量　ベトベト
ナ　〃　〃　火山灰微量　C
ラ　〃　〃　火山灰10%　ローム粒微量
ム　〃　〃　ローム粒　C微量　火山灰微量

18L.I　土坑13、溝6 土層堆積

土坑13イ10YR⅓暗褐　雑粒　ローム粒　玉砂利　ソフト
ロ〃　⅓　〃　ロームブロック　（1cm大）2、3コ
ハ〃　⅓　〃　ローム少量
ニ〃　〃　〃　雑粒　ローム粒　玉砂利　染錆1（E-1）
ホ〃　〃　〃　〃　〃　〃　（イ）よりハード
ヘ〃　⅓　〃　ロームブロック（1cm大）1コ
ト〃　⅓　〃　ローム粒　雑粒微量
チ〃　⅓　〃　〃　〃　C強性

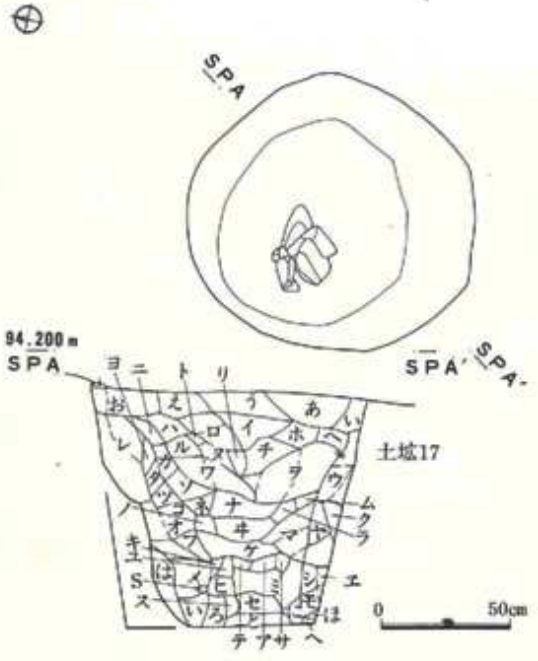
溝　6い10YR⅓褐　ローム　C　粘性
ろ　〃　〃　〃　〃　〃　（い）よりソフト
は　〃　⅓暗褐　〃　雑粒微量　C　ソフト
に　〃　〃　雑粒　ローム（は）より少ない
ほ　〃　⅓褐　ローム　C微量
へ　〃　⅓〃　ローム粒微量
と

18N15
18N20

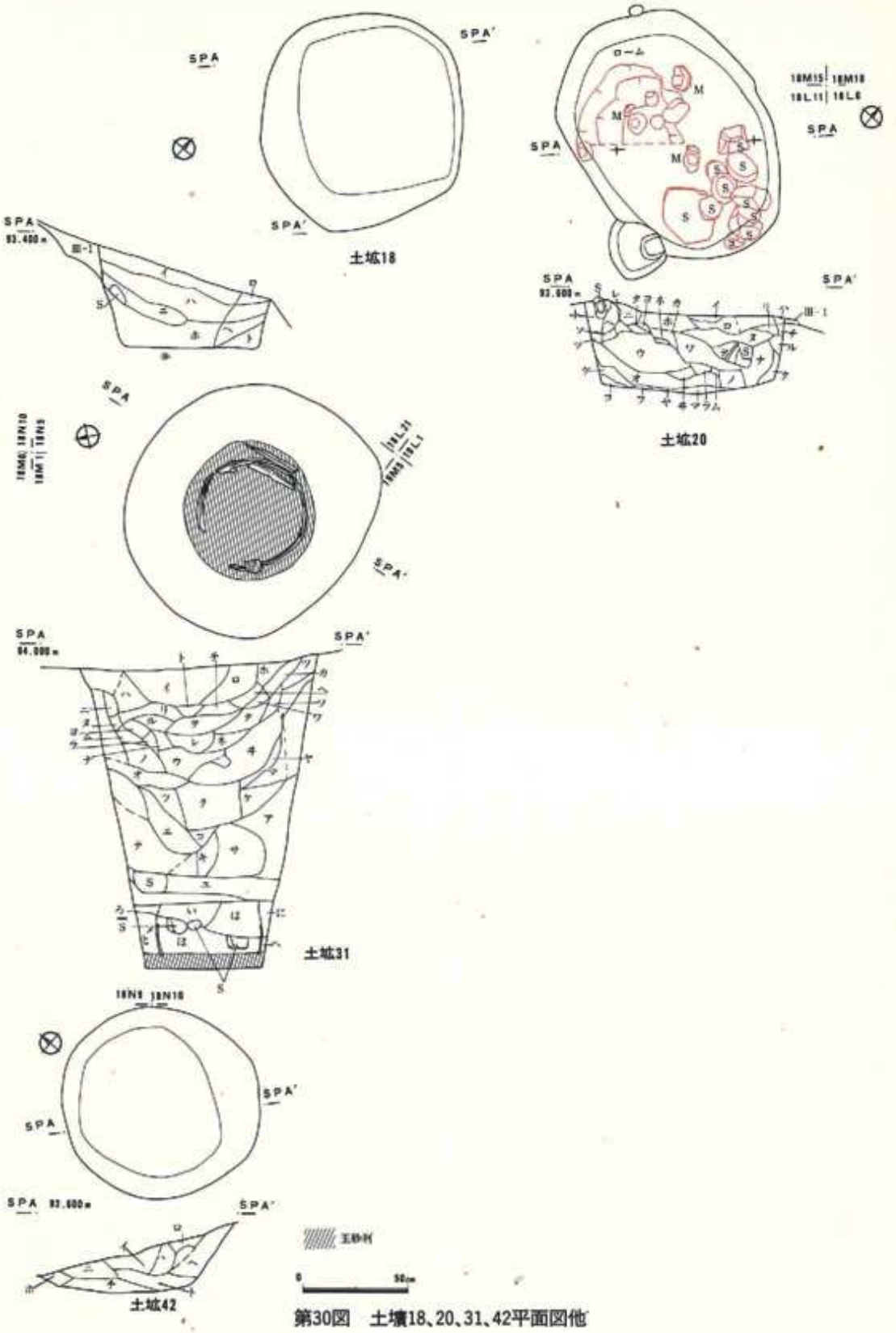
小柱穴1 10YR⅓暗褐　ローム　C

18M16土坑17東西ライン北壁土層堆積

土坑17あ10YR⅓褐　雑粒　焼土粒　ローム　C少量　火山灰　密　ややハード
い　〃　⅓暗褐　〃　〃　〃　〃　（土器1コ）〃　〃
う　〃　〃　〃　〃　〃　〃　ややソフト
え　〃　⅓暗褐　〃　〃　〃　〃　ソフト
お　〃　⅓〃　〃　ローム　C少量　ソフト
イ10YR⅓黒褐　雑粒　焼土粒　ローム　C少量　ソフト
ロ　〃　⅓暗褐　〃　〃　〃　〃
ハ　〃　〃　〃　〃　〃
ニ　〃　〃　C少量　〃
ホ　〃　⅓暗褐　雑粒　〃　〃　〃　〃
ヘ　〃　⅓〃　〃　〃　〃
ト　〃　⅓〃　〃　〃　〃
チ　〃　⅓〃　〃　〃　ローム　〃　〃
リ　〃　⅓〃　C微量　ローム　ソフト（チ）よりやや暗い
ヌ　〃　⅓黒褐　雑粒　焼土粒　C微量　〃
ル　〃　⅓暗褐　〃　〃　ローム　C微量　ソフト
ヲ　〃　〃　〃　ローム　C少量　ソフト　やや密
ワ　〃　〃　〃　ローム多量　〃　ソフト
カ　〃　〃　〃　C微量　〃
ヨ　〃　⅓褐　〃　焼土粒　C微量　ややハード
タ　〃　〃　〃　〃　〃　ソフト
レ　〃　〃　〃　〃　ローム　C微量　ややハード
ソ　〃　⅓黒褐　シルト　砂　C微量　粘性　ソフト
ツ　〃　⅓暗褐　雑粒　焼土粒　〃　ややハード　密
ネ　〃　〃　〃　C微量　ローム　ソフト
ナ　〃　〃　〃　〃　ローム多量　ソフト
ラ　〃　〃　C微量　ローム多量　ソフト
ム　〃　〃　〃　ソフト
ウ　〃　⅓褐　雑粒　焼土粒　ローム　C微量　ややハード
キ　〃　⅓暗褐　火山灰多量　C微量　ソフト
ノ　〃　⅓〃　シルト　焼土粒　〃
オ　〃　⅓褐　雑粒　焼土粒　C微量　ややソフト
ク　〃　〃　〃　〃　〃　ローム　ハード
ヤ　〃　〃　〃　C微量　ソフト
マ　〃　⅓暗褐　〃　火山灰多量　〃
ケ　〃　⅓黒褐　シルト　C多量
フ　〃　⅓暗褐　雑粒（土器1コ）　C微量　粗味強い　ソフト
エ　〃　⅓にぶい褐　火山灰　ソフト　粗
テ　〃　⅓黒褐　ペースト状
ア5YR　⅓極暗赤褐　〃　（木質の腐蝕状）粗性
サ10YR⅓暗褐　火山灰　ペースト状　粗性
キ2.5YR1.7/1赤黒　ペースト状
ネ10YR⅓暗褐　火山灰　ペースト状　粗性
メ10YR　⅓〃　雑粒　ザラザラ
ミ　〃　〃　1mm大の砂粒微量　粗性
シ　〃　〃　ペースト状
エ　〃　〃　雑粒ザラザラ
ヒ　〃　〃　雑粒微量　火山灰　ペースト状
モ　〃　〃　〃
セ7.5YR⅓暗褐　（木質の腐蝕状）木質部わずかに残る
ス10YR⅓暗褐　ペースト状
い　〃　⅓褐　雑粒　砂粒微量
ろ2.5YR⅓暗褐　（木質の腐蝕状）
は10YR⅓暗褐　焼土粒微量　ダンゴ状
に　〃　〃　ペースト状
ほ　〃　⅓褐　雑粒
へ　〃　⅓黒褐　雑粒極微量　火山灰
と　〃　⅓暗褐　〃　ザラザラ



第29図　土壙13、14、17平面図他



第30図　土壙18、20、31、42平面図他

18N5土坑18土層堆積

Ⅲ－1 10YR 5/1～5/1	にぶい黄褐	シルト
土坑18イ 10YR 5/1	褐	礫粒 焼土粒 ローム 玉砂利少量 C微量 やや密
ロ 〃 5/1～5/1	褐	全面ローム ソフト
ハ 〃 5/1	暗褐	礫粒 焼土粒 ローム 玉砂利少量 C微量 ソフト
ニ 〃 〃		〃 (ハ) より暗い
ホ 〃 5/1～5/1	褐	全面ローム
ヘ 〃 5/1	褐	〃
ト 〃 5/1	黄褐	全面玉砂利多量

18N14・15土坑42土層堆積

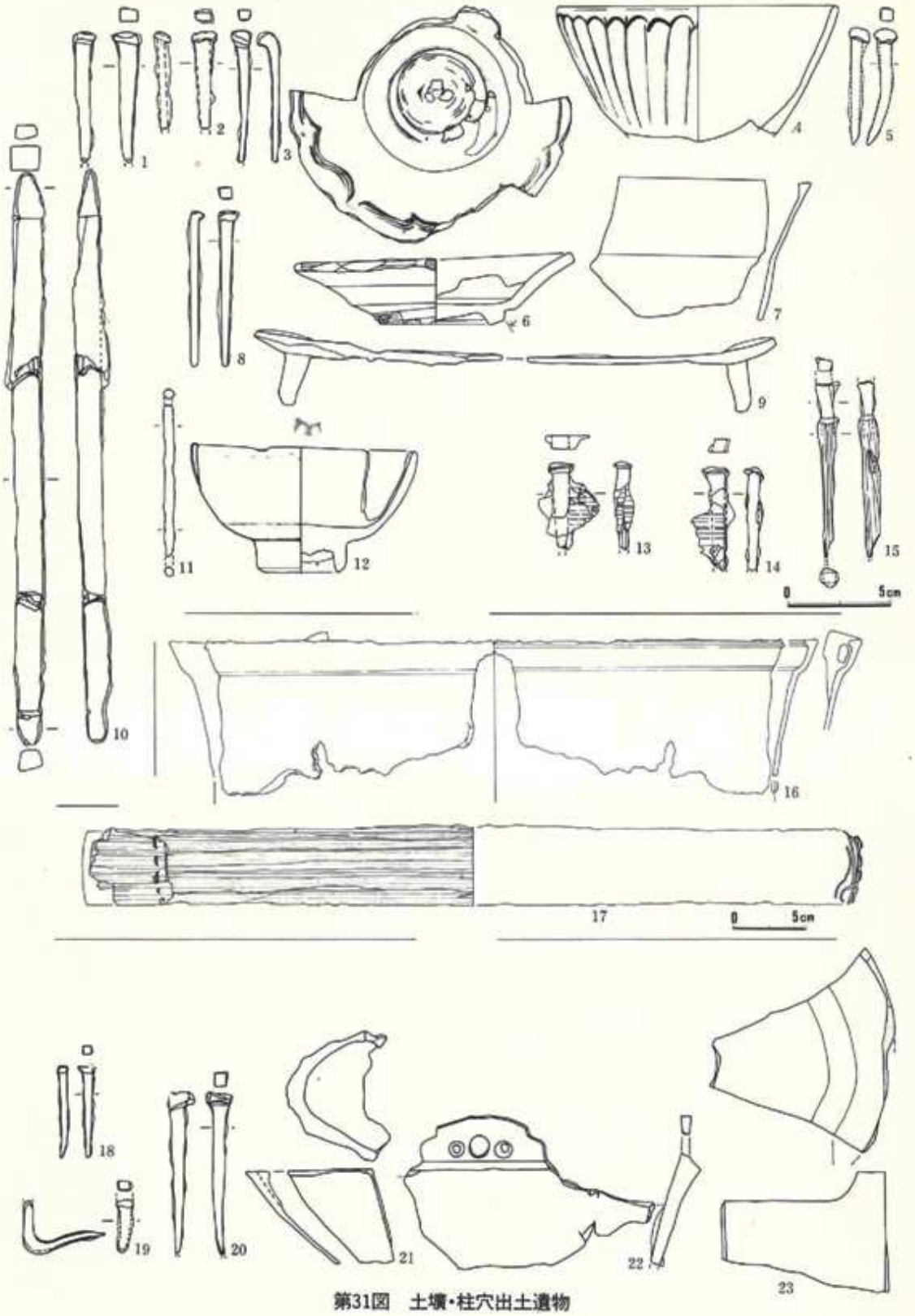
土坑42イ	10YR 5/1暗7.5YR 5/1褐	ローム粒 砂粒微量
ロ	〃 5/1 〃	ローム粒微量
ハ	7.5YR暗褐7.5YR 5/1褐	C微量 鉄の錆はい様子
ニ	10YR 5/1褐	ローム粒微量 シルト
ホ	〃 〃	(ロ) より少し暗いソフト
ヘ	〃 〃	ローム粒 砂粒微量
ト	〃 〃	(ヘ) より湿性
チ	〃 5/1～5/1褐	少々粘性

土坑20東壁土層堆積

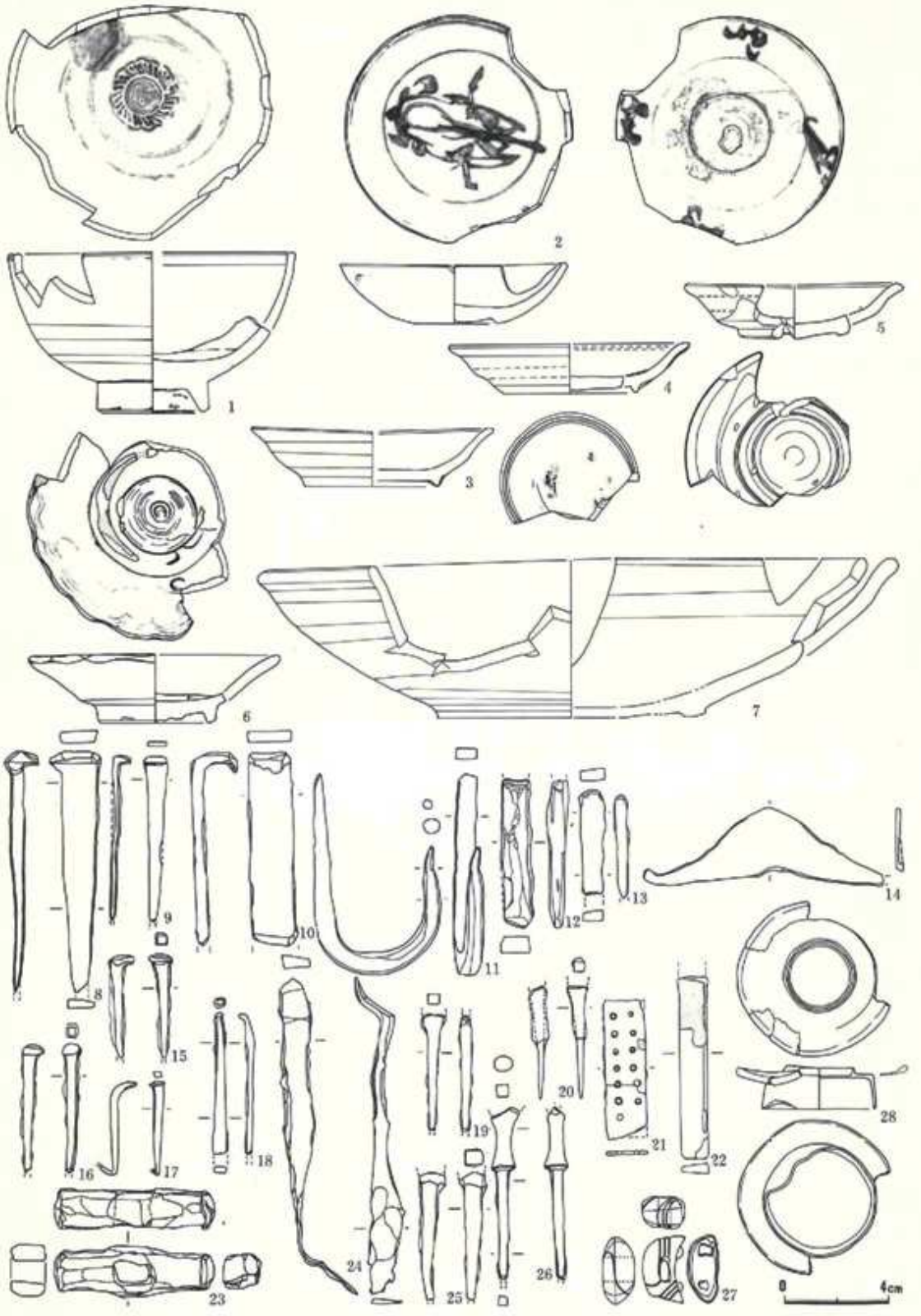
Ⅲ－1 10YR 5/1	にぶい黄褐	ローム粒 ややハード
土坑20イ 10YR 5/1	暗褐	焼土粒 砂利 (ロ) よりややハード
ロ 〃 5/1	〃	〃 ローム粒 C
ハ 〃 5/1	褐	〃 〃
ニ 〃 5/1	黒褐	ローム粒少量 ソフト
ホ 〃 5/1	暗褐	礫粒 (ニ) よりややハード
ヘ 〃 5/1褐～5/1暗褐		ローム70%
ト 〃 5/1	褐	ローム粒 ややソフト
チ 〃 5/1	にぶい黄褐	〃 少量 (ハ) よりややハード
リ 〃 5/1	暗褐	〃 微量 ソフト
ヌ 〃 5/1	〃	粒 ローム粒 C (ロ) よりややソフト
ル 〃 5/1	〃	〃
ヲ 〃 5/1	〃	焼土粒 C (ヌ) よりソフト
ワ 〃 〃	〃	〃 ローム粒 砂利少量 (ヌ) よりソフト
カ 〃 〃	〃	〃 (ヨ) よりややハード
ヨ 〃 〃	〃	C多い
タ 〃 〃	〃	ロームブロック (ヨ) よりややハード
レ 〃 5/1	褐	ローム粒 C 粘土混入
ソ 〃 5/1	暗褐	〃 〃 焼土粒微量
ツ 〃 5/1	にぶい黄褐	〃 〃 粘性
ネ 〃 5/1	暗褐	ロームブロック30%
ナ 〃 5/1	〃	ローム粒 礫粒少量
ラ 〃 5/1	にぶい黄褐	ロームブロック30% (ツ) より粘性
ム 〃 5/1	〃	ロームブロック 火山灰多量
ウ 〃 5/1	黄褐	全面ローム
キ 〃 5/1	褐	ロームブロック80% (ラ) より粘質
ノ 〃 5/1	にぶい黄褐	ローム粒 火山灰多量 ソフト
オ 〃 5/1	黒褐	ロームブロック ややソフト
ク 〃 5/1	褐	礫粒 ローム粒 火山灰多量 (ナ) よりハード
ヤ 〃 5/1	にぶい黄褐	ロームブロック C (オ) よりややハード
マ 〃 5/1	〃	C 火山灰 砂少量 サラサラソフト
ケ 〃 5/1	〃	〃 ローム粒 (オ) よりソフト
フ 〃 5/1	〃	〃 〃 粘質
コ 〃 5/1	〃	〃 ソフト粗

18M25土坑31北壁土層堆積

土坑31イ 10YR 5/1	にぶい黄褐	礫粒 焼土粒 C少量 ローム 火山灰多い
ロ 〃 5/1	褐	〃 〃 〃 〃 火山灰 (イ) より多い
ハ 〃 5/1	暗褐	〃 〃 微量 〃
ニ 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 〃 火山灰多い
ホ 〃 5/1	褐	〃 〃 〃 ローム多量 〃 ハード
ヘ 〃 5/1	〃	〃 〃 C微量 〃 〃
ト 〃 5/1	暗褐	〃 〃 ローム ややソフト
チ 〃 5/1～5/1	褐	〃 ローム多い ややハード
リ 〃 5/1	暗褐	〃 ローム C微量 〃
ヌ 〃 5/1	黒褐	〃 焼土粒 C少量 ソフト
ル 〃 5/1	暗褐	〃 〃 〃 骨 ややハード
ヲ 〃 5/1	褐	〃 C微量 全面ローム ハード
ワ 〃 5/1	〃	〃 焼土粒 ローム ややハード
カ 〃 5/1	暗褐	〃 〃 〃 C微量 湿性
ヨ 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 C少量 ソフト
タ 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 ハード
レ 〃 5/1	褐	ローム C微量 湿性
ソ 〃 5/1	暗褐	礫粒 ローム C微量 湿性
ツ 〃 5/1	黄褐	〃 全面ローム ハード
ネ 〃 5/1	暗褐	〃 ローム多い C微量
ナ 〃 5/1	褐	全面ローム ハード
ラ 〃 5/1	暗褐	礫粒 ローム多い C微量
ム 〃 5/1	〃	〃 焼土粒 ローム C微量 ソフト
ウ 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 C少量 ソフト やや粗
キ 〃 5/1	褐	全面ローム ハード
ノ 〃 5/1	黒褐	礫粒 焼土粒 ローム C少量 ソフト
オ 〃 5/1	暗褐	〃 〃 〃 〃 〃
ク 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 〃
ヤ 〃 5/1	〃	〃 〃 〃 〃 ソフト
マ 〃 5/1～5/1	褐	〃 〃 〃 〃 〃
ケ 〃 5/1～5/1	褐	〃 焼土粒多量 〃 〃 〃
フ 〃 5/1	にぶい黄褐	〃 〃 C微量 湿性 ソフト
コ 〃 5/1	〃	C少量 ローム 湿性 ソフト
エ7.5YR 5/1	褐	礫粒 焼土粒 C少量 湿性ソフト
テ10YR 5/1	褐	礫粒 C少量 骨 〃 〃
ア 〃 5/1	〃	全面ローム 湿性
サ7.5YR 5/1	黒褐	空洞 湿性 粗
キ10YR 5/1	暗褐	礫粒 焼土粒 C少量 湿性 ソフト
ユ7.5YR 5/1	褐	〃 ローム 〃 ソフト
メ10YR 5/1	黒褐	〃 〃 焼土粒 火山灰 粘土質
い10YR 1.7/1	黒	
ろ7.5YR 5/1	褐	礫粒 焼土粒 C少量
は 〃 5/1	〃	粘土質
に 〃 5/1	黒褐	礫粒 C多量 草の根多量
ほ10YR 5/1～5/1黒褐		
へ7.5YR 5/1	明灰褐	礫粒 (緑色)
と 〃 5/1灰褐～5/1褐灰		
ち		全面玉砂利



第31図　土壙・柱穴出土遺物



第32図　調査区出土遺物

Ⅲ 小 括

今年度の調査によって昨91年度調査で見つかった大型の建物等が立つ空間は更に南西に広がり、その境界は段と塀様の柱列によって明確に区分されることが明らかとなった。

この敷地の中央最奥部、段の直下で大きな井戸跡が見つかった。勝山館跡の水回りは寺沢地内の井戸跡、木樋を別とすれば長い間未解明のまま残されていた問題の一つであった。浪岡城や或は各地の街区等の調査での一単位毎に井戸が存在する例とは著しい差異であり、むしろこうした井戸の在り方の違いに勝山館の内部の特徴を見い出すべきであろうとしてきたところである。本年度見つかった井戸がどこに帰属し、どのように使用されていたか、大型建物跡の立つ敷地内には井戸があるということを手懸かりに検討していくこととしたい。

次にこの同じ敷地内の北西隅で見つかった銅鋳造、或は鍛冶加工も含めた作業跡は全く新しい知見であった（註）。今年度調査区出土銅・鉄製品は別表の如く62（除銅銭）、1,131点であり、この地区で各半数前後が集中して出土している。宇野隆夫氏のご教示によればこの地区から出土した一枚のかわらけは、その特殊な性格からしてこの地区での加工作業の内容を示唆する特徴的な遺物であり、大型建物跡の立つ敷地の一隅にこの場があることの意味を端的に示す遺物ということになる。又内田俊秀氏のご教示によれば、この場での作業は春から夏の間ぐらいの短期間・専業鋳物師等が来所の上行ったと考えるべき内容との事であるが、当地は7月頃までは南東の「ヤマセ」が連日のように続く所であり、この北西隅の位置は火災・異臭等を考慮した占地ということができる。こうした主要な建物、屋敷の一画での鍛冶・鋳造・作業は鎌倉等本州の遺跡にも類例が見られるようである。他方鋳物師等の技術者が他所からの来訪であるとするならば、館内での需要に対する供給、或はそれらについての相互の情況（報）把握力等、その背景も考えていかなければならないが「志苔の鍛冶屋（村）」を挙げる迄もなく勝山館・周辺の技術も更に探ることが必要であろう。

土壙47から出土した釘に木質部が残存していることは土壙内に木箱等の入っていることを示している。半分は石敷遺構の下位になり、完掘するのは石敷遺構を撤去することにつながるため部分的調査にとどめて来たが、この石敷その物がこうした土壙を作った後にその上に作られたとするならば、その性格は根本から考え直す必要がでてくる。時には破壊につながることも経て性格の解明を行うことは調査者の義務であるとのご教示を思い起こし、優柔を強く自省するところである。

段や石列で区切られた南西地区は一転して溝で地割された敷地に東西を長軸とする掘立柱と竪穴の建物が整然？と立ち並ぶ一帯である。

大型建物跡の周囲に竪穴建物がないことは、この建物の性格の一端を示すのであろう。焼失した竪穴建物跡の炭化材から壁板（体）の存在が知られ一、二床面に残る痕跡がそれと合致するらしいことが判り、その構造解明に新しい資料を提示し得た。

性格不明の土壙の一つで壙底に曲物枠が見つかり、10cm余の砂利が敷きつめられていた。最も考え易いのは井戸であろう。前述したところでもあるが、他の遺構との配置等も合わせ、勝山館跡の性格解明の一つとして検討することとしたい。

何れにしても出土資料と遺構の関係、遺構、遺物のそれぞれについての整理・分析が中途の状況にあり、充分な報告となし得ないことをお赦し願いたい。

註　本遺構の具体的様相の理解は、京都芸術文化大学内田俊秀助教授のご教示があってはじめてできたことであった。記して感謝申し上げたい。なお下記文献を参考とした。

工藤清泰　浪岡城北館出土の鋳銅関係遺物について　浪岡城跡Ⅶ　1985
斎木秀雄　街なかの鍛冶屋と鋳物師
河野真知郎　武家屋敷によばれた鍛冶屋（ともによみがえる中世3　1989）
五十川伸夫　古代・中世の鋳鉄鋳物　国立歴史民俗博物館研究報告46　1992

表 3　出土遺物集計表（陶磁器）

（総破片数）

産地 / 器種	舶載							国産													
	中国					朝鮮	小計	瀬戸美濃		志野	唐津	土器	越前	珠洲	美濃	信楽	小計	(推定)	合計	近世	総計
	青磁	白磁	染付	赤絵	褐釉			灰釉	鉄釉												
碗	199	4	177	3		1	384	69	65		1						135	(519)	519	34	553
皿	98	231	507				836	455	18	12	4	28					517	(1,353)	1,353	9	1,362
盤	5		1				6											(6)	6		6
杯		8	2				10											(10)	10	1	11
香炉	2						2	2									2	(4)	4		4
擂鉢													312		3		315		315	5	320
夏壺鉢					9		9						630		10		640		649	37	686
袋物		1				1	2		1								1		3	9	12
その他	2						2	13	4	1	1	1			1		21		23	15	38
総計	306	244	687	3		2	1,251	539	88	13	6	29	942		14		1,631	(1,887)	2,882	110	2,992

表 4　出土遺物集計表（鉄製品他）

種別	数量	点数	重量(g)	備考
鉄製品	調理具	(169)	5,378.4	
	鍋	(162)	5,232.9	
	火箸	(4)	39.3	
	火打金	(3)	106.2	
	建築・加工具	(643)	1,983.4	
	釘	(636)	1,804.1	
	鋸	(5)	137.9	
	鑿	(2)	41.4	
	武器・武具	272	1,818.1	
	小札	(238)	1,110.5	
	刀子	(4)	37.7	
	小刀	(24)	604.0	
	鏃	(6)	65.9	
	漁撈、狩猟具	2	78.5	
	刺突具	1	8.4	
	鈎	1	70.1	
	農具？	(12)	203.3	
	鐮	(3)	157.8	
	締金具	9	45.5	
	不明	33	431.6	
	合計	1,131	9,893.3	

種別	数量	点数	重量(g)	備考
銅製品	武器・武具	40	102.4	
	八双鋲	3	5.4	
	八双金物	2	7.4	
	鞐	11	26.7	
	革具	1	2.9	
	綠金具	7	6.4	
	目貫	2	2.2	
	釘（鋲）	9	6.3	
	小柄	4	39.3	
	鍛	1	5.8	
	宗教具	4	127.7	六面片同一個体
	煙管	1	3.8	
	銅銭	83		
	その他	17	97.8	用途不明
	計	145	(331.7)	
骨角器	中柄	1	2.3	被熱弯曲
	刺突具	(1)	3.4	被熱弯曲・幅長11.2cm
	不明	20	3.7	中柄又は刺突具
	計	22	9.4	
土製品	陶錘	9		9片8個体
	その他	3		鋳型？
	計	12		

種別	数量	点数	重量(g)	備考
鍛冶関連遺物	坩堝	(9)		9片7個体
	羽口	(2)		2片1個体
	鋳型？	(1)		3片同1個体
	銅地金	1	97.3	
	銅滴	6	23.6	
	銅未製品	8	87.2	
	銅滓	2	37.7	
	鉄滓	29	589.2	
	鍛造剥片		46.0	
	計	61	881.0	

Ⅳ　保存処理

1．木製品

今年度は昭和63年度までにＰＥＧ含浸処理を完了した木製品541点をエタノールによる表面処理、66点はＰＥＧ含浸完了後、エタノールによる表面処理を行った。処理の内訳は箸、板材、柾、土葬墓棺材等である。

2．鉄製品

69点の処理を行った。従来通り錆除去、エタノール脱水、パラロイドＮＡＤ－10のナフサ溶液20－30％による減圧含浸、接合等を行った。処理の内訳は釘、鍋、小札等である。

3．銅製品

2430点の処理を行った。メス等による錆除去、エタノール脱水後ベンゾトリアゾールのエタノールの２～３％溶液による減圧含浸処理を行なった。また特に脆弱化している遺物についてはその後パラロイドＮＡＤ－10の30％ナフサ溶液による減圧含浸を行なった。処理の内訳は銭、小柄等である。

Ⅴ　まとめ

平成２年度、３年度の遺構確認調査で従来の勝山館跡ではみられなかった大型の建物跡の存在が明らかとなった。殊に平成３年度検出の建物跡については勝山館跡の建築遺構の指導をお願いしている文化学院の鈴木亘先生から「新羅之記録」にある「客殿」に比し得る建物の可能性がありそうであるとのご教示を頂戴した。

今年度の調査によって、この大型の建物跡の建てられる一画は段と柱列で明確に区切られていることが明らかとなった。その位置は前年度調査区範囲から更に４ｍ前後南西寄りに位置していた。北東及び北西を第二平坦面端部の柵列跡まで、南東部を92年度調査区との境の段、溝とするとその面積は約1000㎡にもなる。

しかも今年度調査したこの地区の南西端一帯には、井戸跡、竪穴状土壙・鍛冶・鋳造作業場跡等今迄の調査では見られなかった類の遺構が分布していた。竪穴状の大型土壙は今少し検討を加えその性格に迫りたいと思うところである。井戸跡は上屋、作業位置、排水施設等を示す遺構等を明らかに出来ないままに終ってしまった。更にこの井戸跡をこの一画にのみ帰属させることとして、周辺の遺構の在り方に矛盾は生じないものなのか、なお留意しなければならない所である。鍛冶・鋳造作業場跡は、主要な建物の立つ区域内の一画にそれも周囲の影響を充分考慮して選地されて存在し、しかもそこに特殊な性格を付されることが多い〝かわらけ〟が出土したことによって、この地区一帯の性格を照らし出す結果となったかと推しているところである。更に前年度検出した礎石・集石・遺構、小石の並ぶ配石遺構等の性格も考えて行かなければならない。特に礎石・集積遺構の下位に土壙が一部見つかりそこから木質部の残存付着した釘がまとまって出土したことは、両者が一体の物であるとしたならば、この礎石建物跡の性格に大きく関わってくることであり、調査そのものの不足を示すこととなった。又、こうしたことから前年度想定した建物跡についても、再度検討を加える必要のあることは言うまでもない。

この地区を画する段、柱列の存在はこの区画に強い意識の存在することを示すものである。又この画線が南東の旧道跡とどのような位置関係にあるのか、南西部の次の区画との取り付き方、踏み石状の配石、井戸跡との関係等、未解決の問題を残すところとなっている。礎石列と思われるものも規模等を把握することはできなかった。

段・柱穴列南西の調査区は、敷地を画する溝によって囲まれた長方形の溝がありそこに掘立柱の建物跡、竪穴建物跡が相互に重複と建替えを経ながら存在することが想定されるところとなったが、掘立柱の建物と竪穴の建物が溝で囲まれた同一の区画内に同時に存在するということでは必ずしも無さそうである。むしろ掘立柱の建物跡とそれと対をなす（付属する）竪穴建物跡があって、一つの地割りが形成されているという様子が想定できそうである。勿論更に土壙等の類が加わるこ

ととなるであろう。

掘立柱の建物は3×4、3×5間等を基本とする例が多いようであるが3×3、2×3間等の一室を想定できそうなことは、かつての館神八幡宮跡北東の段状の地割内とは、柱間寸法も含め大きく異ると推されるところである。付言すればここでの掘立柱と竪穴の建物跡との関係も今年度調査区に近いものとした方が良いのかも知れない。

竪穴の建物跡は45号竪穴の焼失材と他の竪穴の床面の痕跡から、縦の壁（板）材のあったことが推測できそうである。又茅の類を屋根又は壁に使用していることも推される。昭和63年度調査時の焼失竪穴建物跡の状況から鈴木先生が床の存在する可能性を指摘されており、次第に建物の様子が判ってきたと言えよう。

土壙に幾つかの類型のあることを想定していたが、その一つが井戸である可能性が強くなってきた。今後は同じような土層堆積を持つものの覆土中の遺物等は勿論、内部・底部等の土質・位置等を細かく検討し、明確にしていく必要がある。

柵列が台地の端部を一巡することはほぼ確かであろう。場所による作り変えの回数、柱位置・柱間等更に留意していきたいところである。

勝山館の様子が幾分見えて来そうにも思えるが遺構・遺物の分析は共に不充分のままであり、なお一層の努力を期さなければならない。

今年も多くの諸機関・諸先生、諸先輩の皆様からたくさんのご厚情を頂戴しながらご迷惑をおかけするばかりであった。甚だ勝手ながら増々のお力添えとご指導をお願い申し上げる次第である。

図　　版

PL. 1 遺跡遠景・遺構検出状況

勝山館跡主体部全景（南西夷王山より）

遺構検出状況（南東から）

PL. 2　遺構検出状況他

遺物出土状況(青磁)

鍛冶・鋳造跡出土状況(銅地金・羽口)

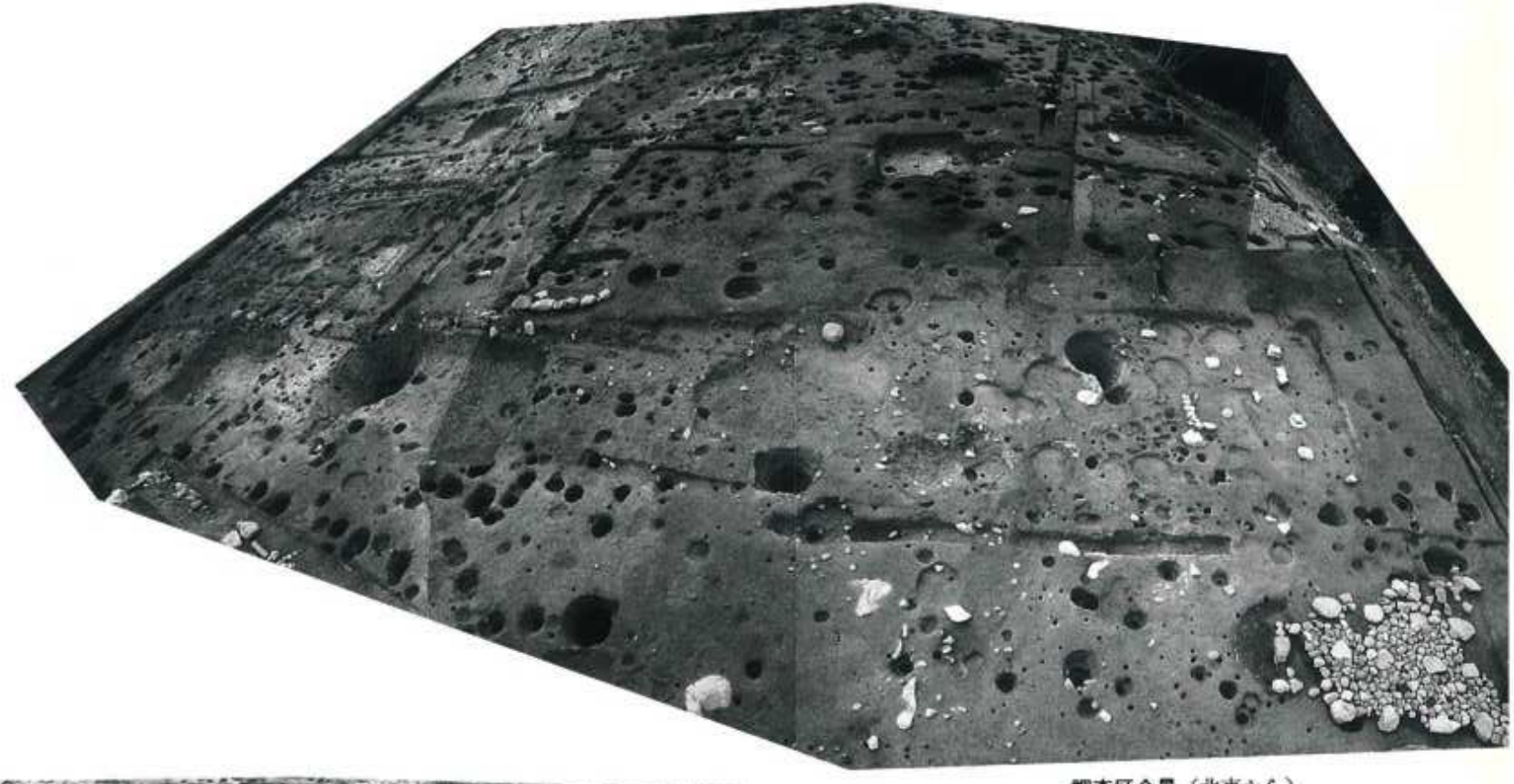
鍛冶・鋳造跡(上)

第45号 竪穴建物跡(下)

遺物出土状況 (染付)

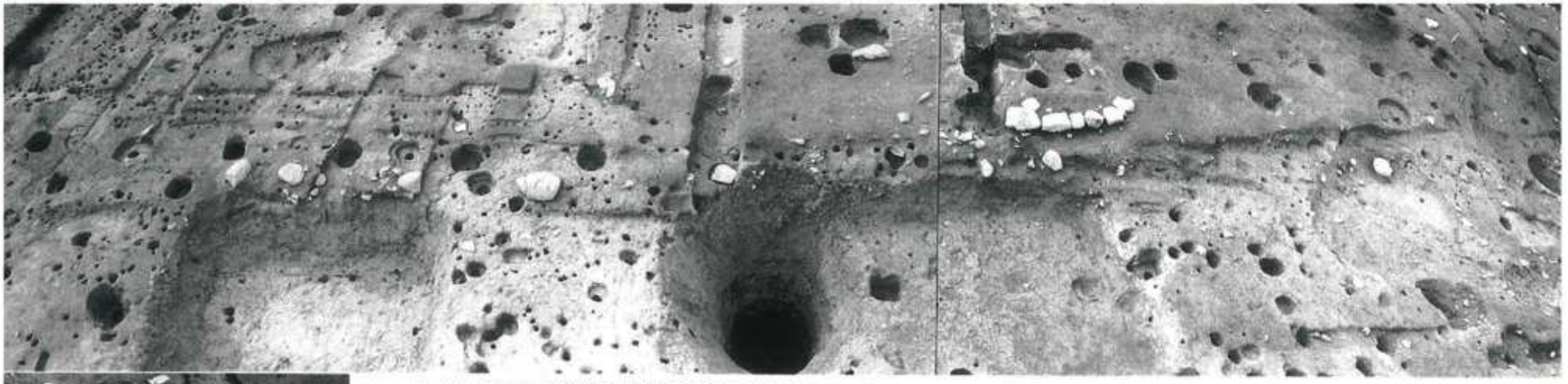
土壙41 壙底(上)

井戸跡上部石積・遺物



調査区全景（北東から）

調査区全景（南西から）



1　段、柱(柵・塀？)礎石列検出状況(北東から)
(手前中央井戸跡、左右は竪穴状土壙)

2　礎石列――柱列は未検出、炭化材・焼土が見られる

3、4踏石状石積

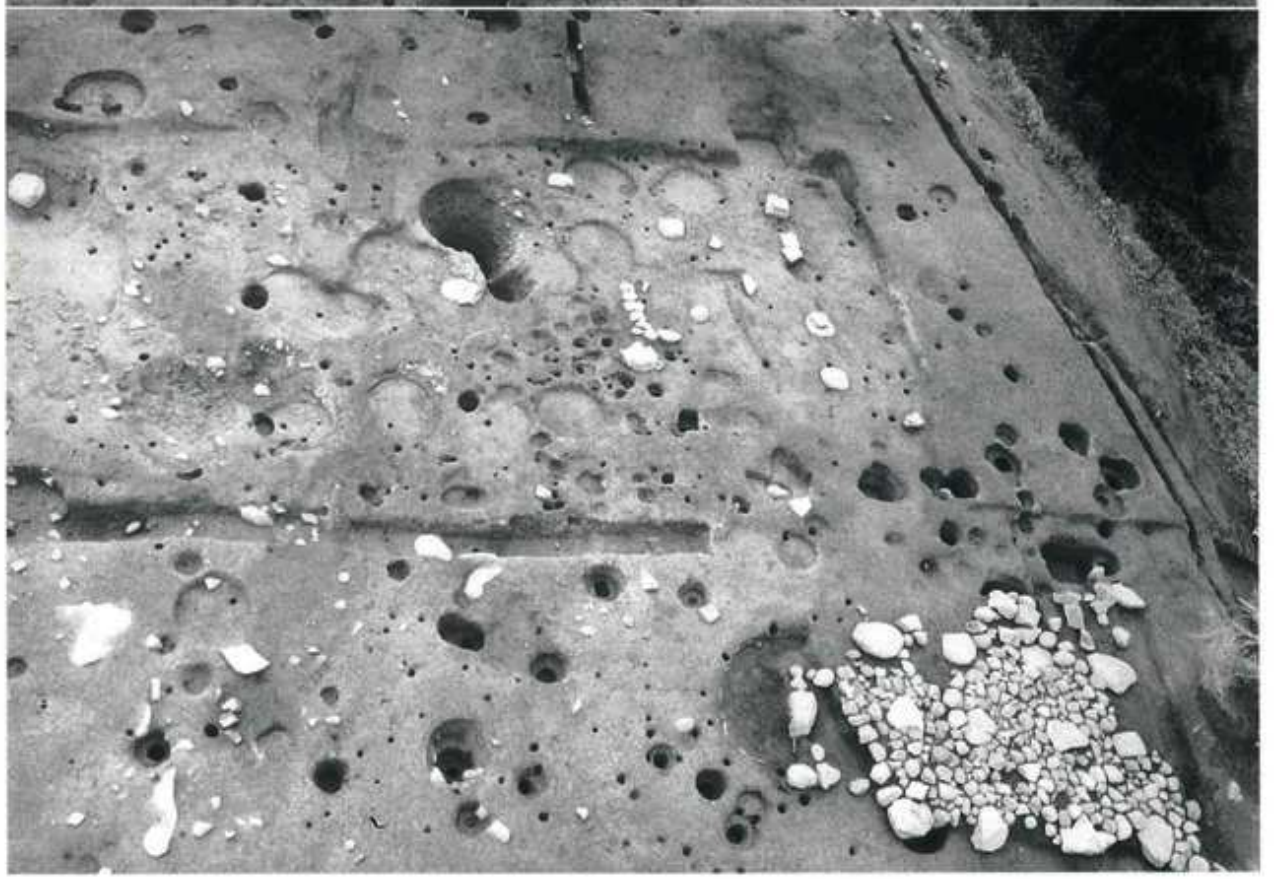
砂利分布状況（東から）

砂利分布状況一右下羽口他（北東から）

鎌出土状況

礎石下断面（右）

土壙9



PL. 7 竪穴状土壙・井戸跡

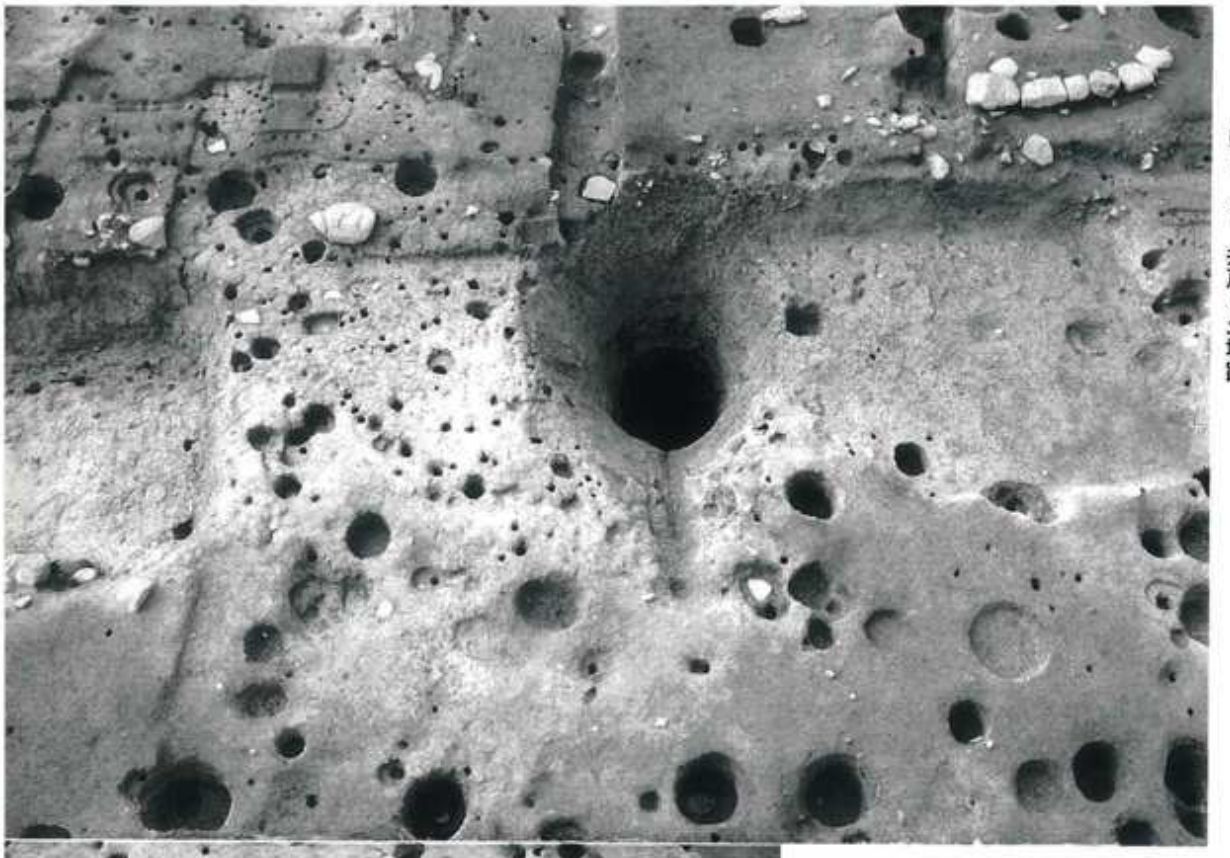
竪穴状土壙土層堆積

竪穴状土壙

井戸跡上部土層堆積

井戸跡上部集石

PL. 8 井戸・土壙跡



井戸跡（北西から）

井戸跡

PL. 9　遺構検出状況

6～9号建物跡（北東から）

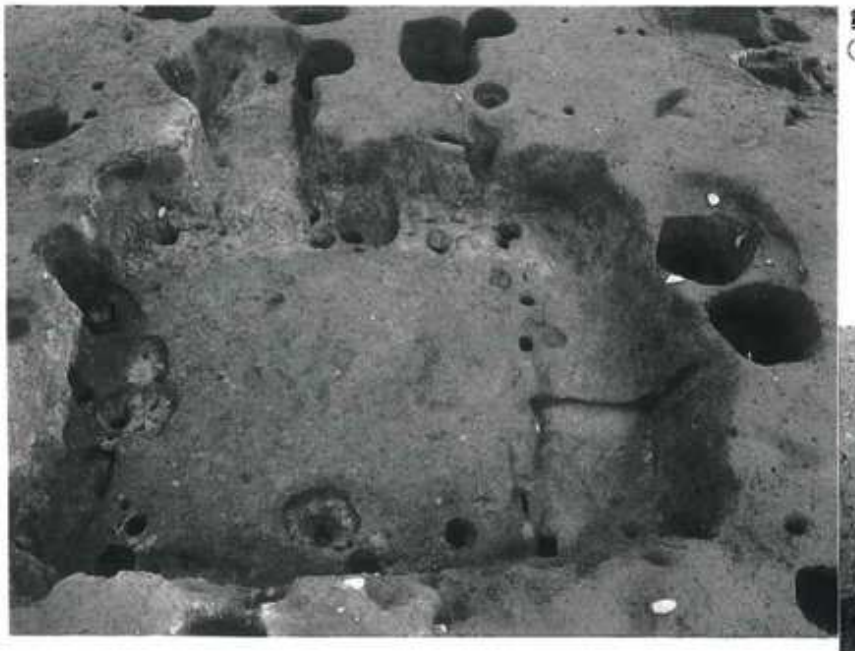
1、2号建物跡（南西から）

4、5号建物跡（北東から）

3～6号建物跡（南西から）

8、4、5、3、2、9、1号建物跡

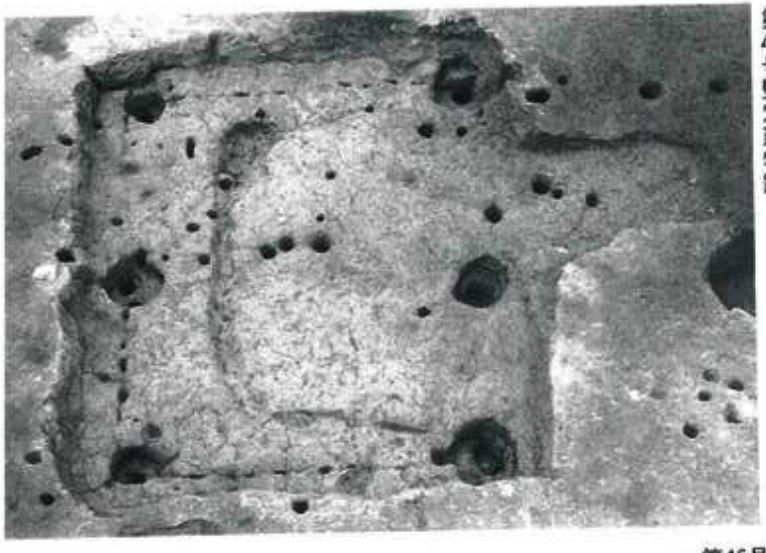
7号建物跡



第45号竪穴建物（南西から）
（北東壁下等に壁板材痕跡がみえる）

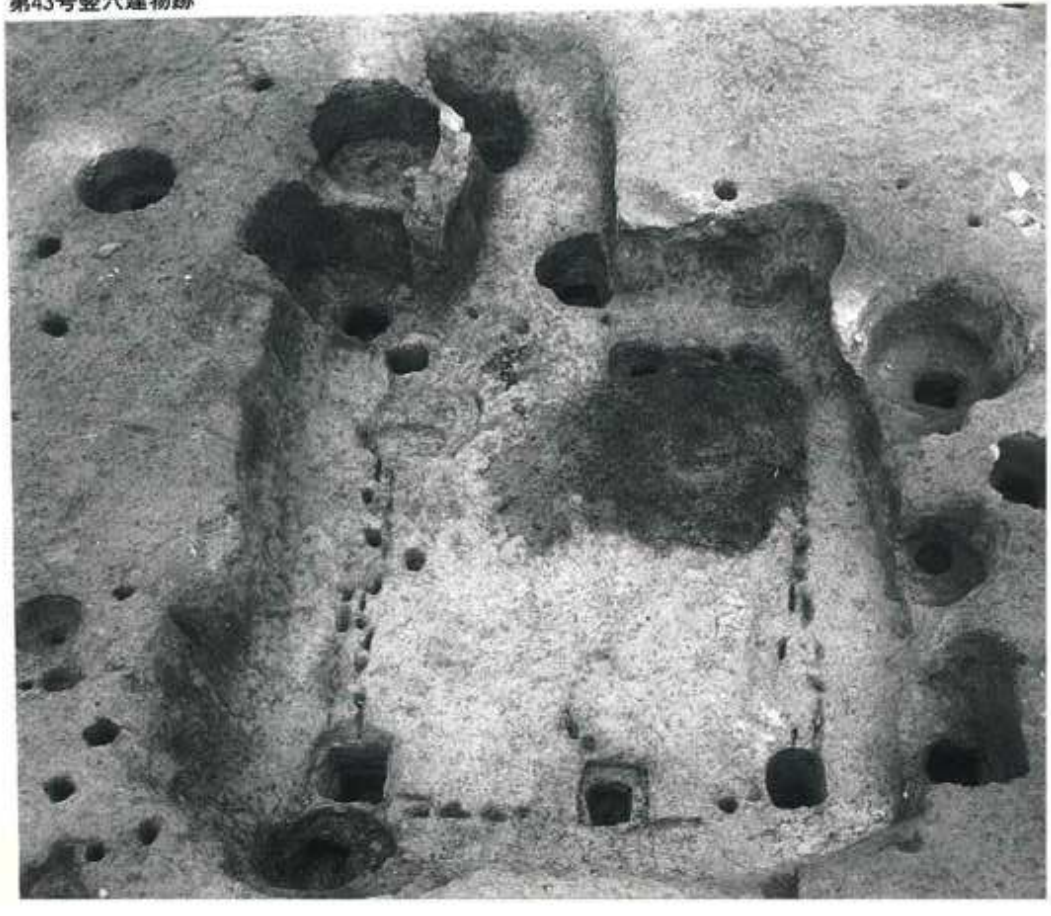
出入口部、鎌、銅銭出土状況

壁板材、東角半柱出土状況



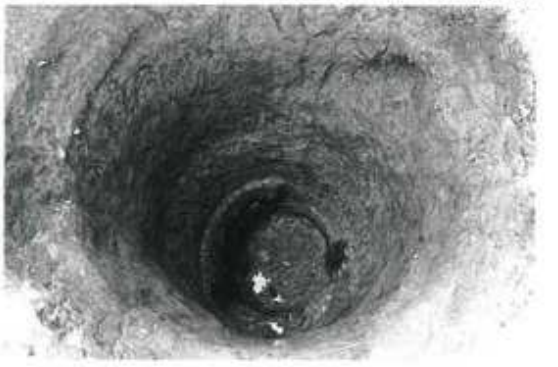
第40号竪穴建物跡

第46号竪穴建物跡



第43号竪穴建物跡

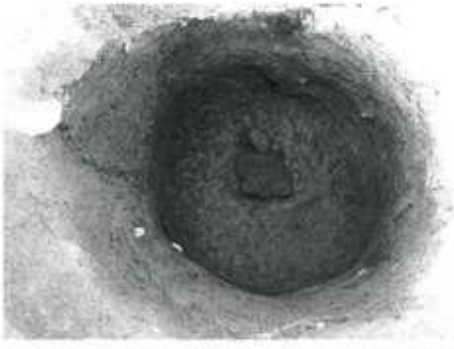
土壙31　（井戸）曲物井枠



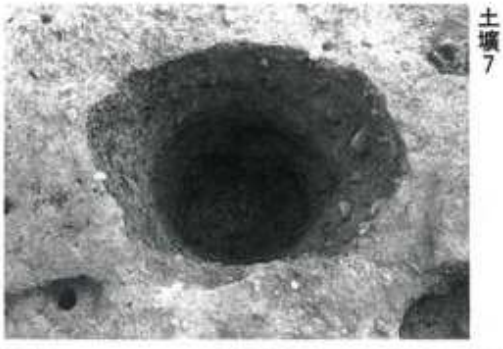
土壙20　遺物一中央右鉄鍋片

土壙31　（井戸）壙底砂利敷

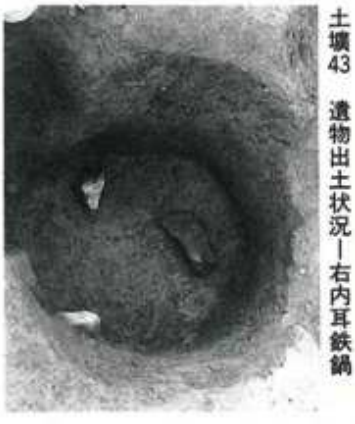
土壙20　土層堆積一左中央粘土層



土壙17　壙底・土層堆積

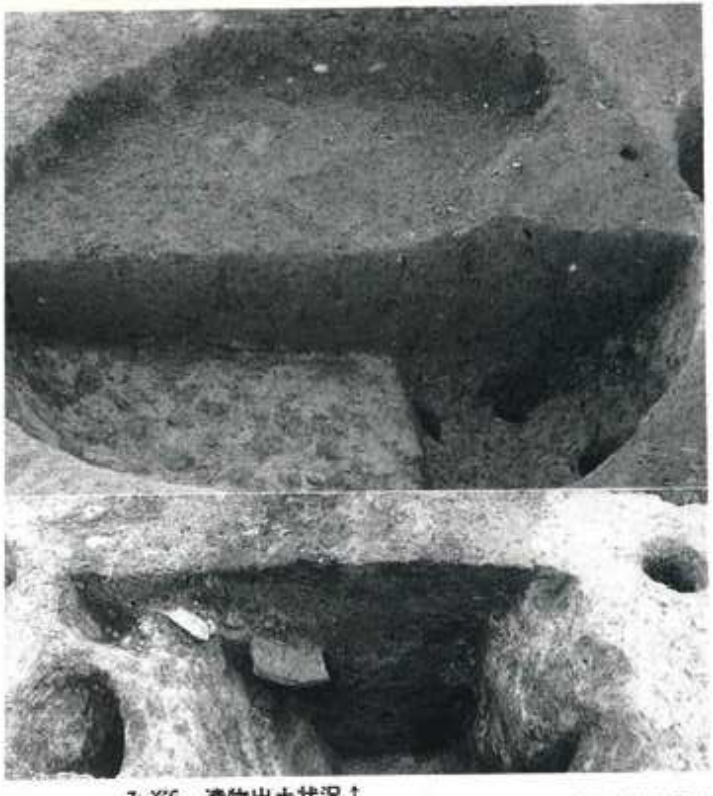


土壙7



土壙43　遺物出土状況―右内耳鉄鍋

土壙13　みぞ6



みぞ6　遺物出土状況↑

18L7　みぞ6　みぞ5　土壙24

柵列跡土層↓

18L7　みぞ

柵列跡検出状況

柵列跡

柵列跡みぞ上部の石列

柵列跡土層堆積

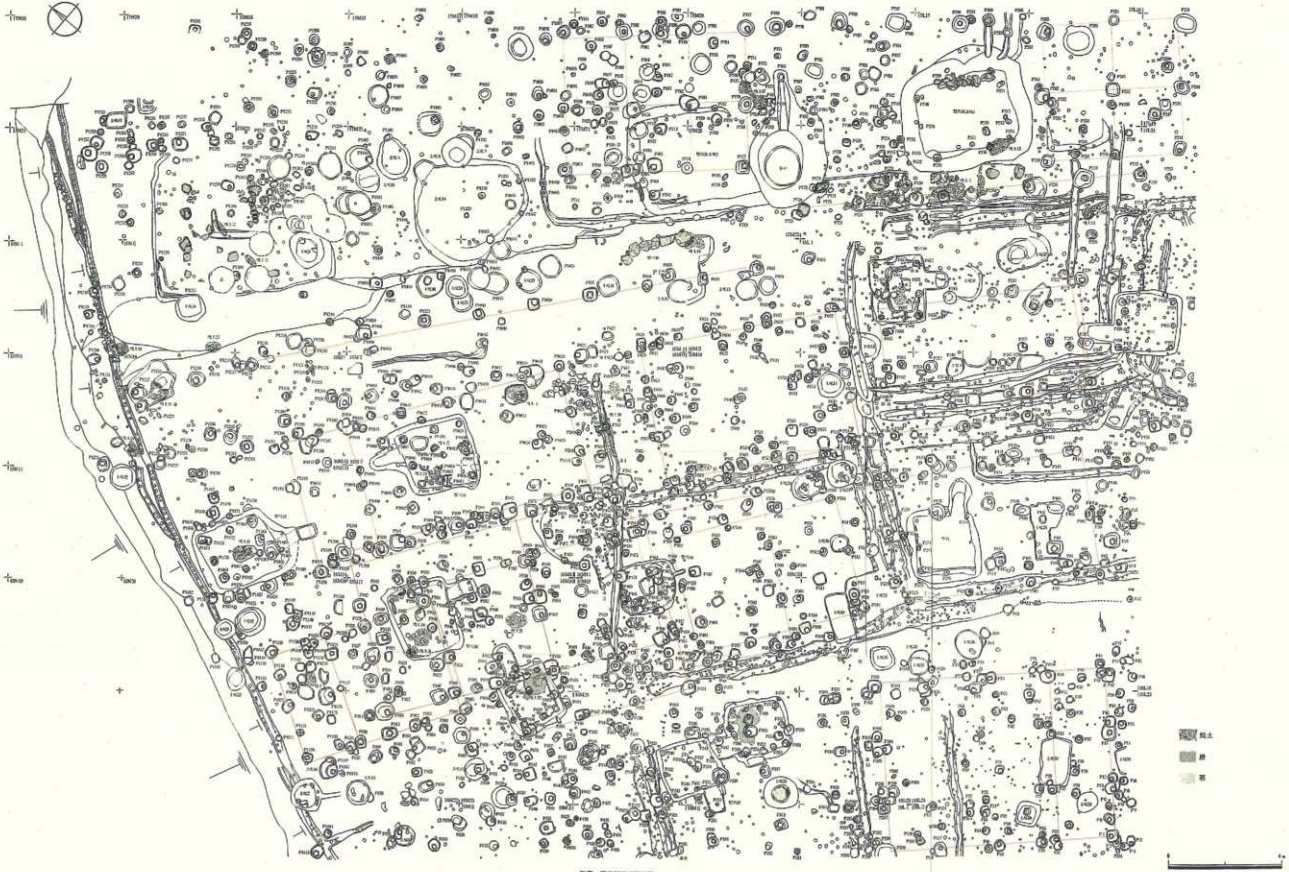
史跡　上之国勝山館跡　XIV

—平成４年度発掘調査環境整備事業概報—

発　行　　上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町大留100

印　刷　　平成５年３月25日

発　行　　平成５年３月31日

印刷所　　㈱北海道機関紙印刷所